

太宰府市文化遺産情報 1

— 文化遺産からはじまるまちづくり —

未来の市民に伝えたい
「今」

平成24年
(2012)

太宰府市教育委員会

「太宰府市文化遺産情報 1」 正誤表

※お手数ですが、以下のとおり訂正いただきますようお願いいたします。

| 頁 | 登録番号 | 名称 | 訂正箇所 | 誤 | 正 |
|--------|-------|-------------------|--------|-----------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| p. 20 | A0072 | 龍門神社 | 文化遺産情報 | 白鳳2年(天武天皇3年、674) | 白鳳2年(天武天皇2年、674) |
| p. 26 | B0006 | 庚申天 | 文化遺産情報 | 天保期(1830~1843) | 天保期(1830~1844) |
| p. 27 | B0018 | 石灯籠 | 名称 | 石灯籠 | 石灯籠 |
| p. 28 | B0027 | 慈母観音(子安観音) | 文化遺産情報 | 昭和48(1974)年 | 昭和48(1973)年 |
| p. 37 | B0077 | 岩屋城合戦犠牲者追悼伝要 | 名称 | 岩屋城合戦犠牲者追悼伝要 | 岩屋城合戦犠牲者追悼伝要 |
| p. 50 | C0023 | 清水谷トンネル | 文化遺産情報 | また、大正5年・・・されなくなつた。 | この時から使われなくなった。 |
| p. 64 | E0039 | 「水城」銘 墨書土器発見場所 | 文化遺産情報 | 第10次調査 (1978年12月1日~1979年1月31日) | 第10次調査 (1978年12月1日~1979年1月31日) |
| p. 89 | F0014 | 玄清法印之墓 | 文化遺産情報 | しかし没後1150年忌この地に特定された。 | しかし明治34(1901)年当地で墓が見つかつたとされ、没後1150年忌を記念し、昭和43(1968)年に墓所が営まれた。 |
| p. 92 | F0037 | 観音堂と観音像 | 名称 | 観音堂と観音像 | 観音堂と観音像 |
| p. 94 | F0053 | 閼風 | 所在場所 | 坂本 | 坂本1丁目 |
| p. 98 | F0072 | 都督府古址 | 名称 | 都督府古址 | 都督府古址跡 |
| p. 105 | F0121 | 岩屋城合戦 関連石造物3 | 所在場所 | 太宰府(西王寺山) | 大宰観世音寺 |
| p. 106 | F0128 | 坂本のダブリュウ | 所在場所 | 坂本 | 観世音寺4丁目 |
| p. 108 | F0146 | 旧小字標 油田 | 名称 | 旧小字標 油田 | 旧小字標石 油田 |
| p. 113 | G0001 | 落合橋 (おちあいばし) | 文化遺産情報 | 平成18年(2007)9月 | 平成18年(2006)9月 |
| p. 115 | G0023 | 都府樓団地夏祭り | 所在場所 | 都府樓団地 | 都府樓3丁目(都府樓団地) |
| p. 114 | G0022 | 都府樓教員住宅 | 文化遺産情報 | 23(2011)年に | 平成23(2011)年に |
| p. 128 | H0038 | 国鉄鹿児島本線 赤城五道架橋 | 所在場所 | 向佐野 | 向佐野2丁目 |
| p. 131 | H0062 | 水城跡 | 所在場所 | 国分・市外(大野城市) | 直松1丁目~2丁目・市外(大野城市) |
| p. 132 | H0064 | 水城・線路切り通し | 所在場所 | 直松 | 直松2丁目 |
| p. 134 | H0080 | 宮産祭 | 所在場所 | 大佐野地区 | 大佐野3丁目 |
| p. 134 | H0081 | 宮産祭 | 所在場所 | 大佐野(地祇神社 公民館) | 大佐野3丁目(地祇神社 公民館) |
| p. 135 | H0083 | 池ん谷の池 | 所在場所 | 大佐野(光妙教会敷地内) | 大宰大佐野(光妙教会敷地内) |

太宰府市文化遺産情報 1

— 文化遺産からはじまるまちづくり —

未来の市民に伝えたい

「今」

平成 24 年

(2012)

太宰府市教育委員会

序

平成 16 年度に策定しました『太宰府市文化財保存活用計画』にて、本市のまちづくりの方針として「文化遺産からはじまるまちづくり」を表明し、その後実務計画として策定した『太宰府市民遺産活用推進計画』と併せて、『太宰府市歴史文化基本構想』を立ち上げ、平成 22 年度から実践へと移してきました。これら全ての計画の基本には、太宰府市民が未来の市民に伝えていきたいと思う「文化遺産」が基礎にあり、市民の皆さんが自らの力で集めてきた情報が、全ての出発点であると考えています。

本書に収録された文化遺産に関する情報は、太宰府市民遺産を構成する上で、最も基礎的な情報で、なによりも自主的に参加された市民の力で収集されたものです。併せて、現在の「太宰府」を語る上で、多様で貴重な情報であるということが誇れる成果と言えます。

「文化遺産からはじまるまちづくり」を進める上のキーワードとして、太宰府市民遺産の取り組みを促進するために、本書が基礎的な情報となり、多くの方々に活用していただけることを願います。

最後に、本書を作成するにあたり、太宰府に関わる多様な文化遺産を収集していただいた文化遺産調査ボランティアの皆さん、そして情報を提供いただいた市民の皆さまに心より感謝申し上げます。

平成 24 年

太宰府市教育委員会

教育長 關 敏治

目次

| | |
|--------------------|-----|
| 1. 本書の説明 | 1 |
| a. 目的 | 1 |
| b. 文化遺産情報の見方 | 1 |
| 2. 文化遺産情報 | 3 |
| 3. 文化遺産調査 | 4 |
| a. 文化遺産調査 | 4 |
| 文化遺産情報 | 6 |
| A 地区 | 8 |
| B 地区 | 22 |
| C 地区 | 44 |
| D 地区 | 51 |
| E 地区 | 57 |
| F 地区 | 84 |
| G 地区 | 110 |
| H 地区 | 121 |
| 4. 文化遺産から太宰府市民遺産へ | 136 |
| a. 本書の活用方法 | 136 |
| b. 文化遺産からはじまるまちづくり | 136 |
| c. 太宰府市民遺産 | 137 |
| d. 行政計画の中の文化遺産 | 138 |
| 附編 | 141 |
| 1. 文化遺産調査ボランティアの活動 | 141 |
| 2. 基本文献一覧 | 143 |
| 索引 | 147 |

1. 本書の説明

a. 目的

本書は、平成20年度より開始し、平成23年12月までに収集できた文化遺産に関する調査報告です。ここに収録した文化遺産に関する情報は、市民有志による文化遺産調査ボランティアを結成し、多様な感性で、未来の市民に伝えたいモノを収集していただきました。そこには、市役所が主動しつくり出した偏った見方から抽出されたものではなく、参画された市民の方々の様々な思い、未来の市民に伝えたい「今」を表現した多彩な文化遺産の情報です。

本書に収めた内容は、市域を8つの地域に分け、各々に所在する文化遺産に関する説明を記しています。8つに分けた方法は、7つの小学校区を基本としつつも小学校区の範囲、町名、大字界など様々な要素を考慮した上で分けています。それぞれの範囲は、図2に記していますので、そちらをご参照ください。

b. 文化遺産情報の見方

●地図表記

地区割線：地図内の青線は、8つの地区割りを表現した線です。

町名線：地図内の赤線は、町名ならびに丁目境界を表現した線です。

文化遺産番号：以下の要領で表現しています。

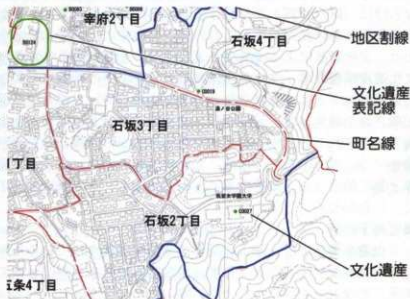
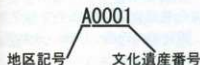


図1. 文化遺産地図の見方

文化遺産解説：文化遺産調査で収集されたものの内、個人所有など公開できないものを除いた情報を掲載しています。また、解説内容は、可能なかぎり多くの文化遺産を掲載したいため、概略の説明に留めています。更に詳細な情報をお知りになりたい場合は、下記の機関にお尋ねください。

文化遺産調査で収集されたもの内、個人所有など公開できないものを除いた情報を掲載しています。また、解説内容は、可能なかぎり多くの文化遺産を掲載したいため、概略の説明に留めています。更に詳細な情報をお知りになりたい場合は、下記の機関にお尋ねください。

- | | |
|--------------------------------------------|----------------------------------|
| ①太宰府市教育委員会 文化財課 電話：092-921-2121 (内線470) | ②(財)古都大宰府保存協会 電話：092-922-7811 |
| ③太宰府市史資料室 電話：092-921-2322 | ④太宰府市文化ふれあい館 電話：092-928-0800 |

●記載事項

文化遺産調査で収集された情報には、物件名称、所在地、由来・経緯、概要・特色・現状、関連文献など5項目にわたります。その中から、名称(文化遺産名称)、登録番号(地図番号と一致)、時代区分、所在場所、文化遺産写真、文化遺産情報を掲載しています。文化遺産情報の解説文章は、収集された5項目の情報を集約し、物件を表現していると判断される内容で表記しています。各情報の見方については、以下の要領をご参照ください。

時代区分：物件を表現するに相応しいと判断される時代を表記しています。文化遺産個々によって代表する年代に、築造年、使用年、廃絶年、継承年など様々な捉え方があるため、そのものの

時代性を最も表現していると判断される時代で表記しています。

概ね、時代区分は、以下のように捉えて表記しています。

原始（人の出現から飛鳥時代まで）、**古代**（奈良時代から平安時代中期まで）、**中世**（平安時代後期から戦国時代まで）、**近世**（織豊時代から江戸時代）、**近代**（明治時代から昭和時代前期【第2次世界大戦まで】）、**現代**（昭和時代後期以降）。自然物については、植樹時期などが明らかな場合を除き、特記していません。なお、現代に造作された溝でも、施工時期が遡る可能性があるものは、明らかになった施工時期を記していますが、由来不詳などのため明らかにできないものは「-」表記をしています。

所在場所：自然物で、場所特定を避けた萌芽望ましいと判断されるものもあるため、丁名表記で留めています。

●収集された情報

写真情報：文化遺産調査ボランティアの活動で収集された写真は、太宰府市教育委員会文化財課ならびに（財）古都大宰府保存協会にて保管しています。また太宰府市史資料室ならびに太宰府市文化ふれあい館が収集したものは、両機関にて保管しています。なお収集された写真情報の貸出は、文化遺産によって異なりますので、上記機関までお尋ねください。

文化遺産情報原本：文化遺産調査ボランティアの活動で収集された調査に関する情報は、全て文化遺産カードとして記載され、その原本は（財）古都大宰府保存協会にて保管しています。なお記載された諸情報は、可能な限り文化遺産情報としてデータ化され検索することができるように情報処理されています。また太宰府市教委文化財課、市史資料室、文化ふれあい館が収集した諸情報については、個々の機関にて管理保管されていますが、全ての情報は、先述した文化遺産情報として統合され、閲覧することができます。その際には、下記手続きが別途必要となりますので、あらかじめご了承ください。

■閲覧手続き

文化遺産情報には、個人に関する情報が記載されているため、文化遺産によっては全ての情報を開示できない場合があります。また開示できるものについても、閲覧者の氏名、住所、連絡先、使用目的などをお尋ねした上でご覧いただきます。

■本書の制作

本書は、文化遺産調査ボランティア活動の事務局である（財）古都大宰府保存協会と、文化庁の受託事業として実施した文化財総合的把握モデル事業の受託団体であった太宰府市教育委員会文化財課ならびに、関係課として太宰府市都市整備課の三者で作成しました。制作にあたった各団体の組織は、以下のとおりです。

【太宰府市教育委員会】

| | | | |
|----|--------|------|-------------|
| 総括 | 教育長 | 關 敏治 | |
| 庶務 | 教育部長 | 齋藤廣之 | |
| | 文化財課長 | 井上 均 | |
| | 保護活用係長 | 菊武良一 | |
| | 調査係長 | 池本義彦 | |
| | 事務主査 | 橋川史典 | |
| 調査 | 主事 | 古川あや | |
| | 主任主査 | 山村信榮 | 中島恒次郎（編集総括） |
| | | 井上信正 | |
| | 技術主査 | 高橋 学 | 宮崎亮一 |
| | 主任技師 | 遠藤 茜 | |
| | 技師（嘱託） | 白石溪呀 | |

【太宰府市】

| | | |
|---------------|--------|--------------|
| 総括 | 市長 | 井上保廣 |
| 庶務 | 建設経済部長 | 神原 稔 |
| | 都市整備課長 | 今村巧児 |
| 景観・歴史のまち推進係々長 | | 城戸康利（文化財課併任） |
| | 主任主査 | 佐藤政吾 |
| | 主事 | 大塚春菜 |

【(財) 古都大宰府保存協会】

| | | |
|----|--------|------------------------|
| 総括 | 理事長 | 佐藤善郎 |
| 庶務 | 事務局長 | 重松敏彦（調査総括） |
| | 嘱託職員 | 鶴浜京子 中村由起 |
| | | 山本典子（調査担当） 星原めぐみ（調査担当） |
| | 臨時勤務員 | 猿渡克己 森 靖幸 桑野満典 |
| | 文化財調査員 | 高橋史子 |
| | 集計労務員 | 武石智恵 雨森史枝 尾花純子 田中健一 |
| | | 瀬戸口みな子 市川晴美 吉村有紀 |

なお、本書の作成は、文化遺産調査ボランティアの統括を重松敏彦、山本典子、星原めぐみが行い、収集された文化遺産情報の基礎整理を山本典子、高橋史子、田中健一が行いました。その後、文化遺産データベースの追補訂正については、各部門統括である重松敏彦ならびに中島恒次郎とともに高橋史子、田中健一の兩名を加えた4名で議論を行い、森弘子氏（福岡県文化財保護審議会委員 太宰府発見塾々長）の御指導のもと、本書掲載の文化遺産情報としました。森弘子氏に記して感謝申し上げます。

本書記載の文化遺産情報は、高橋史子、田中健一、尾花純子が整備作成し、その他の文章ならびに編集は中島恒次郎が行いました。なお、文化遺産データベース原本である文化遺産情報（文化遺産カード、写真情報など）は、先述したように文化遺産調査ボランティアの統括事務局である(財) 古都大宰府保存協会にて保管しています。

なお、文化遺産情報内における挿入イラストについて、以下の方々の協力を得ました。記して、心より感謝申し上げます（敬称略）。

江上真太郎、福井円、中島志野

2. 文化遺産情報

市内の7つの小学校区を基本とし、小学校区の範囲、町名界、丁目界、さらには所在する文化遺産数などを考慮し、8つの地区に区分しました。また太宰府に関わる文化遺産は、特別史跡基肆城跡をはじめ近代初期に周辺各地に避難のため持ち出された太宰府天満宮の仏像など市域の外に広がるものも多々存在しており、本来は太宰府に関わる文化遺産情報としては、これらを含めたものを掲載する必要があります。しかし、市域外の太宰府に関わる文化遺産については、十分整理がついていないこともあり、今回の報告からは除外しました。今後改訂版を検討する際には、太宰府に関わる文化遺産として掲載していきたいと思えます。

aA 地区

市城北東部、大字北谷・内山、そして御堂地区を対象地区とします。なお宝満山に所在する文化遺産については、未収録です。今後収録していきます。

bB 地区

市城東部の太宰府天満宮を含む地区で、大字太宰府、三条、宰府、連歌屋を包含します。

cC 地区

市域東部で五条ならびに白川地区を指します。

d.D 地区

市城南東部で、昭和40年代以降に宅地化された地域ですが、昔ながらの景観を留めた場所も残されています。高雄、梅ヶ丘、梅香苑地区を包含します。

e.E 地区

市域北部、水城、国分、吉松地区が包含されます。

f.F 地区

市域中央部北寄りで、大宰府政庁跡など主要な大宰府関連史跡群を含む地域です。坂本、観世音寺を含み、通古賀、五条地区が僅かに入ります。

g.G 地区

市域中央部南寄りで、朱雀、通古賀、都府楼南から主に構成され、坂本ならびに観世音寺が僅かに入ります。

h.H 地区

市城南西部に位置し、吉松を含みつつ、多くは向佐野、大佐野という佐野地区から構成されます。

3. 文化遺産調査

平成16年度に策定した『太宰府市文化財保存活用計画』において、市域に点在する文化遺産を、九州芸術工科大学（現九州大学）の協力のもと悉皆調査が実施され、ほぼ5,000件近くの文化遺産に関する情報がデータ化されました。この時の調査は、文化財保護法に規定されない市域に点在する様々な「古そうなモノ」全てを対象に情報収集が行われ、その結果として多様な「記念物」的遺産が拾い集められました。モノだけでなく行為の産物である行事も併せて市史編纂の際収集された情報を基礎に拾い集められました。細部に渡る情報が収集されましたが、ひとつ課題が残されました。それは、文化遺産を見守る行為が生まれなかったことです。その課題を克服するために、平成20年度から再度開始された文化遺産調査は、①市民ボランティアによって調査者を構成する。②自らが未来の市民に伝えたいモノを調査対象とするという二つの考えを掲げ調査に着手しました。①については、昭和60年に発足した大宰府史跡解説員制度というボランティア活動の原点がある太宰府ゆえに、100名近い参加者を得ることができた。一方調査対象物については、一部の人間の意図による拘束を避けるため、あえて対象物を与えず、自らが未来の市民に伝えたいモノという漠然とした表現で調査を御願した。しかし結果として、不明確な対象物という印象を参画された調査員の方々に抱かせ、調査開始当初は意思の浸透に相当な時間を要してしまいました。時間の経過とともに、調査対象物に関する意思が次第に浸透し、昭和40年代に造成された団地では、文化遺産は無いと困っておられた班で、自治会活動の記録の中に、市民図書館設立の基礎となった出来事が記されたり、日々の散歩道からみる宝満山の「雄姿」を見ることのできる場所が記載されるなど、文化財課職員の狭い技量では計り知れない多種多様なものが集まってきました。いわば、平成23年までの「太宰府」が記録されているといえます。

a. 文化遺産調査

平成20年度から市民参画型の文化遺産調査活動は、当初100名近い参加者を得、スタートしました。その後、事務局の説明不足から講義型の文化遺産講座と誤認された方々の欠席を招きましたが、平成22年度まで86名の方々が参加していただきました。その後、平成23年度を迎えるにあたり、文化遺産調査の今後のあり方を議論していただいたと、積極的な継続要望が出され、平成23年度も62名の方々の参加がありました。

文化遺産調査は、ボランティア参加していただいている方々の身近な文化遺産を調べていただくことを目的として、市内在住者の方々は、住んでいる小学校区を調査範囲として活動を御願しました。市外から参加いただいた方々は、適宜班編制の人数バランスを考慮して各班へ割り振

りを行い参加していただきました。

それぞれの年度ごとの参加者は、以下のとおりです。

■文化遺産調査ボランティア参加者【平成22年度 86名】

荒井慶子 飯野昭夫 石川富美江 石黒加枝子 井土善博 稲田和子 井上和代 井上侘子
 今泉美子 大浦健児 大河内トシ子 大田和子 大坪久仁子 大場 明 大藪善治 奥野 悠
 尾沢 勝 尾仲博子 鬼丸康治 川瀬満知子 川野隆生 神寄祐雄 北原雅子 草場徳生
 工藤常泰 久保田久美子 小沼秀人 近藤佐代子 齋田恒子 齊藤マチ子 齋藤喜徳 佐伯
 誠 酒匂輝昌 猿渡節子 清水康子 白石常雄 菅原靖子 杉谷朝雄 関 久江 高木保幸
 田島哲生 堤 克哉 寺田七郎 徳光芳文 富田サナエ 富田 進 中尾武史 長尾多重子
 中澤雄二 中島伊佐子 長野瑞子 中村 昭 中山虎夫 菜畑健治 西岡文敏 西田省三
 二宮正美 野中美由喜 萩原圭司 橋口郁朗 八谷知子 濱晋一郎 林きよみ 早瀬ひろ子
 姫野英一 深川勝重 深野容子 藤田百合子 藤丸 健 本田 圭 増野芳枝 松尾セイ子
 松尾満子 松尾保伸 松岡良一 松田良治 迎 明子 村山哲勇 壺尾幹雄 森田敏博
 森山幸美 焼山正憲 矢野文夫 八尋千世 山崎俊治 山田乃ぞみ

■文化遺産調査ボランティア参加者【平成23年度 62名】

相野久枝 荒井慶子 飯野昭夫 石川富美江 石黒加枝子 井土善博 井上和代 井上侘子
 内村桂典 大浦健児 大坪久仁子 大場 明 大藪善治 尾沢 勝 鬼丸康治 川瀬満知子
 川野隆生 工藤常泰 久保田久美子 小沼秀人 近藤佐代子 齋田恒子 佐伯 誠 酒匂輝昌
 猿渡節子 白石常雄 杉谷朝雄 陶山真弘 関 久江 田島哲生 堤 克哉 寺田七郎
 富田サナエ 富田 進 中尾武史 長尾多重子 中澤雄二 長野瑞子 中村 昭 菜畑健治
 西岡文敏 西田省三 二宮正美 野中美由喜 橋口郁朗 林きよみ 早瀬ひろ子 姫野英一
 深川勝重 深野容子 藤丸 健 本田 圭 増野芳枝 松尾セイ子 松尾満子 松尾保伸
 松岡良一 松田良治 村山哲勇 森田敏博 焼山正憲 山崎俊治



文化遺產情報



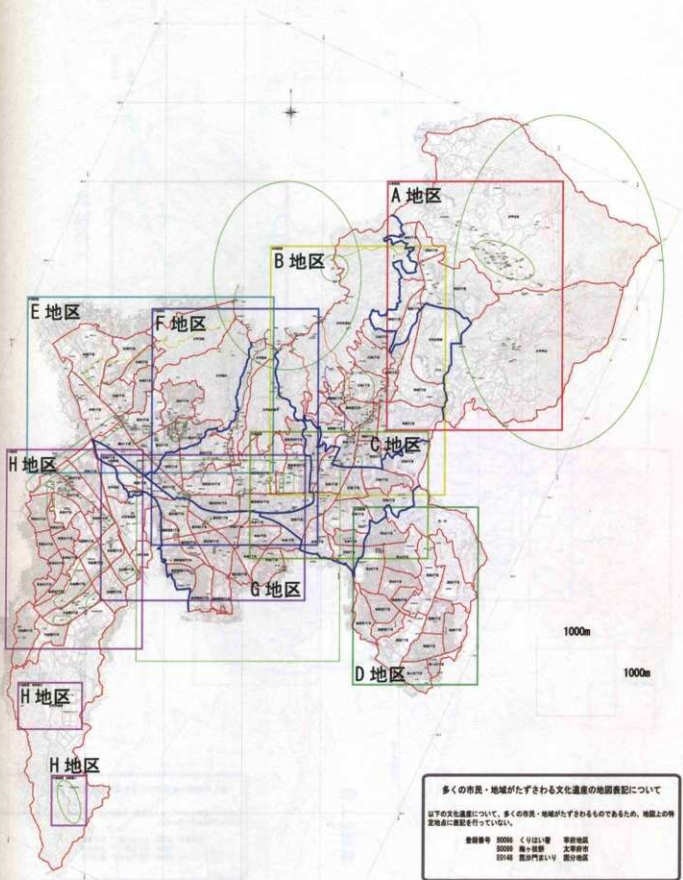


図2. 地区解説図

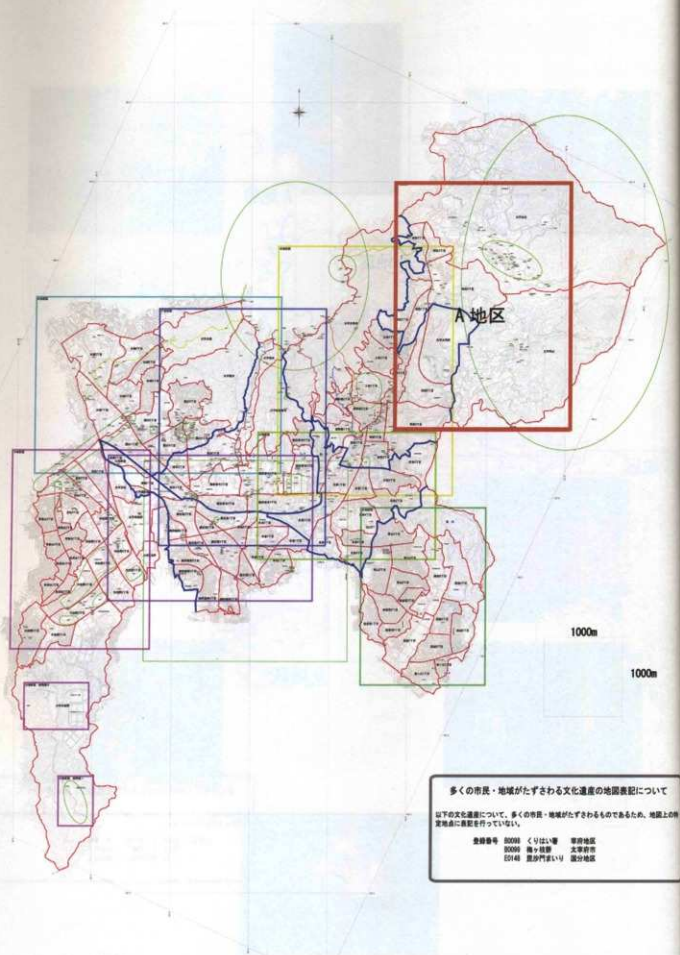
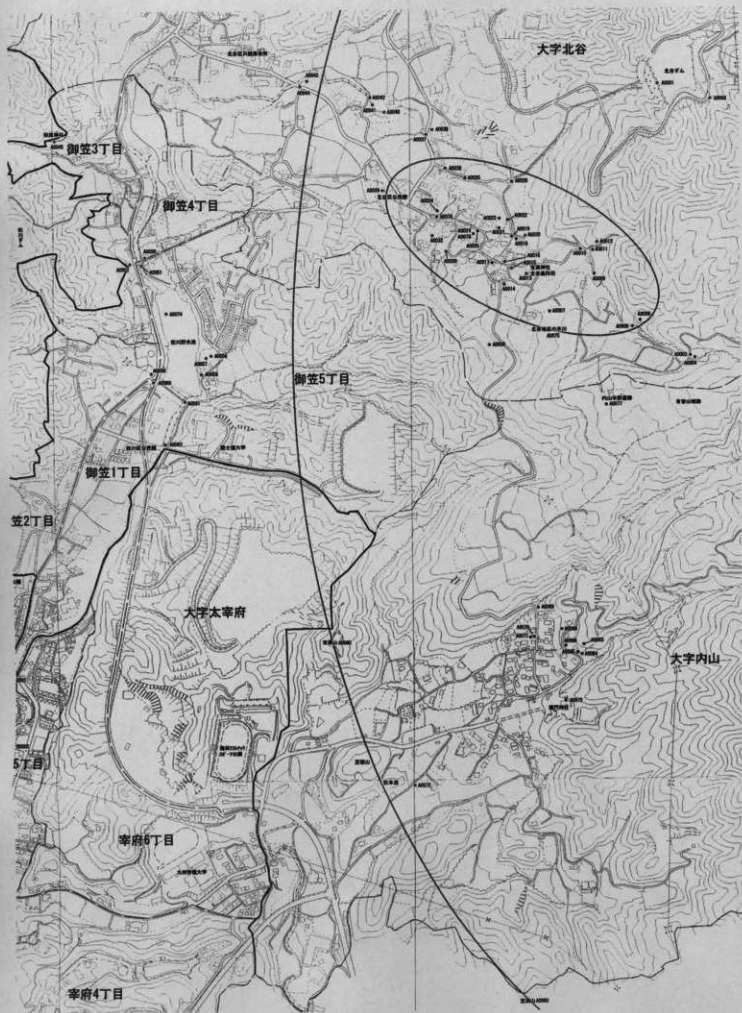


図 3. A 地区位置図



名称 北谷ダム

登録番号 A0001  現代

所在場所 北谷



山の神川の支流にある多目的ダム。県営北谷ダムとして平成11年(1999)11月に完成し、総貯水量は251,000立米。貯水は、灌漑用水補給、既得用水の安定化、河川環境の保全などに利用されている。

名称 山の神

登録番号 A0002 

所在場所 北谷



北谷区で祭られている山の神様。本来ダムの下流に祀られていたが、北谷ダム建設(昭和63年度着工)により、現在地に移された。

名称 宝満山橋

登録番号 A0003  現代

所在場所 北谷



御笠川に架かる橋の中で最も上流に架かる橋。福岡営林署によって昭和49年(1974)に竣工したものである。

名称 一のイデ(小野井手または一番井手)

登録番号 A0004 

所在場所 北谷



北谷地区の高所の水田への取水口。側溝の中に水量の調整をするための大きな石(ハネ石)がある。

名称 二のイデ

登録番号 A0005 

所在場所 北谷



北谷地区を流れる、御笠川に設けられた取水口のイデの1つ。ここで取り込まれた水は、井川を通過して北谷宮ノ下地区へと流れていく。名前の由来は、北谷地区にある御笠川のイデのうち、上流から二番目に位置することからと考えられる。

名称 新溜池・新池

登録番号 A0006  近代

所在場所 北谷



北谷地区を流れる御笠川上流部沿いに位置する溜池。近代に造られたもので、面積は1,206㎡。現在は防火用水として使用されており、地元では「火事の時は絶対に使ってはならない」と言い伝えられている。

A 地区

名称 しかけ水路

登録番号 A0007

所在場所 北谷



この水路は、二のイデから北谷地区内に流れ込む井川の途中から分かれ、谷池に入れ込む為のもの。谷池の水を使っている人達で、水路の掃除を定期的に行っているとのこと。

名称 谷池

登録番号 A0008

所在場所 北谷



明和4(1767)年頃、谷ノ池と農業用水路(掛け樋)が完成し、田口・小畑・ロノ坪一帯の畑が水田化されたと伝え聞く。

名称 オッコヤのイデ

登録番号 A0009

所在場所 北谷



地元で「オッコヤのイデ」と呼ばれるもので、田畑へ水を引く取水口。北谷には小字名として「奥小屋」があり、それがなまって呼び名が変化したと考えられる。

名称 イヤノ浦橋

登録番号 A0010

所在場所 北谷



北谷地区を流れる御笠川に架かる橋で、平成17年(2005)5月に竣工したもの。このイヤノ浦橋が架かる御笠川上流部は、「北谷川」とも呼ばれている。

名称 自然石

登録番号 A0011

所在場所 北谷小野



イヤノ浦橋の右側にある自然石で、触ると曇りがあると昔から言われている。

名称 真嘗親王墓

登録番号 A0012

所在場所 北谷小野



高さ143cmほどの自然石の表面に「親世親王墓」と刻まれている。真嘗親王は、鳥羽院の第八皇子で、7才のとき母を亡くして出家し、18才で法眼の位にのぼったが、その後、姿を消したという。法皇は諸国に尋ねたが、実は真嘗親王はこの地にしばらく隠棲していたという。

名称 竈門神社新宮(北谷遙拝所)

登録番号 A0013

近代

所在場所 北谷



地誌類には「宝満宮」「新宮」「新宮宝満社」と様々な表記があり、旧社地は字大黒寺の上にあったといい、元宮の地名が残っている。西南戦争後に社名を竈門神社遙拝所とされたが、ムラ人は氏神様と呼んでいる。祭神は玉依姫命・神功皇后・応神天皇の三神である。

名称 北谷の道標

登録番号 A0014

所在場所 北谷



太宰府市北谷のウジガミの近くにある道標。石には、「左ほうまん 右をたけ山」と彫られている。

名称 共同井戸

登録番号 A0015

所在場所 北谷



昔は、この井戸を共同で使っていたが、現在は使用していない。

名称 たな池

登録番号 A0016

所在場所 北谷



このたな池に、宮ノ下地区における井川利用の基本形を見ることができる。主流の井川と、それから各家に引き込み、洗い物に利用した池の形がよく分かる。

名称 庚申天

登録番号 A0017

近世

所在場所 北谷 宮ノ下



集落を縦断する道(現道)と宝満山へ行く旧道の分かれに置かれた庚申天で、高さ=157cmを測り、天明7年(1787年)建立であることが銘文から読み取れる。

名称 はね石

登録番号 A0018

所在場所 北谷



各家に引き込む水量を調節するため、水路内に石を置いてある。

A 地区

名称 大水避け石垣

登録番号 A0019

所在場所 北谷



川の側に家があるため、洪水の備えに石垣が築かれている。

名称 ウランカワイデ

登録番号 A0020

所在場所 北谷



北谷地区を流れる御笠川にある井手。地域の方からは「ウランカワのイデ」と呼ばれている。周辺の田への灌漑用水を取り込むための取水口であり、昭和40年頃は4.6ヘクタール程の田を灌漑していた。

名称 貴船神社

登録番号 A0021

所在場所 北谷 宮ノ下



水の神様として信仰されている。以前は木造瓦葺の小祠であったが、昭和初期にコンクリートの祠となる。ご神体には白布がかぶせられている。社の下に大きな石があり、その下の水を「貴船様の水」と呼んで飲み水としていた。正月には注連縄が張られ、お餅が供えられる。

名称 別所2号橋

登録番号 A0022

所在場所 北谷



御笠川に架かる橋。

名称 湧水取水口

登録番号 A0023

所在場所 北谷



林の中にあり、大石の下から水が湧き出ている。ここからパイプを引き、家に水を引き込んでいる家がある。

名称 北谷地藏堂

登録番号 A0024

所在場所 北谷宮ノ下



北谷村の小野にあった智光寺の名残であったが、後に現在地に移ったと『筑前国純風土記拾遺』は伝えている。堂内には棟札があり、江戸時代の宝暦2(1752)年4月に建立。本尊の地藏菩薩は像高127cmの檜材一木造であり、平安時代後期の彫刻で、福岡県指定有形文化財。

名称 大師堂

登録番号 A0025

所在場所 北谷 宮ノ下



北谷地区の地藏堂横に所在する。木造トタン屋根の祠内には、石造弘法大師坐像(高さ103cm)、石造地藏菩薩坐像(高さ66cm)が祀られている。個人祈願の対象にもなっており、正月にはムラ内で注連を張り、餅を供えている。

名称 ソイラ2号橋

登録番号 A0026

所在場所 北谷



御笠川の源流の一つである、山の神川に架かる橋。

名称 共同井戸

登録番号 A0030

所在場所 北谷



宮ノ下地区の谷組が利用していた井戸。危なくない様に大きな石を井戸の上に乗せてある。

名称 井戸

登録番号 A0032

所在場所 北谷



個人宅の井戸。現在空地となっている。

名称 共同井戸、共同風呂跡

登録番号 A0034

所在場所 北谷



宮ノ下地区の下組が利用していた共同井戸、風呂の跡で、今は個人の敷地内で、その面影は全くない。

名称 ソイラ3号橋

登録番号 A0035

所在場所 北谷



御笠川に架かる橋。「ソイラ3号橋」のプレートがある。

A 地区

名称 ソイラ4号橋

登録番号 A0036



現代

所在場所 北谷



御笠川に架かる橋。橋名のプレートはないが、平成15年の災害プレートがある。

名称 ソイラ橋

登録番号 A0037



現代

所在場所 北谷



北谷地区を流れる御笠川に架かる橋。昭和58年(1983)2月に竣工したものである。

名称 ソイライド

登録番号 A0038



所在場所 北谷



北谷地区を流れる山の神川に設けられた井手。この取水口から周辺の田へ水を引き込んでいる。江戸時代に記された『享和明細記』には「そはら」と記されている。

名称 大日如来

登録番号 A0039



所在場所 北谷(公民館の裏)



高さ160cmを測る自然石で、梵字が刻まれている。

名称 ミョウカクイデ

登録番号 A0040



所在場所 北谷



ゴタンダイデの少し上流に位置する井手。周辺の田への灌漑用水の取水口で、江戸時代の記録にもその名がみえるものであったが、平成15年(2003)の大水で損壊してしまった。現在はこの水を使っていた農家の方が、自分で石を重ねて水を引き込む様に工夫してある。

名称 ゴタンダイデ

登録番号 A0041



現代

所在場所 北谷



北谷地区を流れる御笠川にある井手。周辺の田への灌漑用水を取り込むための取水口であり、昭和40年頃は5.5ヘクタール程の田に引き込まれていた。

名称 ソイラ5号橋

登録番号 A0042

現代

所在場所 北谷



御笠川に架かる橋。太宰府市建設課によって設置された橋で、平成6年(1994)4月1日より使用開始されたものである。橋の側面には、設置に伴って許可を受けた「河川許可標」のプレートが掲示されている。

名称 八反田イデ

登録番号 A0043

現代

所在場所 北谷



北谷地区を流れる御笠川にある井手。周辺の田への灌漑用水を取り込むための取水口であり、昭和40年頃は3.7ヘクタール程の田を灌漑していた。

名称 八反田橋(はったんだばし)

登録番号 A0044

現代

所在場所 北谷



北谷地区を流れる御笠川に架かる橋で、八反田井堰の少し下流に位置している。橋は、昭和60年(1985)2月に完成したものである。

名称 秋葉神社

登録番号 A0045

近世 近代

所在場所 御笠3丁目(秋葉神社内)



松川(まつこう)区は文化年間(1804~1818)ごろ入植してきた人々によって集落が形成されたという伝承があり、火除けの神である秋葉神社の勧請も比較的新しい時期かと思われる。太宰府天満宮の神職が祭祀を受持ち、松川区によって村氏神同然に大切に祀られている。

名称 一丁坂道路拡張工事記念碑

登録番号 A0050

近代 現代

所在場所 御笠4丁目



大正9年、昭和40年に一丁坂道路を拡張工事した。その記念碑が上下2層に重ねられている。

名称 北谷口橋

登録番号 A0051

現代

所在場所 御笠4丁目・5丁目



御笠川に架かる橋(きただにぐちはし 昭和46年3月竣工)橋の拡張工事により異道側の銘板なし。

A 地区

名称 大師堂

登録番号 A0052

所在場所 御笠3丁目



松川(まつごう)バス停の側にある大師堂。木造瓦葺の祠内に、石造地藏菩薩立像(像高59cm)、石造弘法大師座像(像高27cm)、石造弘法大師座像(像高66cm)が祀られている。

名称 大行事塔

登録番号 A0056

所在場所 御笠5丁目



松川(まつごう)が三条から分離した時に建立された大行事石塔。大正4(1915)年御大典記念に建立。

名称 五穀神

登録番号 A0057

所在場所 御笠5丁目



松川(まつごう)が三条から分離した時に祀られた五穀神石塔。大正4(1915)年建立。

名称 龍頭不動明王院

登録番号 A0058

所在場所 御笠5丁目



松川(まつごう)集会所に不動明王と釈迦如来像をまつり、毎月20日前後に地区の方々が集まり数珠繰りをしている。

名称 県道開通記念碑

登録番号 A0059

所在場所 御笠2丁目



只越(ただごえ)線は、太宰府町〜大字北谷只越〜糟屋郡宇美町に至る道。大正7(1918)年4月2日竣工して三浦橋が完成、この日渡橋式が挙行された。翌8(1919)年12月には記念碑が松川(まつごう)浄水池畔に立てられ、この時の町長古川勝隆氏が寄せた「遷併書」を刻む。

名称 太宰府天満宮の常夜燈

登録番号 A0060

所在場所 御笠1丁目



松川(まつごう)集落から幸府へ入る道にある常夜燈。台座に「日田」を記されている。

名称 松川橋(まつごうばし)

登録番号 A0061

現代

所在場所 御笠5丁目



御笠川に架かる橋。「御笠川(貯水池側)」「みかさかわ(貯水池側)」「松川橋」/「昭和42年3月竣工」

名称 天拝橋(てんぱいきょう)

登録番号 A0062

現代

所在場所 御笠5丁目



御笠5丁目を流れる御笠川に架かる橋。県道35号線と国士館大学を結ぶ橋で、昭和46年(1971)9月に完成した。

名称 式部稲荷下宮

登録番号 A0063

所在場所 内山 御供置谷(宝満山登山口)



御祭神は、倉稻魂命。旧暦2月初午日に、壱門神社境内で「初午まつり」が行われる。奥の院は中宮跡付近にあったようだが、今は危険で寄りつけない。

名称 地藏堂

登録番号 A0064

所在場所 内山 御供置谷(宝満山登山口)



コンクリート造の祠内に、石造地藏菩薩立像が祀られている。

名称 地藏堂

登録番号 A0065

所在場所 内山 御供置谷(宝満山登山口)



コンクリート製の祠内に、石造地藏菩薩立像、石造千手観音坐像1体、石造不動明王坐像が祀られている。

名称 歌碑(春はもえ...)

登録番号 A0066

古代

近代

所在場所 内山 御供置谷(宝満山登山口)



昭和15(1940)年紀元節に設立。寛和二(986)年、肥後守として赴く途次、太宰府で詠んだ連句が「捨(拾力)遣和歌集巻18雑賀」に入集。「春はもえ秋はこがるかまとやま かすみも露もけふりとそ見る 元輔」。作者については諸説あり、清少納言の父としても有名な清原元輔だとする説もある。

A 地区

名称 五輪塔

登録番号 A0068



所在場所 内山 御供屋谷



観音堂の横に祀られている「五輪塔」で、本来「火輪」ならびに「地輪」である部分が「水輪」に置換されている。おそらく周辺に五輪塔が存在している可能性がある。この付近は、むかし少武氏の菩提寺 釈迦院跡といわれている。

名称 金剛兵衛(こんごうひょうえ)井戸

登録番号 A0070



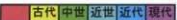
所在場所 内山



刀鍛冶金剛兵衛が使用していたと伝えられている井戸。金剛兵衛は、鎌倉(南北朝)から室町時代にかけて太宰府で活躍していた刀鍛冶の一派。もとは宝満山の山伏鍛冶でその大部分は大宰少武武藤氏に従属した鍛冶集団だったともいわれている。

名称 竈門神社

登録番号 A0072



所在場所 内山



御祭神は、玉依姫命・神功皇后・応神天皇。白鳳2年(天武天皇3年、674)に心霊が啓示を受けて開山したという。上宮は宝満山山頂、下宮はその登山口にあり、明治の廃仏毀釈までは、中宮が中腹の八合目にあった。

名称 猿田彦尊

登録番号 A0069



所在場所 内山本谷



内山本谷(有智山山荘側たにがみばし横)にある猿田彦尊。天保5(1834)年建立。

名称 地藏菩薩

登録番号 A0071



所在場所 内山(金剛兵衛井戸そば)



金剛兵衛(こんごうひょうえ)井戸そばにある像。高さ52cmを測る地藏菩薩像。

名称 地藏菩薩(板碑)

登録番号 A0073



所在場所 内山(地藏原)



元来は、近くの田畠にあったものをここに祀ったという。板碑上部左右に「バーン」「キリーク」、つまり金剛界大日如來の種子と阿彌陀如來の種子がうっすら篆刻してある。浮きぼりの形は地藏にみえるがそうとも言い切れないようだ。今は、お地藏様として信仰を集める。高さ180cm。

名称 松川貯水池(松川(まっごう)ダム)

登録番号 A0074

所在場所 御笠5丁目



都市用水の需要の高まりに応じて昭和40年(1965)に着工され、昭和42年(1967)3月に完成した。総貯水量は約72000〇で太宰府市民にとっての水瓶である。内部にはダム建設に伴って廃止された古川井手の堰の残骸が残っている。

名称 北谷地区の井川

登録番号 A0075

所在場所 北谷



北谷宮ノ下地区を流れる井川(イガワ)の流路。

名称 庚申尊天

登録番号 A0076

所在場所 北谷 宮ノ下



安永3(1774)年建立の庚申尊天。田植え後に、苗束を供える。

名称 内山辛野遺跡(うちやまからしのいせき)

登録番号 A0077

所在場所 内山、北谷



太宰府市の内山・北谷に広がる遺跡。発掘調査から、礎石建物群・土塁・石垣・人為的造成面等が確認されている。また、鎌倉時代から室町時代にかけての庭園遺構も確認されている。

名称 古墓(自然石)

登録番号 A0078

所在場所 北谷 宮ノ下



北谷集落の中ほどに位置する、高さ184cmほどの自然石。伝承では西行法師の墓といわれている。また、真誓親王の墓であるという話も伝えられている。

名称 宝満山

登録番号 A0080

所在場所 太宰府市内山・北谷



太宰府市の北東に位置し、古代大宰府が置かれた時と同じくして祭祀遺跡が確認でき、飛鳥時代まで遡る龍門神社。そして中世における大山寺、さらには近世における修験の山として命脈を保ち続けている。現在は、登山の山として多くの来訪者が登る山として親しまれている。

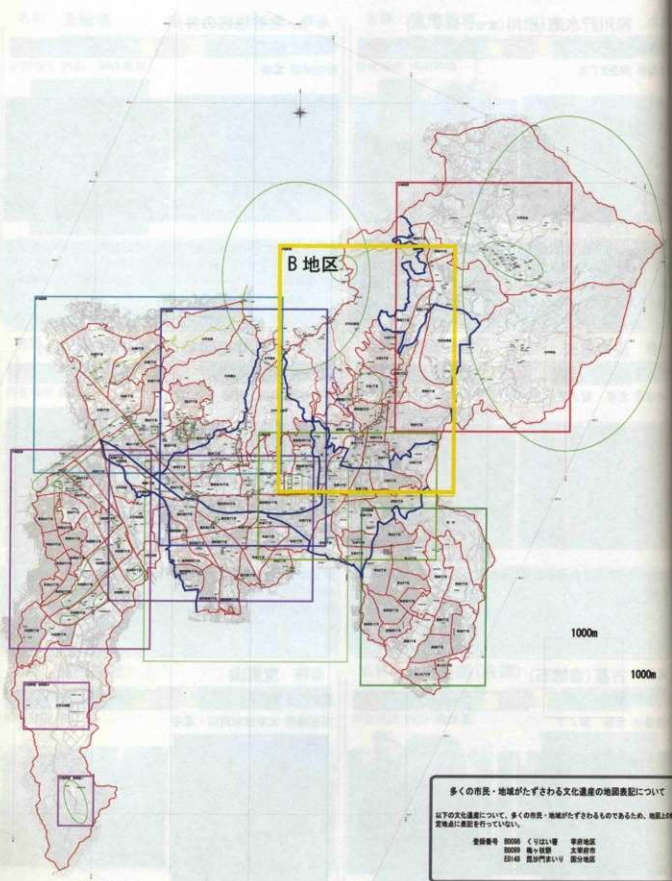


図5. B地区位置図

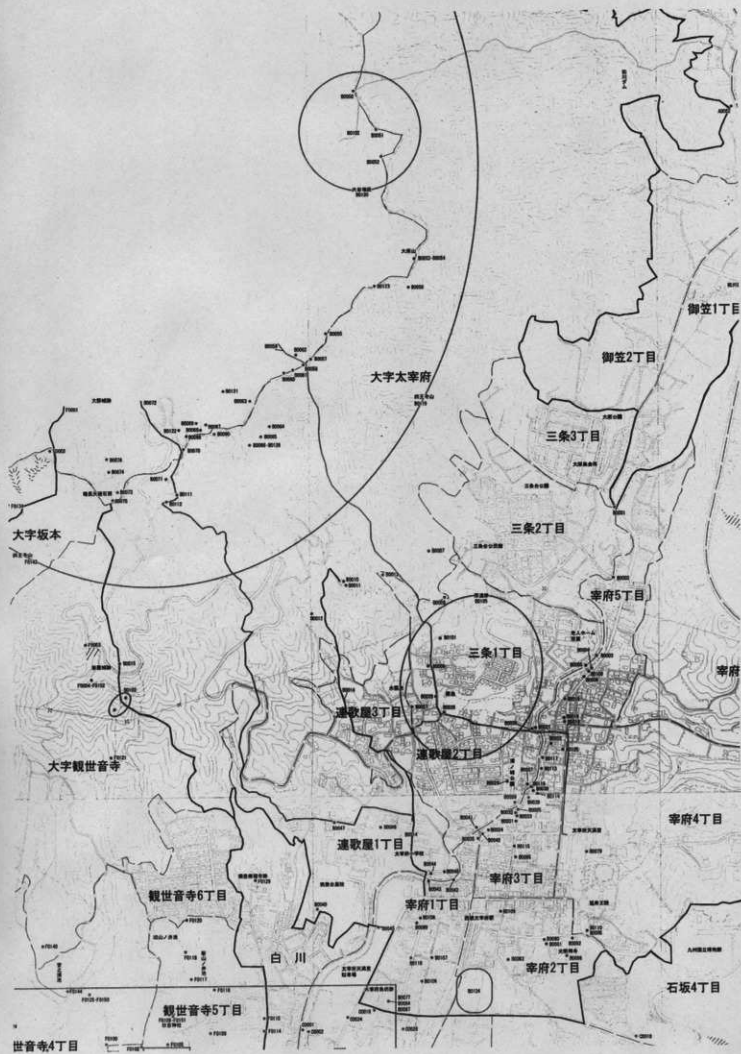


図 6 B 地区文化遺産位置図

名称 三浦橋

登録番号 B0001  現代

所在場所 宰府5丁目



宰府5丁目を流れる御笠川に架かる橋で、現在の橋は、昭和55年(1980)5月に完成したもの。太宰府と宇美を結ぶ県道35号筑紫野古賀線が通っている。交通量の増加に併せて道路幅が行われており、橋梁の片側には銘板が無い。

名称 普賢橋(ふけんはし)

登録番号 B0002  現代

所在場所 宰府5丁目



宰府5丁目を流れる御笠川に架かる橋。宰府地区と三条地区を結ぶ橋で、三条台の入口にあたる。現在の橋は昭和46年(1971)4月に完成したものである。

名称 高砂橋

登録番号 B0003  現代

所在場所 宰府6丁目



宰府6丁目を流れる御笠川に架かる橋で、昭和46年(1971)4月に完成。宰府地区から老人ホーム双葉への出入り口となっている橋である。現在は高砂橋という名称だが、以前は「幸の元橋」と呼ばれていたという。

名称 三浦潮井碑

登録番号 B0004  近代

所在場所 宰府5丁目



三浦とは紀伊の和歌浦、伊勢の二見ヶ浦、筑前の箱崎浦のことで、その「御潮井」で、川の水を清め、太宰府天満宮参詣の人々が身を清めた。しばらく行方不明となっていたが、平成15(2003)年に起きた豪雨災害の復旧工事の際、三浦橋より上流の高砂橋付近で見つかった。

名称 幸の元井堰取水口跡

登録番号 B0005  古代 中世 近世 近代 現代

所在場所 宰府5丁目・三条1丁目



遠歌屋・馬場・新町・大町・五条などの水田灌漑のため、御笠川から取水する井堰。取水した水は、古くから天満宮門前町の生活用水や防火用水も兼ね、江戸時代には幾度も修復工事が行われた記録が残っている。平成15年(2003)の水害により、現在は使用されていない。

名称 板碑

登録番号 B0006  近代

所在場所 宰府5丁目



県道筑紫野古賀線の傍らにあるムクノキの根元に祀られた板碑。地蔵様と呼ばれている。

B 地区

名称 普賢菩薩堂

登録番号 B0007

古代 現代

所在場所 太宰府



太宰府市三条の普賢山山頂にあり、弘仁9(818)年に伝教大師、または智証大師の創立と伝えられている。筑紫国第99番札所にもなっている。

名称 天原山安楽寺太宰府天満宮 検校坊墓所

登録番号 B0009

中世 近代

所在場所 三条1丁目



天原山安楽寺(太宰府天満宮)の社家、味酒安行の子孫「検校坊」の墓所。検校坊は太宰府天満宮を創始した味酒安行の次男を始祖とする官司(みやじ)で、本殿の宿直を勤め、更衣祭などの役職を担っていた。

名称 善五郎稻荷祠(中宮)

登録番号 B0011

近代

所在場所 三条1丁目



黒岩稲荷神社の末社として昭和60年(1985)建立されたものである。砂防ダム右岸に鳥居がある。また、水瓶山には祠も所在している。

名称 庚申天

登録番号 B0008

近世

所在場所 三条2丁目



天保期(1830~1843)建立の可能性がある。高さ150cmを超える製の庚申天。

名称 水瓶山(雲龍神)祠と石

登録番号 B0010

中世 近代

所在場所 太宰府(水瓶山)



水瓶山は雨乞い祈願(リョウアゲ)が行われている大切な場所です。この祠はその行事に関わる一族の方が昭和61年頃に建てられたもの。以前は法華曼荼羅の板碑が山頂に建てられていただけであったが、祠が建立された後は祠内に大切に祀られている。

名称 四王寺山三十三石仏 第1番札所

登録番号 B0012

近代

所在場所 太宰府(水瓶山)



四王寺山を巡る三十三石仏の札所。現在、お堂内には如意輪観音菩薩座像が2体並んで祀られているが、向かって左側は昔から伝えられているもので「一番 太宰府 施主 柴田市次」と銘が残されている。一方、向かって右側は真龍雲寺の前堂主が、昭和の初めに建立。

名称 黒岩稲荷神社

登録番号 B0013

所在場所 三象1丁目



博多区吉塚の「善門稲荷大明神」(吉塚校区の文化財)が伏見稲荷神社の本山で、明治初期に壱州地区の武家屋敷(松岡家)に専断されたとの記述がある。本家横の石鳥居に「明治15年」とあることから同時期に黒田藩(松岡家)より当地に分霊され祀られたのではないかとと思われる。

名称 岩屋城跡

登録番号 B0015

所在場所 太宰府



四王寺山地南麓に築かれた戦国期の山城跡。15世紀半ばより、大内氏の御笠郡代が在城する地域支配の拠点。天正14年7月、九州制圧を目指す島津軍の攻撃に対して高橋紹運は籠城して戦い、城兵と共に壮絶な討死を遂げた。現在、本丸跡に石碑、二の丸跡に紹運の墓がある。

名称 石灯籠

登録番号 B0018

所在場所 宰府5丁目



寛政12年(1800)12月に、宿坊真寂坊を通して宗俊郡津屋崎と田野村の人が寄進した石灯籠。

名称 龍上げの道

登録番号 B0014

所在場所 遠歌屋3丁目



水不足の折、雨乞いの儀式として龍上げを行った。その際通る天満宮から水瓶山への道が、「龍上げの道」と呼称されている。昭和61年の市民まつりの際、復原された。

名称 夜泣き石地藏堂

登録番号 B0016

所在場所 宰府5丁目



平たい石があり、その上に夜泣きの赤ん坊を寝かせると夜泣きがなおるといわれている。

名称 恵比寿神

登録番号 B0019

所在場所 宰府5丁目



慶応3(1867)年。全高125cmを測る鎌刻の恵比寿さま。吉副梅仙(よしつぐ ばいせん)の葺。

調る石

現代

な場所
に建て
られてい
に祀られ

所

代 現代



は如意輪
左側は昔
良田市
龍雲寺の

B 地区

名称 原八坊本堂跡

登録番号 B0020



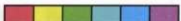
所在場所 三糸1丁目



四王寺山東部から南へ下る斜面一帯にあった天台宗の寺院、原八坊の中堂跡。原八坊(原山無量寺)は、四王院の別院で、延暦寺五代座主智証大師円珍の弟子達が八つの坊を開き、その中心となる本堂、中堂、宝塔などを建てたと伝えられる。

名称 薬師如来堂

登録番号 B0022



所在場所 幸府3丁目



木造トタン葺の祠の中に石製の薬師如来様が祀られている。

名称 水瓶山道標

登録番号 B0026



所在場所 三糸1丁目



昔雨乞いの行われた水瓶山に向かう道標。

名称 普賢道路修繕費寄付表

登録番号 B0021



所在場所 三糸1丁目



大正7(1918)年、三糸普賢の道路を改修した時の寄付者の名を記した記念碑。

名称 毘沙門堂

登録番号 B0025



所在場所 幸府3丁目



速歌屋橋の畔にある小祠。阿弥陀三尊板碑などを集合して祀る。祠は昭和59年建立。

名称 慈母観音(子安観音)

登録番号 B0027



所在場所 三糸1丁目



昭和48(1974)年の水害による死亡者を供養するために建てられた慈母観音像。

名称 浦之城公園

登録番号 B0028

中世 近代

所在場所 連歌屋2丁目



浦ノ城は、中世期に少貳氏(武藤氏)の居城として築城。史跡の一部にある連歌屋区の公園。

名称 大日堂

登録番号 B0030

所在場所 率府3丁目



連歌屋橋側の小祠。大日如来の梵字のある自然石、お大師様等を祀る。かつて祭日に奥岩瀬組が接待をしていた。筑紫第9番札所。

名称 庚申塔

登録番号 B0031

所在場所 率府3丁目



現在は、鬼門除けに祀られている。

名称 幸神天(庚申天)

登録番号 B0032

所在場所 率府3丁目



連歌屋橋の側にある庚申塔。表記されている字が変化し「幸神天」と記されている。

名称 大日堂

登録番号 B0033

所在場所 率府3丁目



連歌屋橋たもとの小祠。木造トタン葺の祠内に自然石、板碑が祀られている。

名称 大師堂

登録番号 B0034

所在場所 率府3丁目



浦之城橋のたもとに建立されている大師堂。なかに石造弘法大師(像高51cm)、板碑(高さ35cm)が祀られている。

B 地区

名称 猿田彦草

登録番号 B0035



所在場所 宰府1丁目



浦之城橋のたもとに建立されている猿田彦草。天明2年銘(1782)が読み取れる。

名称 岩踏橋(いわふみばし)

登録番号 B0037



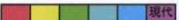
所在場所 宰府3丁目・連歌屋2丁目



宰府3丁目と連歌屋2丁目を結ぶ橋。現在の橋は昭和53年(1978)1月に建設され、欄干には擬宝珠の装飾がある。昔は橋周辺の御笠川を「岩踏川」ともい、清流が流れ、子供やお母さん達の集まる社交場であった。近年の水害や樹木伐採により、風景は様変わりしている。

名称 連歌屋橋(れんがやばし)

登録番号 B0039



所在場所 宰府3丁目・連歌屋2丁目



宰府3丁目と連歌屋2丁目を結ぶ、御笠川に架かる橋。現在の橋は昭和52年(1977)8月に建設されたもので、欄干には擬宝珠の装飾が施されている。橋の宰府地区側には、大日堂と庚申塔が祀られている。

名称 三條橋(さんじょうばし)

登録番号 B0036



所在場所 宰府3丁目ほか



宰府地区・太宰府天満宮と連歌屋・三条地区を結ぶ、御笠川に架かる橋。以前の橋は昭和9年(1934)に架けられたもので、「普賢橋」とも呼ばれていたという。現在の橋は昭和63年(1988)11月に建設されたもので、全体を木目調でつくり、欄干には擬宝珠の装飾がある。

名称 「岩踏川」の石柱

登録番号 B0038



所在場所 宰府3丁目



明治16年(1883)4月に製作された石柱。高さ135cm程で、表面に「岩踏川」と刻む。当時の岩踏川は自然豊かな場所で、明治17年の刊行の吉岡押山の『太宰府二十四詠』にも名勝として記す。昭和48年の水害により流失し行方不明となったが、昭和53年頃再建されている。

名称 浦之城橋石柱

登録番号 B0040



所在場所 宰府1丁目



四王寺山への登り口の浦之城橋にある石柱。表面に「浦之城橋」の刻銘があり、側面には橋の架け替えの記録が刻銘されている。記録からは明治14年(1881)5月に架橋、昭和2年(1927)と昭和21年(1946)に個人により架け替え、昭和25年(1950)に町営にて架け替えられた。

名称 浦之城橋(うらのじょうばし)

登録番号 B0041  現代

所在場所 宰府3丁目・連歌屋2丁目



宰府・連歌屋地区を流れる御笠川に架かる橋。岩屋城跡・四王寺地区・宇美町へと続く四王寺林道の入口でもある。現在の橋は昭和52年(1977)3月に建設されたもので、欄干は美しく朱に塗られ、麗宝珠の装飾が施されている。

名称 醍醐橋(だいごばし)

登録番号 B0042  現代

所在場所 宰府1丁目・連歌屋1丁目



平成8年(1996)3月に改築された、宰府地区と連歌屋地区を結ぶ橋。橋のすぐそばには大町公園・大町区公民館があり、御笠川の水辺へと下る広い石造階段も設けられている。

名称 朝日橋(あさひばし)

登録番号 B0043  現代

所在場所 宰府1丁目・連歌屋1丁目



宰府1丁目と連歌屋1丁目を結び、御笠川に架かる橋。太宰府小学校への入口にあたり、平成3年(1991)3月に現在の橋が完成した。

名称 朝日橋関連石柱三本

登録番号 B0044  近代

所在場所 連歌屋1丁目



大正15年9月17日に鉄筋コンクリートの朝日橋が架けられた。当時としてははりばな橋であった。架けたのは「かわうそ屋」の永松園次郎氏と伝えられる。平成3年、橋が新しくつづかえられる時、古い橋の親柱と寄進の碑が新しい橋の側に記念として残された。

名称 建重寺橋(けんじゅうじばし)

登録番号 B0045  現代

所在場所 宰府1丁目・五条1丁目・連歌屋1丁目



御笠川に架かる橋で、筑紫台高校と西鉄太宰府駅方面とを結ぶ。戦前の建重寺橋は、川の中央にあった花崗岩の杭に木を渡した丸木橋であったという。その後、筑紫台高校の創立に関連して昭和31(1956)年に架橋され、昭和51(1976)年3月に現在の橋へと架け替えられている。

名称 平重盛の墓

登録番号 B0046  中世

所在場所 連歌屋1丁目



太宰府小学校校庭にある平(小松)重盛の墓と伝える祠。祠には揚羽蝶の平氏の紋があり、「小松内大臣平重盛之墓・正安二年(1300)」と刻まれている。以前は、太宰府小グラウンド西半分が谷になり、その西側の崖の中腹にあった大きな松の木の下にあったという。

B 地区

名称 庚申天

登録番号 B0047

所在場所 遠歌屋1丁目



太宰府小校門前にある庚申塔。現在は宇美町へ移転。

名称 大師堂

登録番号 B0049

所在場所 遠歌屋1丁目



筑紫台高枝正門脇から登った所にある小堂。四国17番札所から砂をいただいて代々祀る。文政十(1827)丁亥年八月建立。

名称 四王寺山三十三石仏 第17番札所

登録番号 B0051

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



四王寺山三十三石仏の第17番札所には、2体の聖観音菩薩立像が並んで祀られている。向かって右側の聖観音菩薩立像には「鞍馬場組 十七番 女講中」の刻銘が残されており、こちらが第17番札所の仏像であると思われる。

名称 万葉歌碑(妹が見し...)

登録番号 B0048

所在場所 遠歌屋1丁目



大伴旅人(おとおものたびと)は、神亀4(727)年、奈良の都から大宰帥として赴任してきた。着任後間もなく妻を亡くし、その悲しみを部下にあたる筑前守(ちくぜんのかみ)山上憶良(やまのうえのおくら)が自らの悲しみのごとく感じて、この歌を奉った。日本挽歌の一つ。

名称 四王寺山三十三石仏 第18番札所

登録番号 B0050

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



高さ48cmほどの凝灰岩に彫られた十一面観音菩薩座像が祀られている。また、台座は上下2段で、「第十八番十一面観音三井郡北野町広木法蓮同行同 昭和四十五年七月」と刻銘のある上部台座は新しく、「十八番」の刻銘が残る古い下部台座は建立当初のものと考えられる。

名称 四王寺山三十三石仏 第16番札所

登録番号 B0052

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



四王寺山三十三石仏の第16番札所には、高さ77cmほどの花崗岩に彫られた千手千眼観音菩薩立像が祀られている。また、「太宰府 富美大夫母 十六番」という刻銘が残されている。

名称 四王寺山三十三石仏 第15番札所

登録番号 B0053

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 持国天跡)



四王寺山三十三石仏の第15番札所は、標高355mの大原山に位置している。高さ61cmほどの花崗岩に彫られた十一面観音菩薩立像が彫られており、「博多住」「十五番」などの刻銘が残されている。

名称 四王寺山の井戸 持国天ノ井

登録番号 B0054

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



増長天ノ井(鏡ヶ池)や広目天ノ井(ケイサシの井戸)とよく似た楕円状にくぼんだ場所が、持国天のあった大原山(355m)にある。このくぼ地は烽火場の跡だといわれているが、くぼ地の底を発掘調査すると他の3ヶ所の井戸と同じような石組みの井戸が現れそうである。

名称 四王寺山三十三石仏 第13番札所

登録番号 B0055

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



四王寺山三十三石仏の第13番札所には、高さ61cmほどの花崗岩に彫られた如意輪観音菩薩像が彫られている。「十三番 宰府 六助」という刻銘が残されている。

名称 四王寺山三十三石仏 第14番札所

登録番号 B0056

所在場所 太宰府(四王寺山)



四王寺山三十三石仏の第14番札所は、大原山の南に位置しており、高さ48cmほどの花崗岩に彫られた如意輪観音菩薩像が彫られている。

名称 四王寺山三十三石仏 第12番札所

登録番号 B0057

近世

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



高さ61cm程の凝灰岩に彫られた千手観音菩薩座像が彫られている。少し青みがある彩りと、穏やかな中にみえる凛とした表情は、参拝者の間でも大変人気が高い。また、観音像周辺の自然石には刻銘があり、十数名の人々によって寛政12年(1800)8月に建立された。

名称 四王寺山三十三石仏 第11番札所

登録番号 B0058

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



四王寺山三十三石仏の第9番から第12番までの札所は、焼米ヶ原から遠見所にかけて位置している。第11番札所には、高さ49cmほどの水成岩に彫られた聖観音菩薩座像が彫られている。また、「十一番 太宰府」の刻銘も残されている。

B 地区

名称 三条・天満宮方面への仕事道

登録番号 B0059

近代 現代

所在場所 太宰府(四王寺山)



昭和40年代迄(四王寺林道が完成する迄)四王寺村落より太宰府三条方面、天満宮方面へ主に女性が仕事のため通ったと言われる道。

名称 四王寺山三十三石仏 第10番札所

登録番号 B0061

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



四王寺山三十三石仏の第9番から第12番までの札所は、焼米ヶ原から遠見所にかけて位置している。第10番札所には、高さ72cmほどの花崗岩に彫られた千手観音菩薩立像が彫られている。

名称 四王寺山三十三石仏 第8番札所

登録番号 B0063

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



四王寺山三十三石仏の第8番札所は、焼米ヶ原の東方に位置している。高さ79cmほどの花崗岩に、聖観音菩薩立像が彫られている。

名称 四王寺山三十三石仏 第9番札所

登録番号 B0060

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



四王寺山三十三石仏の第9番から第12番までの札所は、焼米ヶ原から遠見所にかけて位置している。それらのうち第9番札所は一番西にあるもので、一部欠損しているが、高さ39cmほどの花崗岩に彫られた不空罽索観音菩薩座像が彫られている。

名称 四王寺山のビューポイント 6

登録番号 B0062

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



大野城東側の土塁線、焼米ヶ原と神国天跡のほぼ中間点にあたる小高い丘の上から眺めた景色。北には遠く博多湾が広がり、北東から南東にかけ若杉山～砥石山～三郡山～宝満山の山並みが圧倒的な存在感を示しており、宝満山が最もよく見える場所である。

名称 四王寺山三十三石仏 第2番札所

登録番号 B0064

所在場所 太宰府(水瓶山)



四王寺山三十三石仏の第2番札所は、水瓶山から九州自然歩道を登り四王寺山を目指すと、四王寺山を巡る土塁線に至る手前の斜面に彫られている。高さ96cmほどの花崗岩に聖観音菩薩立像が彫られており、刻銘から寛政12年(1800)に建立されたことがわかる。

名称 四王寺山三十三石仏 第3番札所

登録番号 B0065

近世

所在場所 太宰府(水櫃山)



第3番札所は、四王寺山三十三石仏で唯一の磨崖仏。花崗岩の石壁には千手千眼観音菩薩立像が彫られ、右上には梵字も残る。付近では文化遺産調査中に江戸期の通貨「寛永通宝」が見つかり、江戸時代に靈場巡りをして祈りをささげた人々の面影を今に伝えてくれる。

名称 四王寺山三十三石仏 第4番札所

登録番号 B0066

所在場所 太宰府(水櫃山)



第4番札所は2番・3番と並ぶようにあり、高さ68cmほどの花崗岩に彫られた千手観音菩薩立像が彫られている。

名称 四王寺山三十三石仏 第7番札所

登録番号 B0067

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 焼米ヶ原)



四王寺山三十三石仏の第7番札所は焼米ヶ原に位置している。背面は欠落しているが、高さ46cmほどの花崗岩に如意輪観音菩薩像が彫られている。

名称 四王寺山三十三石仏 第5番札所

登録番号 B0068

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 焼米ヶ原)



台座の石に、刻銘「四王寺 五番 若者中」とある。自然石の上に千手観音菩薩が置かれているが、本来は5番札所の菩薩像ではない可能性がある。

名称 四王寺山三十三石仏 第6番札所

登録番号 B0069

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 焼米ヶ原)



四王寺山三十三石仏の第6番札所には、現在、三荒神が祀られている。札所を示す表示札の関係で、現在は「六番札所」となっているが、本来は違う石仏が祀られていたと考えられている。

名称 四王寺山のビューポイント 5

登録番号 B0070

所在場所 太宰府(四王寺山)



焼米ヶ原一帯の土塁線上。東に背振・九千部山、正面南に基山、その奥に耳納の山々が長々と連なっている。さらに東の方には古処山が大根地山の後ろに望遠でき、宝満山群へと続いている。視界が開けたこの場所は、元日早朝御来光を拝む人々で埋め尽くされる。

B地区

名称 岩屋城合戦 関連石造物 1

登録番号 B0071 近代

所在場所 太宰府(四王寺山 大野城跡美ヶ原)



大野城の土塁上、岩屋城の水ノ手上御付附近に建立されている石碑。戦国時代の天正14年(1586)に行われた岩屋城合戦で対ち死にした、高橋紹運の家臣村山刑部以下68名を記したものである。石碑には高橋紹運の辞世句と建立者の方々の名前が刻まれている。

名称 四王寺山三十三石仏 第32番札所

登録番号 B0073

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 増長天礎石群)



四王寺山三十三石仏の第32番札所は、増長天跡に位置している。高さ79cmほどの花崗岩に彫られた千手観音菩薩立像が祀られており、台座には「三十二番」の刻銘が残されている。

名称 四王寺山の井戸 増長天ノ井

登録番号 B0075

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 増長天跡)



山上にあるにもかかわらず、常に水が湧き出ていて、今だから一度も涸れたことのない井戸。摺鉢状の底に井戸が石垣で丸く組まれ、戦後しばらくまでは四王寺村の人達により雨乞いの井戸掃除が行われていたという。この水は水瓶山で行われた雨乞いにも使用されている。

名称 旧太宰府町道

登録番号 B0072 近代 国

所在場所 太宰府(四王寺山)



四王寺村から太宰府中心部への約4kmの山道で、古地図には「太宰府町道」とある。太宰府小学校へ通う四王寺村の子供達が使う通学路として賑やかな日常風景がみられた。2011年5月30日に、太宰府市民遺産第3号として認定。

名称 四王寺山三十三石仏 第31番札所

登録番号 B0074

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



四王寺山三十三石仏の第31番札所は、増長天跡の北方に位置している。高さ50cmほどの花崗岩に彫られた聖観音菩薩立像が祀られている。台座には「真娘女性 三十一番 真娘女性」の刻銘が残され、現在でも子供を守って下さる神様として信仰されている。

名称 又ノハエ石(推定)

登録番号 B0076

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



四王寺山33石仏の31番札所(聖観音菩薩)からセンターの方へ50mほど下った場所にある大石。「旧蹟全図」に描かれている位置と現状が一致することから、この大石が「又ノハエ石」と推定される。斜面から露出している部分だけでも、3.5m×6.1m×高さ1.5mの大きさ。

名称 岩屋城合戦犠牲者追悼伝要

登録番号 B0077

所在場所 率府1丁目



天正14年(1586)の岩屋城合戦での犠牲者の供養のため、毎年7月27日に行われる法要。御子孫や関係者、関心のある方々が、岩屋城へ御参りした後、太宰府市新町の西正寺(岩屋山)にて法要と懇親会を行っている。古くから代々行われ、50年毎に大きな法要を行っている。

名称 染川(藍染川)

登録番号 B0080

所在場所 率府2丁目



光明寺の北側を東西に流れる小川。中務頼澄と梅壺との恋愛伝説が残る小川として古来から名所として知られ、歌枕として平安時代の『伊勢物語』『後撰和歌集』『拾遺和歌集』など多くの和歌に詠み込まれている。

名称 猿田彦大神

登録番号 B0082

所在場所 率府2丁目



光明寺前にある猿田彦大神。銘文 文久四(1864)年甲子年/正月吉日。総高111cm。

名称 八朔の千燈明

登録番号 B0079

所在場所 五条1丁目(五条公民館)～太宰府天満宮



江戸後期に流行病が発生した際、太宰府天満宮に祈願したところ病人が出なくなつた。このため八朔の夜(9月1日)に天満宮へお礼の御参りを行い、御祓いを受け、人々の無病息災を願ひ、橋頭前から燈明を奉納する行事。2011年1月30日に市民遺産第2号に認定。

名称 伝衣塔(でんえとう)

登録番号 B0081

所在場所 率府2丁目



渡宋天神伝説にまつわる塔。昔神は、博多の承天寺の鉄牛和尚(梅千代)の枕元に、禪師から賜った僧袈裟を持って現われ、これを一所に収めてほしいと頼まれた。その告の通り太宰府の岩崎(藍染川のそば)の場所に収めて伝衣塔を立て、鉄牛和尚は横に「神護山光明寺」を開山。

名称 旗立石

登録番号 B0083

所在場所 率府2丁目



馬場公民館敷地内にある旗立石。2本立っているが年号、銘文はコンクリートで塗りつぶされている。

B 地区

名称 板碑

登録番号 B0084



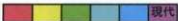
所在場所 寧府1丁目西正寺



西正寺の境内にある板碑。由来等は、不明。

名称 光明寺石庭

登録番号 B0086



所在場所 寧府2丁目



光明寺は「九州石庭苔寺」といわれ、49種の苔を用いて造られた枯山水の庭園で有名。庭園は、光明寺住職橋本節道師の依頼により重森三玲が1967(昭和32)年夏に、渡宗天神の縁起発祥地であるこの地に、菅公が海を渡り中国に行ったという伝説をもとに作庭したもの。

名称 座頭の塔(玄清法印墓)

登録番号 B0088



所在場所 市外(宇美町四王寺)



四王寺山の一角に建立されている石碑。「玄清法印之墓」と刻まれていて、土地の人は「座頭の塔」と呼ぶ。天保5(1834)年再建とある石碑は、玄清法印の一千年忌に因んで新しく建立された。

名称 庚申尊天

登録番号 B0085



所在場所 寧府4丁目



館「文化四(1807丁卯歳)」「昭和七(1932)年十月吉日補修」、総高120cm。大黒神社と同じ敷地。

名称 石塔

登録番号 B0087



所在場所 寧府1丁目西正寺



西正寺の境内にある宝篋印塔を写影にした石塔。由来など詳細は不明である。

名称 新町

登録番号 B0089



所在場所 寧府1丁目



太宰府市の地名の一つ。古くは大町の内であったが、独立して新町とした。地名の由来は、太宰府天満宮の門前町として新しい町なので、新町と呼ばれるようになったといわれる。明治18年の大火で大部分が焼失するが、その後町並みは再建されている。

名称 太宰府口城門跡

登録番号 B0090



所在場所 太宰府



大野城の南側に二重になっている土塁の外郭土塁に設けられ、両側は石垣(水の手石垣)で固められている。門礎は約5.4mの間隔において2列平行し、両方とも門礎には円形柱座、方立柱の孔があり、北側のみ扉軸受孔を持つ門礎がある。

名称 くりはい箸(くりあい箸)

登録番号 B0098



所在場所 宰府地区



「ものごとのくりあいがよくなるように」「やりくり上手になるように」との願いから、山の栗の木を切ってきて年の暮れに作った箸を、元日の朝から小正月まで使う風習。太宰府では、栗箸と書いて「くりあいばし」と言う。両端を削り、握る部分のみ皮を残す。

名称 板碑

登録番号 B0100



所在場所 宰府5丁目



高さ65cmを測るもので、自然石様を呈している。

名称 恵比寿神

登録番号 B0095



所在場所 宰府3丁目



この恵比寿様は、文化7(1810)年に建立され、旧小野(小島居小路)上組により商売繁昌の神として祀られてきた。現在は小島居小路えびす会が組織されている。祭日は、12月3日で、祭りの準備は「座元」で行い、古くはお参り後、戸主が座元の家にて朝座・昼座が行われる。

名称 梅ヶ枝餅

登録番号 B0099



所在場所 太宰府市内



ある老翁が、不遇の菅公を慰めようと、時折餅を差し上げたとも、また、菅公の死後、梅の一枝を添えて餅を柩に挿けたのが始まりともいわれる。焼き餅とも呼ばれ、天満宮参詣のお土産になっている。焼き餅二つの間に餡を挟み食べることもある【右写真】。

名称 原八坊中堂跡

登録番号 B0101



所在場所 三条1丁目



四王寺山東南麓一帯にあった天台宗の寺院、原八坊の中堂跡。原八坊は、四王院の別院で、延暦寺五代座主智証大師円珍の弟子達が八つの坊を建て、その中心となる本堂、中堂、宝塔などを建てたと伝えられる。完成は天安2(858)年とされ、原八坊の起りである。

B 地区

名称 松川道(まっこうへのみち)

登録番号 B0102

所在場所 御笠(松川地区)・市外(糟屋郡宇美町四王寺)



太宰府市御笠の松川地区から登り、四王寺山の土塁線上にある四王寺三十三石仏の第18番札所付近へと至る道。四王寺と太宰府を結ぶ生活の道として、また三十三石仏や毘沙門天詣りなど信仰の道として多くの人々に利用された。

名称 原遺跡

登録番号 B0105

所在場所 三条1丁目ほか



太宰府市の小字原・水瓶・醍醐・管現・幸ノ元・建重寺・岩瀬・梅ヶ谷の地域に広がる遺跡群である。中世の原山無蓋寺跡および踏坊跡が全体に広がり、12世紀の経塚も発見されている。その他旧石器や縄文時代早期の遺物なども発見されている。

名称 弘法大師・地藏様

登録番号 B0107

所在場所 幸府1丁目



幸府1丁目で祀られている弘法大師と地藏様。詳しい由来などは不明であるが、昔から祠に入れて大切に祀られてきたので御像の状態は良好である。昭和45年頃までは近所の10軒位が持ち回りで、4月にお祭りを行っていたという。

名称 岩屋磨崖石塔群

登録番号 B0103

所在場所 太宰府



四王寺山南斜面で高橋紹宣廟塚から降りた所にある磨崖石塔群。岩盤を利用して錫刻された石塔が並んでいる。鎌倉時代後半から室町時代にかけての頃に、この地域一帯での盛んな宗教活動がうかがえる資料。

名称 薬師如来・伝教大師・弘法大師

登録番号 B0106

所在場所 幸府1丁目



幸府1丁目で祀られている薬師像と二体の大師像。それぞれ別の場所にあった御像だが、再開発や土地の所有者の変更などにより、現在地に三体併せて祀るようになった経緯がある。由来など詳細は不明である。

名称 えびす様

登録番号 B0108

所在場所 幸府1丁目



新町一組の人々によって祀られている錫刻の恵比寿さま。以前は12月3日に当番持ち回りで体や紅白の織餅などを供えて、えびす祭りが行われていた。現在、祭りなどは行われていないが、初詣の人々がお参りする姿が見受けられる。

名称 恵比寿像(線刻)

登録番号 B0109

所在場所 宰府2丁目



旧唐尻(錦町)上組により商売繁盛の神として祀られている。12月3日の恵比寿祭には当番の家が供物を準備しお飾りをしていた。当番渡しでは恵比寿像(堂島鶴栖筆)の掛軸と献立表が新田の当番間で引き渡されていた。

名称 大国神社

登録番号 B0110

所在場所 宰府4丁目



宰府4丁目に所在する大国神社。祭神として大国主命が祀られており、その温和な姿から家庭円満・災難除け・商売繁栄の神として信仰されている。

名称 毘沙門天の鳥居

登録番号 B0111

近代

所在場所 太宰府(四王寺山)



太宰府口城門跡を過ぎると見えてくる石造鳥居。太宰府からの毘沙門天参りの入口となる鳥居で、扁額には「毘沙門天王」と刻まれている。昭和10年(1935)に壘山軍兵衛氏が発起人となり建立されたもので、鳥居の石材は四王寺村近辺の石切場から運んだものと伝えられる。

名称 水手(今、田アリ)

登録番号 B0112

所在場所 太宰府(四王寺山)



太宰府口城門に続く石垣を「水の手砦」と称していた。今も石垣に水が流れており、古来、水確保のうえで重要な役割を果たしていたと考えられる。また、『太宰府旧蹟全圖北』には、「今、田アリ」と記述があり、江戸時代にはその水を使い、田があった様子がうかがえる。

名称 宰府の溝(1)ふれあい広場

登録番号 B0113

現代

所在場所 宰府3丁目



平成15年(2003)の水害により幸の元井堰が壊れ、井堰からの取水は不可能となり、ポンプによる取水が行われるようになった。その整備に併せて、水辺公園としてふれあい広場が作られ、側の水路に設けられた堰礁には鯉や小さな川魚が泳いでいる。

名称 宰府の溝(2)

登録番号 B0114

所在場所 宰府3丁目



宰府地区を流れる幅75cm、深さ62cm程の溝。昔は溝堀(みぞぼた)とも呼ばれており、顔を洗ったり野菜を洗ったりなど、地域の人々の生活にとって大切な溝であった。

B 地区

名称 宰府の溝(3)小鳥居小路

登録番号 B0115

所在場所 宰府3丁目 小鳥居小路



幸の元井堰から取水して門前町を流れ、壺染川へと流れ込む用水路。小鳥居小路に沿って流れる部分には、花崗岩で蓋がされている。農業用水・灌漑だけでなく、門前町の生活用水や防火用水の役目を果たしており、人々にとって大変重要な水路であった。

名称 宰府の溝への取水場

登録番号 B0117

所在場所 宰府3丁目



御笠川から宰府の溝へ水を汲み上げる取水場。河床に大きなタンクを埋設し、中に溜まった水をポンプで宰府の溝に汲み上げている。自動で汲み上げるようになっているが、ポンプの管理は太宰府市から三糸区の自治会長さんへ委託されている。

名称 四王寺山 三十三石仏

登録番号 B0119

近世

所在場所 太宰府市・市外(糟屋郡宇美町四王寺)



江戸時代後期の寛政年間(1789~1801)、災害や凶事が続いた博多の人々が発起してつくられたという。石仏は四王寺山を一周する土塁線上を周回するように配置されており、「三十三石仏巡り」として参拝する人や、散策を楽しむ根強いファンをもっている。

名称 昔の洗濯場(岩踏川)

登録番号 B0116

所在場所 宰府3丁目



岩踏橋の下にある岩床。昔はここを「洗濯銀座」と言って、沢山の人が洗濯物を洗いに来ており、多い時は大人が10人並んで洗っていた。当時は橋の横にある土管は無く、滝のようにきれいな水が流れ落ちていた。しかし、昭和48年(1973)の水害の際、岩床は破砕される。

名称 庚申尊天

登録番号 B0118

所在場所 宰府1丁目



宰府1丁目に所在する庚申尊天。以前は大学生や高校生が水をあげて遊んでいた。

名称 大谷

登録番号 B0120

近世

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 大谷)



江戸時代に描かれた『太宰府旧蹟全図(北)』に記されている地名。現在の太谷地区は田圃地帯が広がっており、四王寺周辺では最大の耕作地帯である。

名称 鬼ノコシカケ

登録番号 B0121

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



見米ヶ原から尾根を大原山方面に5分程歩いた地点にある。この岩は「鬼の腰掛け伝説」の場所とされ、「1月7日の太宰府元宮の鬼すべの夜、鬼がこの岩に腰かけて下を見ると、鬼すべ堂でひどい目に遭っている仲間の姿が見えて、涙を流した」という伝説がある。

名称 ムマノセ

登録番号 B0123

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



『太宰府旧蹟全図北』には「ムマノセ」と記され、「ムマ」は「馬」の古語読みで、「ムマノセ」→「ウマノセ」→「馬の背」と転じて、馬の背を意味する「馬のこうね」へと至る。ここは鞍部になっており、ここから大原山に駆け上がる土道は素晴らしい風景を呈している。

名称 ヒトツバタゴ

登録番号 B0125

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



ヒトツバタゴは、モクセイ科ヒトツバタゴ属で、別名ナンジャモンジャノキ。托葉を持たない単葉である事に名前は由来する。日本では長崎県対馬・岐阜県・愛知県に隔離分布する珍しい形態をとる。この木は、書家古賀井卿が対馬から頂いたものを譲り受けたものである。

名称 大人足形(オオヒノアシガタ)

登録番号 B0122

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 焼米ヶ原)



四王寺山の焼米ヶ原付近にある窪んだ一帯を『太宰府旧蹟全図北』では「大人足形」と記しており、地元の方によると以前は沼地であったという。巨人伝説に関連して「大人足」「大人足形」などの地名が全国各地に残されており、四王寺山のこの「大人足形」もその1つ。

名称 奥園遺跡(おぞのいせき)

登録番号 B0124

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



西鉄太宰府駅の南側に位置する遺跡。発掘調査から、縄文～奈良時代・平安時代後期・鎌倉～江戸時代という主に3面の遺構面が確認されている。

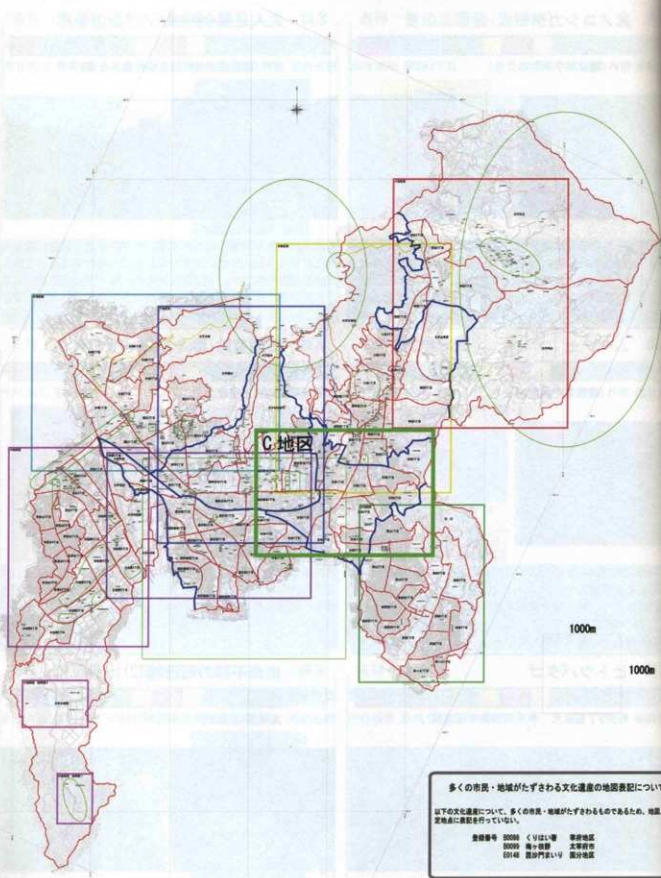
名称 由来不詳の石造物(2)

登録番号 B0126

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



四王寺三十三石仏4番札所前にある石造物。人工的に加工された跡があるが、何に使われたか不明。

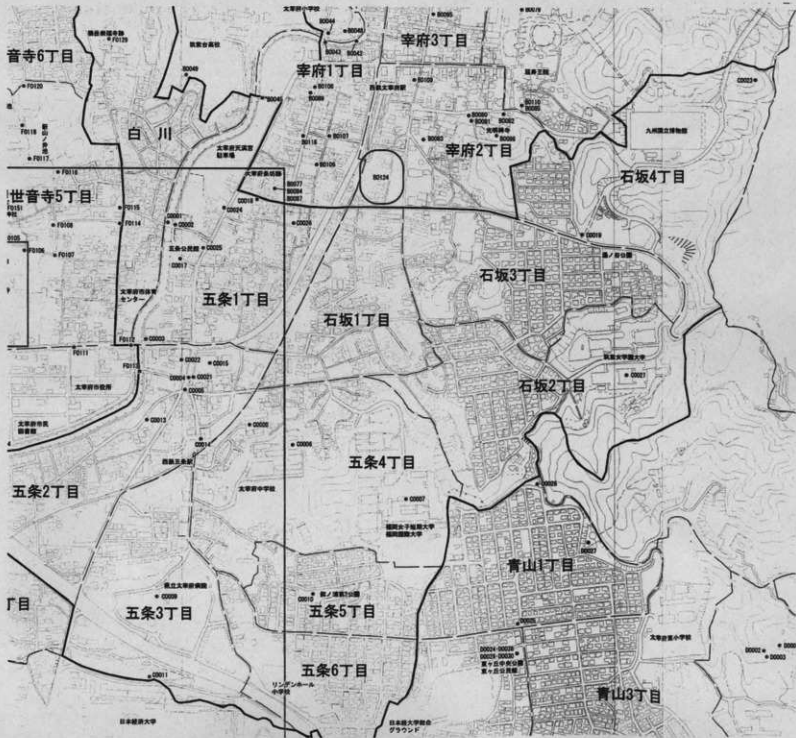


多くの市民・地域がたずさわる文化遺産の地図表記について

以下の文化遺産について、多くの市民・地域がたずさわるものであるため、地図上の交差点に表記を行っている。

- 登録番号 20060 くじはし町 幸の地区
- 20069 橋っ橋野 太宰府市
- 00148 豊沙門まいり 豊沙地区

図 7. C地区位置図



音寺6丁目

白川

幸府3丁目

幸府1丁目

幸府2丁目

石坂4丁目

音寺5丁目

五条1丁目

石坂1丁目

石坂3丁目

石坂2丁目

五条2丁目

五条4丁目

青山1丁目

丁目

五条3丁目

五条5丁目

五条6丁目

青山3丁目

日本経済大学

日本経済大学
グラウンド

名称 白川橋(しらかわばし)

登録番号 00001



所在場所 五条1丁目・白川



五条1丁目と白川地区を結ぶ橋。以前は周辺に沢山のヤブカンゾウ(別名ワスレグサ)が咲いており、橙赤色の花が綺麗だったという。また、昭和50年(1975)頃までは建重寺橋付近にあった80~100cm程の洗濯石が近くまで流されてきていたが、近年なくなってしまったという。

名称 三浦の碑(五条)

登録番号 00003



所在場所 五条1丁目



文政13年(1830)に、伊勢の二見浦・紀伊の和歌之浦・筑前箱崎の浦の三浦のお潮井でこの地を清め、その行事の記念碑として建てられた碑。昭和48年の水害によってこの付近の護岸も流され、三浦の碑も流されてしまった。その後の改修工事によって、川底から発見。

名称 梅大路の道標

登録番号 00005



所在場所 五条2丁目



明治11(1878)年に建てられた道標。天満宮を中心とする宿場町の入口を示す、瓦葺で石垣の基礎を持つ「構え口」と呼ばれる施設があった。一説には、西南戦争の際、地理に不案内な官軍兵士のために建てられたとも伝えられている。

名称 「白川橋」の石柱

登録番号 00002



所在場所 五条1丁目



表面に白川橋と刻まれた高さ162cmほどの石碑。明治15年(1882)に建立されたもので、側面には「区長平野正弘」をはじめ計12名の氏名が刻まれている。

名称 五条小橋(ごじょうこばし)

登録番号 00004



所在場所 五条2丁目



五条地区を流れる豊染川に架かる橋。五条駅入口交差点の北側に位置しており、県道35号線が通っている。現在の橋は平成16年(2004)3月に完成したもので、木製の欄干が特徴的である。昔はこの橋のそばに、太宰府への出入口である五条の構口が存在していた。

名称 宇佐八幡宮祠

登録番号 00006



所在場所 五条4丁目(太宰府中学校)

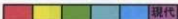


太宰府中学校敷地内にある石祠(写真右側)。昔この祠のある下町・鉢ノ浦あたりを府中宇佐町と呼んでいた。江戸時代に記された『筑前続風土記拾遺』には「このあたりがもと宇佐領であったので八幡宮を祀ったのであろう」とあり、そのまま産神となったと記している。

C地区

名称 福岡女子短期大学・福岡国際大学

登録番号 00007



所在場所 五条4丁目



福岡国際大学では、平成19年度より毎年春、公開講座「太宰府の歴史と文化」が開講されている。

名称 福岡県立太宰府病院

登録番号 00009



所在場所 五条3丁目(太宰府病院)



現況の建物は、平成13年全面改築されている。病院の敷地は、君畑遺跡、今川了俊居館跡と伝えられる。桜並木のアプローチ、樟の森が見事。太宰府市観光ルート(名木・巨樹巡礼)のコースのひとつになっている。

名称 銚ノ浦溜池築造之碑

登録番号 00010



所在場所 五条5丁目(五条台公園内)



五条には銚の浦と渡内に二つの溜池があったが、いずれも集合住宅ができてなくなった。

名称 日本経済大学

登録番号 00011



所在場所 五条3丁目(日本経済大学)



この地は、旧小字君塚にあたり、国道3号線により太宰府市五条から分断されたかたちになっている。

名称 血方持観音(ちけもちかんのん)

登録番号 00013



所在場所 五条2丁目



醍醐天皇(897~930在位)の御代、宮成(みやなり)某の妻が血の道(婦人病)の病に苦しんでいたのを、菅原道真の助けにより治ったという。その後、妻が亡くなり墓所に石仏を祀ったところ、婦人病に患撃あらたかとの噂が広まり、病に悩む婦人達がお参りするようになった。

名称 山伏墓(五条)

登録番号 00014



所在場所 五条2丁目



太宰府市五条にある高さ85cmの梵字を刻む自然石である。昔は太宰府中学校の北側に抜けて峯の薬師へ通じる田圃の畦道があって、やんぶし道と言われていた。新客の山伏などは長い期間の修行に耐えられず、途中で倒れる人がいた。その山伏たちを葬った所といわれている。

名称 金樹天満宮(水神・大黒天・天満宮)

登録番号 00015

中世 近世 近代 現代

所在場所 五条2丁目



『金掛けの梅』の物語が伝わる天満宮。幕末、都落ちした五郎が太宰府滞在の折に、古川家を訪れた三条実美が詠んだ『金掛けの梅』の歌が残されている。

名称 力石

登録番号 00017

所在場所 五条1丁目(五条公民館)



五条公民館にある大きさが横76cm、縦27cmほどの楕円形をした石。元々の位置は不明であるが、公民館建設の後に移動してきたものと考えられる。古老の話によると、昔、近所の若者が集まり力くらべをした石という。

名称 井上哲次郎生誕地碑

登録番号 00018

近代

所在場所 五条1丁目



『教育勸励行義』等で知られる、東京帝国大学哲学科教授の井上哲次郎生誕地に建つ石碑。東洋哲学の研究、西洋哲学の日本への紹介に多大な貢献をなし、国民道徳の提唱者としても知られる。

名称 太郎左近社

登録番号 00019

所在場所 石坂4丁目(国博入口)



古くから病氣・怪我を治す神徳がある神様として広く信仰されている。お社には手や足の型をした木型や「耳・耳・耳」と書かれた竹筒が数多く奉納されている。この木型で患部をなでると不思議に治るといふ信仰がある。毎月1日には斎行が行われている。

名称 五条遺跡

登録番号 00020

中世

所在場所 五条4丁目、5丁目、6丁目



太宰府市五条4丁目から6丁目にかけて広がる遺跡。第1・2次調査のみの名称であり、以後は大宰府条坊跡に名称変更されている。

名称 高橋構口跡

登録番号 00021

近世

所在場所 五条1丁目



博多方面からの太宰府入口に宝永7年(1710)に設置された構口で、1840年に製作されたと考えられている博多太宰府図屏風に、御笠川の東岸に石垣の上に白壁を造り、瓦を葺いている状況が描かれている。現在は、地上げされている。

C地区

名称 恵比寿像

登録番号 00022

所在場所 五条2丁目



石面に恵比寿の種字が彫られた恵比寿。元來は、五条交差点にあった。

名称 恵比寿像

登録番号 00024

所在場所 五条1丁目



五条1丁目に所在する恵比寿像。高さ89cmほどの石に恵比寿様が浮き彫りされている。石像に残された銘文から江戸時代後期の文化11年に建立されたことが分かる。戦後すぐ迄は毎年12月3日に饅頭や御神酒、饅頭を供えてお詣りをし、その後ちり饅頭などにして皆で食べたという。

名称 大師様

登録番号 00026

所在場所 五条1丁目



五条1丁目、雨乞い(アマコ)風敷の東側に所在する大師堂。昔は雨乞いの儀式が行われていたという。年2回のお詣りが行われている。

名称 清水谷トンネル

登録番号 00023

所在場所 石坂4丁目



明治27年に掘られたトンネルで、太宰府天満宮東側の馬場池ノ端から吉木に抜けるものであった。しかし工法の欠陥から陥没。また、大正5年に石坂峠の道路が更正竣工したため使用されなくなった。

名称 神牛塚

登録番号 00025

所在場所 五条1丁目



普公の亡骸を乗せた牛が、力尽きてこの地で死んだのを憐れみ供養塚がつくられたという。「神牛塚」の碑は、大正14年に丑年の人達が運搬祝いに建立。この碑の後ろの自然石がもとの「神牛塚」といわれている。

名称 学校法人 筑紫女学園

登録番号 00027

所在場所 石坂2丁目 筑紫女学園



明治40年(1907)開校の私立筑紫高等女学校に始まり、浄土真宗の教えに基づく人間教育を建学の精神とし、「自律」「和平」「感恩」を校訓としている。昭和50年(1975)、太宰府市に短期大学キャンパスが移転。周辺を森林緑地に囲まれ落ち着いた環境で教育が行われる。

石 穴

青山1丁目

青山3丁目

青山2丁目

青山4丁目

高雄2丁目

高雄3丁目

梅香苑3丁目

梅香苑2丁目

高雄4丁目

高雄6丁目

梅香苑4丁目

高雄1丁目

高雄5丁目

梅ヶ丘2丁目

梅ヶ丘1丁目

00034-00038
00039-00030
梅ヶ丘中央公園
梅ヶ丘公園

太宰府東小学校

00002 ● 00001
● 00003

高雄公園

太宰府東中学校

00008

太宰府高校

00009

高雄幼稚園

● 00011

太宰府南小学校

00012

梅ヶ丘南公園

● 00015

丁目

梅ヶ丘公園

● 00018

梅ヶ丘公園

00017

梅ヶ丘公園

00023

梅ヶ丘公園

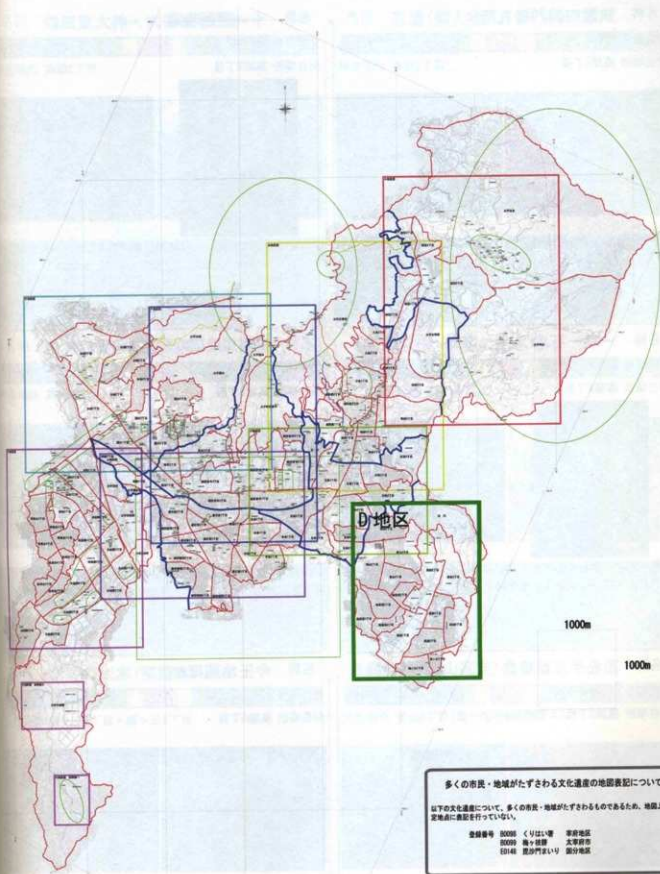


図 10. D 地区位置図

D 地区

名称 筑紫四国29番札所

登録番号 D0001

所在場所 高雄2丁目



山中のお堂。各所(自)から持ち込まれた仏像を、合わせ祀っている。

名称 一字一石塔

登録番号 D0003

所在場所 高雄2丁目



お経の中の一字を一石ずつに書いて納めたものと伝えられる。自然石に「一字一石」と記されている。

名称 西島伊三雄風景(宝満山)画(油絵)

登録番号 D0009

所在場所 高雄2丁目(太宰府南小)



題名「春」 西島伊三雄作。高雄から見た宝満山と子どもの風景。南小が建てられた(昭和52・1977年12月)時、PTAが寄贈。

名称 十一面観音群

登録番号 D0002

所在場所 高雄2丁目



十一面観音を含めて、10体位の仏像がある。

名称 高尾川周辺の豊かな自然(1)

登録番号 D0006

所在場所 高雄3丁目



ホテルの群生地。地元の人のみが知るホテルの名所。太宰府ゴルフ場から流れてくる用水路に生息。

名称 今田地蔵ほか

登録番号 D0011

所在場所 高雄4丁目



昭和54年の団地開発時、現在地に移転したと考えられる地蔵。

名称 猿田彦大神・大行事塔ほか

登録番号 D0012

近世

所在場所 高嶽2丁目



猿田彦大神に「天保七年丙申七月吉辰」の銘あり。以前(年代不明)は、この前で「お座」を開き、参拝していた。

名称 石垣(個人宅)

登録番号 D0015

近世

所在場所 高嶽1丁目



江戸末期、先祖が五条の前田氏から庄屋として分家する時(開懸)福岡藩から築造してもらったと伝えられる石垣。

名称 筑紫四国第12番札所

登録番号 D0016

所在場所 高嶽4丁目



札所お堂の中にお大師さま・不動明王・宝満山から担いできたという地蔵をまつる。昔はかなり大勢の御参りがあった。

名称 鯉・ハヤ等の生息地

登録番号 D0017

現代

所在場所 高嶽1丁目(高尾川)



高尾川の中に鯉・ハヤが生息する溜まり場がある。散歩中に、「彼ら」の存在をいつも確認する。

名称 グミの大木(桜並木)

登録番号 D0022

所在場所 梅ヶ丘1丁目・梅ヶ丘2丁目



梅ヶ丘1丁目と2丁目の間に、桜並木とグミの大木が植樹されている。幸先は桜が綺麗。

名称 文庫部

登録番号 D0024

現代

所在場所 青山2丁目(東ヶ丘中央公園)



昭和49年春、有志数人で子供達のたまり場の様な文庫を作ろうと意気投合して作り上げたのが、子供文庫の始まり。この活動が市内に広がり、その後結成された文庫連絡協議会を中心に起こした図書館をつくる運動が実を結び、昭和61年11月市民図書館が開館した。

D 地区

名称 街角と高台からの眺望

登録番号 D0025



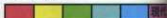
所在場所 青山1丁目・2丁目・3丁目



東山通りと東ヶ丘通りの交差点は、東ヶ丘区の中心点。東に向かうと太宰府東小学校で、朝には小学生が通る。

名称 街角と高台からの眺望

登録番号 D0026



所在場所 青山1丁目



青山1丁目の高台からの眺望。高台より西方を望むと、山々が広がり絶景である。

名称 街角と高台からの眺望

登録番号 D0027



所在場所 青山1丁目



青山1丁目の高台にある水タンクからの眺望。高台より西方を望むと、山々に沈む夕日が絶景である。

名称 東ヶ丘だより

登録番号 D0028



所在場所 青山2丁目(東ヶ丘公民館)



現在月末に各戸に配布。「東ヶ丘だより」は、昭和62年8月15日に創刊、1回目の「東ヶ丘夏祭り」が企画され区挙げての行事を、主題として4ページ立てで発行。その後年に4回の発行を続け、時々情勢から休刊・復刊を繰り返したが平成22年9月で69号を数える。

名称 夏祭り

登録番号 D0029



所在場所 青山2丁目(東ヶ丘中央公園)



昭和49年(1974)に区が出来て以来、住民の輪を大切にしようと言う事で文化部の事業として、婦人部・子供会・老人会等に協力応援を頂き開催。昭和62年度に区の規約等が全面的に改正となり、これを機に今までの盆踊りが「区民夏まつり」となり区主催の事業として継続。

名称 東ヶ丘団地簡易郵便局の開設

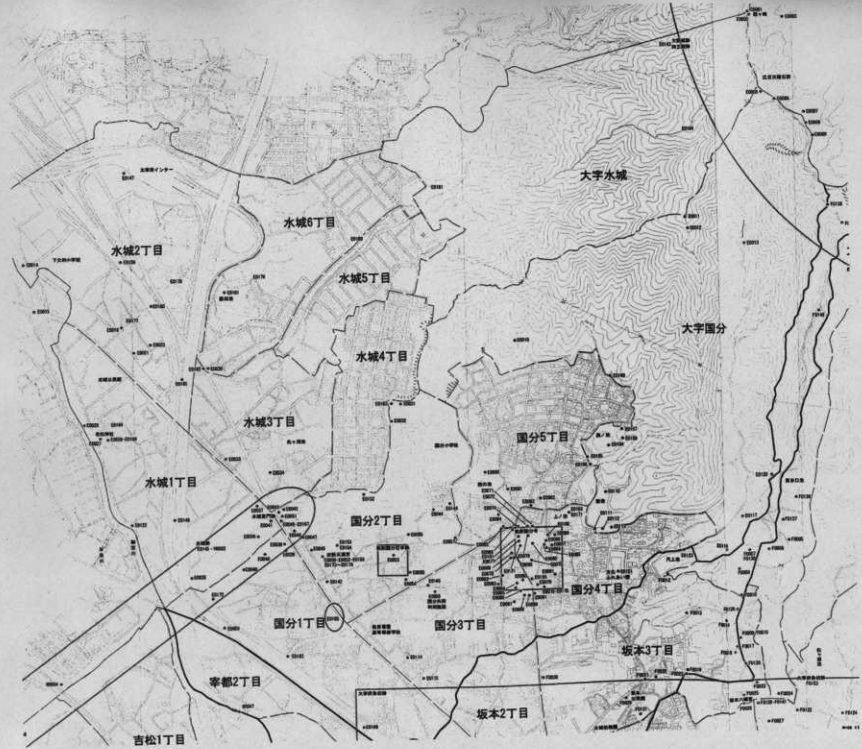
登録番号 D0030



所在場所 東ヶ丘2丁目



住民の強い要望により、昭和52年(1977)12月1日に開設された。当初は公園北側(スーパーに隣接)に建設され業務を行っていたが、公園が整備される際に現在地へと移設されている。移設に際しては、丸太を転がして郵便局の建物自体をそのまま移転させている。



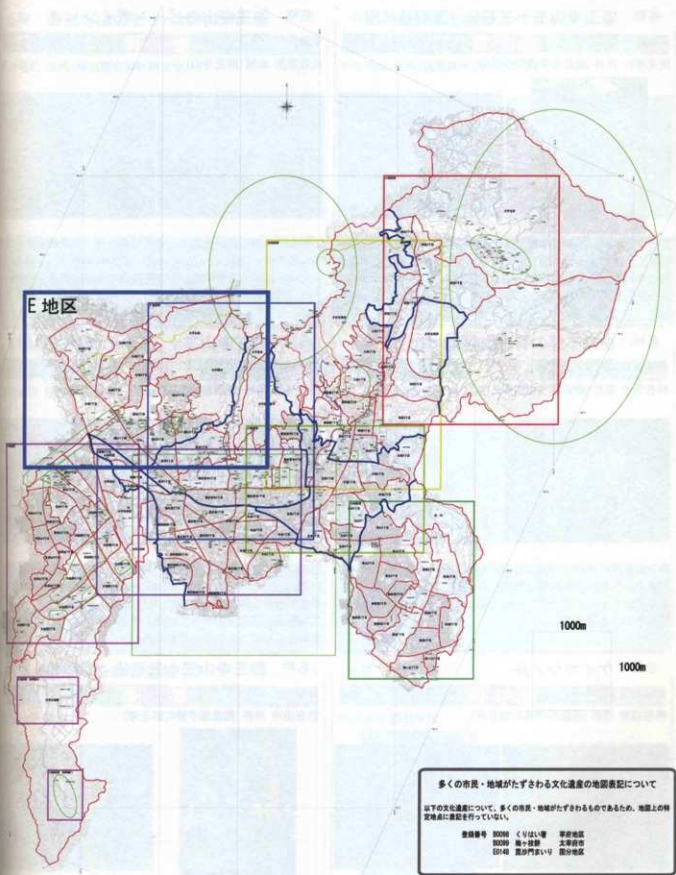


図 12. E 地区位置図

E 地区

名称 四王寺山三十三石仏 第26番札所

登録番号 E0001

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



第26番札所は鼓ヶ峰に位置しており、一帯は博多湾から基津城まで一望できる素晴らしいビューポイントである。この絶景の地には、高さ63cmほどの花崗岩に彫られた千手観音菩薩立像が祀られている。

名称 由来不詳の石造物(4)

登録番号 E0003

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



四王寺集落の入口の右側にある石造物。石造物の前には花立があり、献花が行われ祀られているが、地元区長さんによると「昔からそうしているが、何を祀ってあるのか詳細は不明」とのことである。

名称 ケイサシノ井

登録番号 E0006

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



四王寺山(大野山・大城山)は、665年に大宰府のため日本最古の朝鮮式山城「大野城」が築かれた場所。古代朝鮮式山城「大野城」が建設された当時は簡単な水場であったと思われるが、774年に四王院が建立される前後には整えられ、大宰に使用されていたと思われる。

名称 四王寺山のビューポイント 1

登録番号 E0002

所在場所 水城(四王寺山)



26番札所がある西側土塁の上の展望所。遠くに北西から志賀島・博多湾～脊振山～基山、中間に右から福岡空港・福岡市～太宰府市に至る市街地、下方には西に水城土塁を望む。右上方には九州大学の伊都キャンパス、離着陸する飛行機も見える。古と新、静と動…すばらしい眺めである。

名称 四王寺山三十三石仏 第27番札所

登録番号 E0005

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 広目天跡)



四王寺山三十三石仏の第27番札所は広目天跡付近に位置している。2像並んで祀られているが、向かって右側に祀られているのが右手を膝の上から頬につけて思惟の姿をされている如意輪観音菩薩座像である。台座に残された刻銘から寛政12年(1800)に建立されたことがわかる。

名称 四王寺山三十三石仏 第28番札所

登録番号 E0007

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



四王寺山三十三石仏の第28番札所には、高さ55cmほどの凝灰岩に彫られた聖観音菩薩座像が祀られている。台座には「廿八番」の刻銘が残されている。

名称 四王寺山のビューポイント 2

登録番号 E0008

現代

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



眼下に160ヘクタールに及ぶ大野城内が広がり、県民の森センター駐車場の杉並木が美しい曲線を描いている。その左に四王寺集落の人家が見え、主城原礎石群・北石垣・持国天跡なども巡ることができる。遠くに三郡山を中心に宝満山群が左方に連なり、大野城を守護しているかのようである。

名称 四王寺山のビューポイント 3

登録番号 E0009

現代

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



石仏三十三ヶ所28番札所と29番札所のほぼ中間、西側土塁線東横の尾根の中腹。南に雲仙岳、東に宝満山、その間に耳納連山、九住山、福岡県の最高峰釈迦ヶ岳、特徴的な古処山・大根地山が見え九州を代表する山々を眺望できる好遊地である。

名称 妙見祠(村方)

登録番号 E0010

近代

所在場所 国分5丁目 四王寺山の尾根



戦前は戦神(いくさがみ)ともいわれ、国分地区の女性達が戦争に出征する男性の無事を祈って参詣していた。昭和42年(1967)頃までは、女性ばかりで当番の家に集まって座が行われていた。昭和48(1973)年に山の持ち主の方が木祠から石祠に建て直し、その後代々管理されている。

名称 火の尾跡(推定)

登録番号 E0011

古代

所在場所 国分(四王寺山)



太宰府旧蹟全図(北)に「火ノ尾」が記され、また古地図に「火ノ尾」がほぼ同地点にあることから、国分より水城口城門に通じる道(屋根線上)のほぼ中間点にある平垣地と礎石群を比定。

名称 由来不詳の石造物(1)

登録番号 E0012

所在場所 国分



四王寺山山中、火の尾跡推定地から少し南側へ下った場所にある石造物。人工的に加工された穴状の跡があるが、何に使われたか不明である。

名称 観音堂

登録番号 E0013

所在場所 国分字辻



観音堂をはじめ、計5つの御堂が集まっており、白衣観音立像をはじめとして30体以上の御神体が祀られている。旧来は四王寺山・里沙門天詣りへの登り口でもあり、岩屋城合戦についての供養碑も所在している。近年の度重なる大雨による土砂災害等の諸問題もあり、移転も検討されている。

E 地区

名称 下大利橋

登録番号 E0014



所在場所 水城2丁目



太宰府市水城地区と大野城市東大利地区を結ぶ橋。同じ御笠川に架かる大野城橋の少し下流に位置しており、現在の橋は昭和59年(1984)12月に完成した。橋のすぐ南側には親水公園が設けられている。旧日田街道に架かる橋。

名称 猿田彦大神

登録番号 E0016



所在場所 水城2丁目



水城2丁目にある猿田彦大神。旧日田街道や四王寺山里沙門詣りの道が交差する場所に所在している。高さは166cm程あり、昭和12年(1937)5月に組合の方々によって建立された。田植え後に苗を供える風習が伝わる。

名称 田圃沿いの昔の道

登録番号 E0023



所在場所 水城2丁目



水城2丁目に残る田圃沿いの道。昔は、この道側に個人宅の表門があり出入りしていたとのこと。現在は反対側の旧街道沿いに作られた門を使用している。地図には現在でも道として道幅が記載されている。

名称 大野城橋

登録番号 E0015



所在場所 市外(大野城市 東大利3丁目)



太宰府市水城地区と大野城市東大利地区を結ぶ、御笠川に架かる橋。現在の橋は昭和60年(1985)12月に完成したもの。県道112号線(福岡日田線)が通っており、交通量が多い。橋のすぐ北側には親水公園が設けられている。

名称 水路(旧日田街道沿いの水路)

登録番号 E0021



所在場所 水城2丁目



日田街道は博多と日田を結ぶ街道で、国分・関屋・通古賀・二日市を通っていた。水城2丁目では、現在も旧日田街道に沿う水路が残っている。この水路は、昔は小川であり、各家には石製の渡りが設けられている。当時の面影を感じられる、残したい景観である。

名称 老松神社

登録番号 E0026



所在場所 水城1丁目(老松神社)



太宰府市の旧水城村の産神として祀られている神社。老松神社は天満宮の神木とされた老松が神格化されたもので、天満天神信仰の広がりと共に各地に勧請された。祭神は菅原道真。例祭は近世には9月15日(現在は10月16日)に行われ、那珂郡平尾村八幡宮の梅崎氏が奉祀を行っていた。

名称 水城の渡し跡

登録番号 E0027

所在場所 水城1丁目(老松神社)



地元伝承では、菅原道真が船便を利用して御笠川を上り、水城老松宮の辺りの渡し場で上陸し、国分の衣挂天神の辺りを経て苜堂の関を通過して宰府に向かったと言われている。現在、老松神社境内西側の御笠川岸に渡し場の跡と伝えられる7段の石段が残っている。

名称 水城橋(みずきばし)

登録番号 E0029

所在場所 水城1丁目



水城1丁目を流れる御笠川に架かる橋で、車道とは別に歩道橋が設けられている。太宰府市水城地区と大野城市下大利地区を結んでおり、すぐ近くには水城の老松神社や水城の渡し跡がある。

名称 猿田彦大神

登録番号 E0030

所在場所 水城6丁目



水城5丁目で祀られている高さ135cm、石製の猿田彦大神碑。もともとは水城2丁目にあったものだが、昭和47年(1972)の九州自動車道建設に伴う道路幅拡張のため、現在地へと移動した。田植え後に苗を供える風習が伝わる。

名称 国分小学校裏山の日の出が見える場所

登録番号 E0031

所在場所 国分2丁目(国分小学校裏山)



国分小学校裏山に位置する日の出が見える場所。水城台自治会の方々により、初日の出を見に来た人々に御神酒・コンブ・するめのお接待が行われている。元旦が悪天候の場合は中止するが、平成22年の元旦は天気も良く、近隣の方々20名程が拝みに来られた。

名称 水城展望台(水城南西方向を見る)

登録番号 E0032

所在場所 国分2丁目(国分小学校裏山)



国分小学校裏山にある展望台。水城跡が一望できる場所である。

名称 日田街道

登録番号 E0033

所在場所 水城3丁目



商業都市・博多から太宰府を通り、幕府直轄領・日田を結ぶ重要な街道であった。博多から南下すると、水城東門、苜堂開跡・開屋鳥居、王城神社と通り、二日市宿から日田方面へと進む道筋である。往時は街道沿いに松並木が並び、街道に面して細長い民家が立ち並んでいたという。

E 地区

名称 ひとつっこ山(跡)

登録番号 E0034

古代

所在場所 水城3丁目



水城築造に関わる伝説の1つ。水城造営の際、「土塁ができあがったぞ!」と叫び声が聞こえると、人々は担いでいた土を、歓声をあげてその場所に捨てた。その土が盛り上がり小山になり、その小山を「ひとつっこ山」と呼んだという。近年の開発に伴う駐車場・宅地造成により消失している。

名称 水城跡(東門側)

登録番号 E0036

古代

所在場所 水城1丁目～園分1丁目



水城は唐・新羅の来襲に備えて、天智天皇3年(664)に築造された土塁。日本書紀に記録があり、記録に残る日本最初の城である。水城の東門側には門跡・礎石・木樋などが確認されている。現在は、春には桜、秋にはコスモスが咲き、市民の憩いの場となっている。

名称 水城木樋跡(東門)

登録番号 E0038

古代

所在場所 園分1丁目



木樋はヒノキ材の底板2枚と側板、蓋板とからなっており、内法で幅1.2m、高さ80cmである。底板2枚は柄つぎにすると同時に長さ25cm、幅5cmの鉄のカスガイでとめられている。蓋板は殆どが腐蝕してしまっていたが、痕跡から底板とは直角方向に架けられていたとみられる。

名称 史蹟水城跡境界(5)

登録番号 E0035

近代

所在場所 水城1丁目(水城跡北側西)



史跡である水城跡と周辺の境界を示すためのもので、水城跡が史跡指定された大正10年(1921)に設けられたものと思われる。水城跡は大正10年3月3日に内務省によって史跡指定され、その後徐々に指定範囲を広げ平成15年(2003)までに10回の追加指定を受けている。

名称 水城跡石碑及び関連施設

登録番号 E0037

現代

所在場所 水城1丁目(水城跡 県道112号線沿)



水城跡東門側を見渡せる位置に、平成20年(2008)2月に完成した特別史跡水城跡第2広場。「特別史跡水城跡」石碑と説明板2基が設置され、駐車場・御手洗いが整備され見学者への便宜が図られている。

名称 「水城」銘 墨書土器発見場所

登録番号 E0039

古代

所在場所 園分1丁目(東門木樋取部南側)



県と九歴は、第10次調査(1978年12月1日～1979年1月31日)で木樋取水部南側250㎡を行ったが、木樋に関係する遺物は検出されなかった。しかし、木樋の井戸を確認し、そこから8世紀後半頃の「水城」銘の墨書された土師器の壺が出土した。

名称 水城瓦窯跡

登録番号 E0040

古代

所在場所 国分1丁目(水城跡南側)



8世紀中頃と考えられる瓦窯。窯の構造はロストル式の平窯で、登り窯が主流であった九州では珍しく、都でみられる平窯を用いている。

名称 水城大堤之碑

登録番号 E0042

近代

所在場所 国分



大正4年11月大正天皇大御典の記念事業として水城青年会の発案によって大正5年5月の建設された。裏面には、水城村出身の技手竹森善太郎が実測し、九州帝国大学教授君島工学博士の監検を得た堤防実測の結果を刻んでいる。碑文は、上水城に住んでいた武谷水城が遺書。

名称 国分小学校下の風景

登録番号 E0044

現代

所在場所 国分2丁目



国分小学校から下り、陣ノ尾古墳の横を入って行った地点にある高台からの景色。尼寺跡を望むと、眼下には田んぼが一面に広がっている。また遠方には天拝山や九千部山が見渡せる絶景ポイントである。

名称 賽の神・小夜神(さいのかみ)

登録番号 E0041

所在場所 水城1丁目(水城跡北側東)



水城堤の根本に祠があり、「賽の神」として祀られている。伝承では、江戸時代にこの地で斬られた武士の娘を弔うため、里人がこの地に小さな堂を建てて霊を祀ったと伝えられている。現在祠内には男性のシンボルが祀っており、参拝者も多く、性病が治るといふ信仰もある。

名称 史蹟水城跡境界(1)

登録番号 E0043

近代

所在場所 国分2丁目(水城跡東門近く)



史蹟である水城跡と周辺の境界を示すためのもので、水城跡が史蹟指定された大正10年(1921)に設けられたものと思われる。水城跡は大正10年3月3日に内務省によって史蹟指定され、その後徐々に指定範囲を広げ平成15年(2003)までに10回の追加指定を受けている。

名称 千手観音(筑紫四国第九十五番札所)

登録番号 E0045

近代

所在場所 国分2丁目(水城跡東門近く)



水城東門近くにある観音堂。石造千手観音坐像(高さ61cm)と石造弘法大師坐像(高さ46cm)を祀っており、筑紫四国第九十五番札所である。現在の木祠は昭和63年(1988)3月に、国分地区の人々の寄付によって建立されたものである。

E 地区

名称 史蹟水城跡境界(2)

登録番号 E0046  近代

所在場所 国分2丁目(水城跡東門近く)



史跡である水城跡と周辺の境界を示すためのもので、水城跡が史跡指定された大正10年(1921)に設けられたものと思われる。水城跡は大正10年3月3日に内務省によって史跡指定され、その後徐々に指定範囲を広げ平成15年(2003)までに10回の追加指定を受けている。

名称 史蹟水城跡境界(3)

登録番号 E0048  近代

所在場所 国分1丁目(水城跡南側東)



史跡である水城跡と周辺の境界を示すためのもので、水城跡が史跡指定された大正10年(1921)に設けられたものと思われる。水城跡は大正10年3月3日に内務省によって史跡指定され、その後徐々に指定範囲を広げ平成15年(2003)までに10回の追加指定を受けている。

名称 衣挂神社(衣掛神社)

登録番号 E0050 

所在場所 国分2丁目



延喜元年(901)、菅原道真が大宰府へ西下した際、身支度を整えたと伝えられる場所。「衣挂の石・松」、姿見の井が周辺に残る。押殿扁額が、かつてあった衣掛けの松を使用。文化9年建立の鳥居扁額が衣を掛けるという字義を忠実に表現している。「掛ける」は、本来掛け軸などを掛ける意味。

名称 日田街道(博多往還)

登録番号 E0047 

所在場所 国分2丁目



水城跡東門から日田方面に向かっての日田街道。国道3号線(現県道112号線)が開通するまでは、日田街道が主要な幹線道路であった。沿線には博多へ出向く商人たちの宿が建っていた。

名称 姿見の井

登録番号 E0049 

所在場所 国分2丁目



延喜元年(901)、菅原道真が大宰府へ西下した際、身支度を整えるため自らの姿を池に映したと言われている。近年の調査により、明治期以降に造られた幅1.5m、奥行2.5mの石組み池跡が確認された。現在は歴史的風致維持向上計画に基づき、「姿見井」として復原されている。

名称 水城の関(水城東門の礎石)

登録番号 E0051  古代

所在場所 国分2丁目(水城東門跡の公園)



水城に設けられた東西2か所の内、東側にある門の礎石。東門の礎石は、本来の位置から移動している可能性が高い。旧国道3号線沿いの石囲いした中にある。

名称 衣挂神社(衣掛神社) 焼納祭

登録番号 E0052

所在場所 国分2丁目 衣挂神社境内



毎年12月31日の午後5時～6時に行われる神事で、古いお札・お守りに感謝の気持ちを込めて、境内中央に掘られた穴に入れお焚き上げする。12月20日から焼納受付箱を置き、お札・お守りなどを受け付ける。現在、国分小学校区には三神社あるが、焼納祭は衣挂神社だけが行っている。

名称 筑前国分尼寺南側の境界線

登録番号 E0054

所在場所 国分2丁目



筑前国分尼寺の領域を区切る南側の境界線。現在は有料駐車場と個人宅との敷地境界線となっている。

名称 筑前国分尼寺跡

登録番号 E0053

所在場所 国分2丁目



天平13年(741)年、聖武天皇の命により鎮護国家・五穀豊穡を祈るために全国に建立された寺の1つ。正式名称は法華滅罪之寺(ほっけめつざいのでら)といい、10人の尼僧が置かれた。国分尼寺は、8世紀後半に造られ100年ほどしか存続しなかったと推定され、跡地は現在田圃になっている。

名称 筑前国分尼寺の東側の道

登録番号 E0055

所在場所 国分2丁目



筑前国分尼寺の東の境界に沿って現存する道路。

名称 陣ノ尾川沿いの道

登録番号 E0056

所在場所 国分2丁目



昔、国分地区は天満宮を中心とする地区を「ムラ方」、旧街道沿いの地区を「マチ方」と呼んでいた。このムラ方とマチ方を結ぶ唯一の道が陣ノ尾川沿いの道であった。以前は木々が鬱蒼と生い茂る道で、人家もあまり無かったためか、「陣ノ尾川の伝説」が伝えられていた。

名称 陣ノ尾川の側溝

登録番号 E0057

所在場所 国分2丁目



国分小学校の児童が、川に降りて遊ぶ風景を見ることができ、むかしの風情をしのぶことができる。

E 地区

名称 国分寺南側の道路

登録番号 E0058

古代

所在場所 国分3丁目(国分共同利用施設の南側)



筑前国分寺の南を通る道路。国分尼寺・国分僧寺(国分寺)を結ぶ道路でもある。

名称 西ノ池

登録番号 E0060

近世

所在場所 国分5丁目



国分5丁目に所在する溜池。農業用水のため近世に造成されたもので、水面面積10047㎡の広さを誇る。また、池周辺の景観は素晴らしい。湖面に映る夕日は特に美しい。地域の方々の散歩コースにもなっており、犬の散歩など多くの人々に利用されている。

名称 身代地藏菩薩(屋敷神)

登録番号 E0062

近代 現代

所在場所 国分5丁目



身代地藏と呼称されるお地藏様で、真言は「おんかかびさんまえいそわか」を3回唱える。1日は赤飯、4のつく日は酒・塩・米を供える。また、年に一度、地藏さんの帽子と前垂れをホーム利用のお年寄りの方がつくって、かけかえている。

名称 川原地下道(太宰府市-07)

登録番号 E0059

現代

所在場所 国分1丁目 国道3号線側道6号線



昭和末から平成にかけて国道3号線福岡二日市間の交通需要増大により、太宰府市関屋地区における交通混雑は著しいものであった。このため、3号線バイパス建設として平成5(1993)年度より関屋高架橋工事に着手。平成8年(1996)12月11日の完成に伴い、地下道も設置されている。

名称 民家の敷地を通る道

登録番号 E0061

近代 現代

所在場所 国分5丁目



民家の庭を道路として使っている状態。国分台から国分に通じる道は公道として地図に載っている。

名称 庚申草天

登録番号 E0063

近代 現代

所在場所 国分5丁目(国分台団地と上ノ池への分かれ道角)



国分台団地へ上る道と上ノ池へ上る道の分岐点にある石塔。高さ140cmほどの石塔に「庚申草天」と銘が彫られている。以前は田植えが済んだ後、立派な苗三把をよく洗って供えていたが、現在は行われていない。

名称 国分寺西側境界の延長になる道

登録番号 E0064

所在場所 国分5丁目



国分寺周辺は旧地形がそのまま残っている場所が多い。この小道は国分寺西側境界の延長線上になると思われる道で、ほぼ南北に通っている。現在も地区の方々の生活道路として使われている道である。

名称 国分寺西側と北側の境界線が交わる所

登録番号 E0065

所在場所 国分5丁目



国分寺周辺は旧地形がそのまま残っている場所が多い。この場所は、国分寺の西側境界と北側境界が交わると推定される地点である。

名称 道路造成(田中-松本線)記念碑

登録番号 E0066

所在場所 国分3丁目



土地整備事業を記念した石碑。道路を造成するにあたり、土地を提供された方が居られ、その方が事業を記念して石碑も自費で建立したといわれている。

名称 国分寺西側公道の土壌にあるコンクリートの柁(1)

登録番号 E0068

所在場所 国分4丁目(国分寺史跡指定地内)



史跡整備の際の、排水計画時の溜めマス。

名称 国分寺史跡指定境界標(5)

登録番号 E0069

所在場所 国分3~4丁目



大正11(1922)年に国分寺跡が国指定された頃に建てられたと思われる。史跡指定境界標内務省と刻まれている。史跡の範囲を表す。

名称 国分寺史跡指定境界標(4)

登録番号 E0070

所在場所 国分3~4丁目



大正11(1922)年に国分寺跡が国指定された頃に建てられたと思われる。史跡指定境界標内務省と刻まれている。史跡の範囲を表す。

E 地区

名称 国分寺史跡指定境界標(9)

登録番号 E0071



近代

所在場所 国分3~4丁目



大正11(1922)年に国分寺跡が国指定された頃に建てられたと思われる。史跡指定境界標内務省と刻まれている。史跡の範囲を表す。

名称 旧河川

登録番号 E0074



所在場所 国分4丁目



奥ノ池から国分地区の田んぼへ、灌漑用水路として機能していた旧河川。流路沿いの個人宅は、小さな石橋を渡って出入りしていたという。現在は道路整備事業による道幅拡張のため、河川の上に道路が作られている。

名称 史跡の公有地境界石柱(1)

登録番号 E0076



所在場所 国分4丁目



筑前国分寺史跡の公有地境界を示す石柱。コンクリート製で正面には「文化財」の文字が刻まれている。筑前国分寺には2ヶ所あり、こちらは講堂跡北側斜面のものである。

名称 国分寺史跡指定境界標(10)

登録番号 E0072



近代

所在場所 国分3~4丁目



大正11(1922)年に国分寺跡が国指定された頃に建てられたと思われる。史跡指定境界標内務省と刻まれている。史跡の範囲を表す。

名称 筑前国分寺(龍頭光山筑前国分寺)

登録番号 E0075



古代

所在場所 国分3~4丁目



聖武天皇の発願で全国の国毎に建てられた国分寺のうち、筑前国分寺の跡。現在は、後継寺院「龍頭光山筑前国分寺」という真言宗の寺があり、また周辺は発掘調査に基づいて整備されている。

名称 国分寺西側公道の土壌にあるコンクリートの柵(2)

登録番号 E0077



所在場所 国分4丁目(国分寺史跡指定地内)



史跡整備の際の、排水計画時の掘りマスの。

名称

登録番号

所在場所



御祭神は...
などは不明。
宮となり、
の方々によ
の祭事が...

名称

登録番号

所在場所



発掘調査
していたら
I期の遺
るため3
窟上部や

名称

登録番号

所在場所



筑前国
い。道
ことが

名称 国分天満宮

登録番号 E0078



所在場所 国分4丁目 国分寺南側



御祭神は菅原道真。昔は不老天神とも言われていた。縁起などは不明。当初は八幡宮であったものが、いつの時代か天満宮となり、産土神として祀られるようになった。現在は氏子の方々によって、宮座をはじめ、夏祭り、秋祭り、初詣などの祭事が執り行われている。

名称 筑前国分寺講堂跡

登録番号 E0080



所在場所 国分4丁目



発掘調査の成果によると、11世紀末にはすでに講堂は消失していたらしい。1期は7間×4間の四面庇建物となる。整備は1期の遺構を平面復原したもので、礎石は大部分消失しているため3個だけ配している。芝草が植えられているが、復原基壇上部や周辺部でつくし採りが楽しめる。

名称 国分寺西側境界線の土地

登録番号 E0082



所在場所 国分3丁目(国分児童公園裏)



筑前国分寺周辺は古い地形がそのまま残っている場所が多い。道にはやや傾斜があり、国分寺が丘陵地に所在していたことがうかがえる。

名称 国分天満宮境内の石柱

登録番号 E0079



所在場所 国分4丁目



国分天満宮の境内にある高さ64cm程の石柱。社務所の敷地坪数等を示すもので、大正13年(1924)3月に建立されたものである。

名称 国分寺史跡指定境界標(8)

登録番号 E0081



所在場所 国分3~4丁目



大正11(1922)年に国分寺跡が国指定された頃に建てられたと思われる。史跡指定境界標内務省と刻まれている。史跡の範囲を表す。

名称 国分寺西側道跡の名残をとどめる道

登録番号 E0083



所在場所 国分3丁目



筑前国分寺周辺は古い地形がそのまま残っている場所が多い。この道は国分寺の西側を画する道で、現在も地区の方々の生活道路として使われている道である。

E 地区

名称 明治百年記念碑

登録番号 E0084

現代

所在場所 国分3丁目(国分児童公園内)



国分児童公園にある記念碑。御影石製。高さ130cm、幅・奥行ともに25cmを測る。この記念碑は明治生まれの方が、明治100年を記念して昭和43年(1968)に建立したもので、当時はこの公園で運動会などの行事が行われており、その際には国旗掲揚用の基台として使用。

名称 国分寺史跡指定境界標(2)

登録番号 E0085

近代

所在場所 国分3~4丁目



大正11(1922)年に国分寺跡が国指定された頃に建てられたと思われる。史跡指定境界標内務省と刻まれている。史跡の範囲を表す。

名称 猿田彦大神

登録番号 E0088

近代

所在場所 国分3丁目(国分児童公園内)



国分3丁目の児童公園内、史蹟筑前国分寺跡碑の側に建立されている猿田彦大神の碑。石碑の表面に文字は見えないが「猿田彦大神」といわれており、1年に1回、注連縄を取り替えて祀っている。

名称 築地塀があったと思われる場所

登録番号 E0085

古代

所在場所 国分3丁目(児童公園横の畑)



国分3丁目の児童公園南側に位置する畑にある段差。発掘調査から築地塀に遺構が確認されており、この場所に筑前国分寺の寺院地と集落を区画する築地塀があったと推定される。また、この付近は筑前国分寺南側の境界にあたるため、周辺に9m幅の前面道路も存在していたと考えられる。

名称 国分寺史跡指定境界標(3)

登録番号 E0087

近代

所在場所 国分3~4丁目



大正11(1922)年に国分寺跡が国指定された頃に建てられたと思われる。史跡指定境界標内務省と刻まれている。史跡の範囲を表す。

名称 史蹟筑前国分寺跡(児童公園内)の石柱

登録番号 E0089

近代

所在場所 国分3丁目(国分児童公園内 南フェンス側)



筑前国分寺跡が、史蹟名勝天然記念物保存法に依り大正11(1922)年10月内務大臣指定を受けたことを記念して大正13(1924)年7月に建設された石碑。

名称 国分区のほんげんぎょう

登録番号 E0090

所在場所 国分3丁目(国分児童公園)



以前は1月7日に実施していたが、最近では第2日曜日に実施する。真竹・孟宗竹などを、組み立て、当日早朝、自治会長の火種より子ども会の代表の松明に火をつけ、四方より火入れ。炎の勢い、生竹の弾ける音が、その年の豊作を占うとされ、餅を焼いて食べると、無病息災で過ごせるといふ。

名称 ムクノキの巨木3本

登録番号 E0095

所在場所 国分4丁目



国分寺の北東に位置する毘沙門堂と若宮神社を覆うようにある3本の巨大なムクノキ群。太宰府市内最大で、平成21年(2009年)3月3日には市指定天然記念物に指定されている。以前は、神社で神屋しを行う際の薪に使用するため、ムクノキの枝打ちを行っていた。

名称 国分 毘沙門堂

登録番号 E0097

所在場所 国分4丁目



若王寺山にある毘沙門堂を参ることができないために、国分の人が見沙門堂の石を持ち帰り彫って御神体にした。また、三井郡北野村の信者が四王寺の毘沙門様にお参りするのが遠いので土地を寄付してもらって建てたともいわれている。お堂は2回建て替えられている。

名称 国分寺史跡指定境界標(1)

登録番号 E0091

所在場所 国分3~4丁目



大正11(1922)年に国分寺跡が国指定された頃に建てられたと思われる。史跡指定境界標内務省と刻まれている。史跡の範囲を表す。

名称 史跡の公有地境界石柱(2)

登録番号 E0096

所在場所 国分4丁目



筑前国分寺史跡の公有地境界を示す石柱。コンクリート製で正面には「文化財」の文字が刻まれている。筑前国分寺には2ヶ所あり、こちらは毘沙門堂横のものである。

名称 若宮神社

登録番号 E0098

所在場所 国分4丁目(国分寺東北)

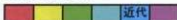


国分寺の東北にある神社。石祠は江戸時代の享和4年(1804)に建立されたもので、年紀が分かる祠では最古のものである。祠背面には22名の氏名が刻まれており、また、祠内には高さ43cmの自然石が御神体として祀られている。

E 地区

名称 国分寺史跡指定境界標(7)

登録番号 E0099



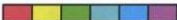
所在場所 国分3~4丁目



大正11(1922)年に国分寺跡が国指定された頃に建てられたと思われる。史跡指定境界標内務省と刻まれている。史跡の範囲を表す。

名称 国分寺西側公道の土壌にあるコンクリートの橋(3)

登録番号 E0101



所在場所 国分4丁目(国分寺史跡指定地内)



史跡整備の際の、排水計画時の溜めマス。

名称 奥ノ池

登録番号 E0104



所在場所 大字国分



農事用として造られた溜池で、国分区域内に5つある池のなかで最も高台に位置する。ここから九千部山、牛頭山、青振山、金山、井原山、雷山、油山など山々の景観が素晴らしい、また四季折々にワラビ摘み等が楽しめる。昭和40(1965)年以降は宅地化が進み、池水の利用が減少している。

名称 国分寺史跡指定境界標(6)

登録番号 E0100



所在場所 国分3~4丁目



大正11(1922)年に国分寺跡が国指定された頃に建てられたと思われる。史跡指定境界標内務省と刻まれている。史跡の範囲を表す。

名称 上ノ池をのぞむ風景

登録番号 E0103



所在場所 国分4丁目



別名「田中池」とも呼ばれ、近世に造成された溜池と考えられる。新池からの調整池とされ、新池・奥ノ池の両池から水が入り込むように仕掛け水路が設けられる。池周辺からの風景は美しく、西方には水城跡や青振山脈が広がる眺望地である。

名称 溜池「奥ノ池」の水路

登録番号 E0105



所在場所 国分5丁目



昔からの灌漑用水路としての河川や水路は、道路整備事業や水害対策などにより、拡張されたり、コンクリート造りになっている。

名称 溜池「奥ノ池」の水路

登録番号 E0106

近代

所在場所 園分5丁目



昔からの灌漑用水路としての河川や水路は、道路整備事業や水害対策などにより、拡張されたり、コンクリート造りになっている。

名称 新池(窪の池、窯の池、瓦窯の池)

登録番号 E0110

近世

所在場所 園分



農業用水のため、園分区に設けられた溜池。

名称 新池土堤

登録番号 E0111

近世

所在場所 大字園分字辻



新池の周囲に広がる土堤。見晴らしがよく、散歩路としても利用されている。また、季節になるとワラビが群生するなど、自然が多く残されている。

名称 新池 墓石

登録番号 E0112

所在場所 園分(新池)



池の管理者の方が管理に入るとき、柵を越える踏み台代わりにこの石を使っていたら、足が悪くなったという。よく見ると石に文字が刻まれていることに気づいた。この石が誰かの墓石であることに驚き、写真のように木に立てかけ手を合せるようになったら、足も良くなったとのことである。

名称 園分瓦窯跡

登録番号 E0113

古代

所在場所 園分



筑前園分寺に瓦を供給した古代の瓦窯跡。出土瓦は「佐」銘のある瓦が主体で、筑前園分寺などにおいて大量に出土している。大正11年(1922)年10月12日に国の史跡指定を受けている。

名称 水準点

登録番号 E0114

現代

所在場所 園分3丁目(千足町第2公園内)



千足町第2公園内にある一等水準点。建設省国土地理院九州地方測量部によって設置されたもの。一等水準点は、東京都千代田区永田町1丁目1番地にある日本水準原点を基準として、全国の国道、都道府県沿い2km毎に全国で約2万点設置されているものである。

E 地区

名称 稲子地蔵

登録番号 E0115

所在場所 国分3丁目(宝満庵しの丘の下)



高さ94cm程の自然石で出来た稲子地蔵が祀られている。由来には諸説あり、如堂の関守の身代りになり敵刃に倒れた侍女稲子を祀るといふ言い伝えや、宝満山の山伏に恋をした稲子が身を投げて亡くなったのを村人が哀れに思い弔ったという話などが伝わっている。

名称 お堂跡推定地

登録番号 E0117

所在場所 大宇関分(四王寺山園分側尾根)



古墳群より100mほど下った雑木林の中に、古墳群がある地形と明らかに異なる約5m四方の溝に囲われた平らな場所を発見した。

名称 国分ポスト横の石

登録番号 E0121

所在場所 国分3丁目



建物が自動車当たらないようにするために埋め込んだ石。車止め石。

名称 引陣地蔵(ヒキジジソウ)

登録番号 E0116

所在場所 大宇関分



引陣(ヒキジ)という地名は、天正14年(1586)の岩屋城合戦の際に島津氏の軍勢がここを通過して引き上げたことに由来するという。また、合戦の戦死者を地元の人達が供養したといわれている。地蔵堂は昭和14年(1939)に建立され、その後手が加えられている。

名称 大行事碑

登録番号 E0120

所在場所 大宇関分字辻



江戸時代の文化元年(1804)に建立されたもので、牛馬安全・五穀豊穡・村の守り神として農家の人達に信仰されてきた。毎年9月16日には「大行事参り」が行われており、以前は農家の人達が牛馬を引き連れてお参りし、御供えしたオゴク(御飯)を牛馬にいただかせる習わしであった。

名称 御笠川のゴム製井堰

登録番号 E0122

所在場所 水城1丁目(御笠川)



太宰府市を流れる御笠川の下流、平田川との合流点付近に位置する井堰。御笠川の河川整備に伴い、ゴム製の井堰が設けられ水位調整が行われている。

名称 お山の見える場所

登録番号 E0123

所在場所 国分4丁目



百王寺山から国分へ下りてくると、左側に尺上池、目の前には遙か遠く、背嶺山、金山、井原山、雷山、油山などお山を見渡すことができる。

名称 薬師堂

登録番号 E0142

所在場所 国分2丁目



御神体 石造薬師如来坐像。切石 南無妙法蓮華経。切石は管理者の義母が交通事故防止を願って祀った。旧日田街道沿いに建っている。旧平嶋家の屋敷跡にある。

名称 大野城跡

登録番号 E0143

所在場所 市内・市外(宇美町・大野城市)



大宰府防衛のために天智天皇4年(665)に基肄城と南北に相対して、大宰府政庁背後の大城山(410m)に築かれたものである。『日本書紀』によると百濟の亡命者である饒礼福留、四比福夫の指揮のもと築造されたもので、尾根に沿って土塁を築き、谷を通過する部分には石垣が築かれている。

名称 陣ノ尾1号墳

登録番号 E0144

所在場所 国分2丁目



国分に所在する4基からなる古墳群の1つ。1号墳(市指定)は横穴式石室をもつ6世紀後半の円墳で、鉄鏝・耳環など出土した。

名称 水城跡

登録番号 E0145

所在場所 国分・市外(大野城市)



唐・新羅の来襲に備えて、天智天皇3年(664)に築造された土塁。日本書紀に「大堤を築きて水を貯えしむ。名づけて水城といふ」とあり、記録上確認できる日本最初の城である。現存の堤防は高さ13m、幅約80m、全長1.2km、博多側に幅60m、長さ4mの外堤が確認されている。

名称 礎石(伝国分尼寺の礎石)

登録番号 E0146

所在場所 国分3丁目(国分共同利用施設前)



土留め用の石垣に利用されていた礎石で、耕地整備に伴って現在地に移設整備された。礎石は花崗岩製で礎石上面には径上面約68cm、下端約70cmで高さ1~1.5cmを測る円形柱礎が造り出されている。

E 地区

名称 成屋形遺跡(なりやかたいせき)

登録番号 E0147



所在場所 水城5丁目



四王寺山から西側に派生する丘陵群に広がる遺跡。太宰府市唯一の前方後円墳。旧石器時代から平安時代にかけての遺跡で、発掘調査は過去7回行われた。大宰府官人の館があった跡という由来から字名が「成屋形」という。

名称 八反田地下道(太宰府市—04)

登録番号 E0149



所在場所 水城2丁目 国道3号線側道3号線



昭和末から平成にかけて国道3号線福岡二日市間の交通需要増大により、太宰府市関屋地区における交通混雑は著しいものであった。このため、3号線バイパス建設として平成5(1993)年度より関屋高架橋工事に着手。平成8年(1996)12月11日の完成に伴い、地下道も設置されている。

名称 妙見祠(町方)

登録番号 E0152



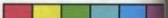
所在場所 国分2丁目 陣ノ尾の山の水城寄りの尾根



昭和18年(1943)頃、造り酒屋を営んでいた住民の方が祀ったもの。お祀りした理由は、四王寺毘沙門堂へお参りするのが遅かったことと、戦時中に亡くなった人の供養としてお祀りされたという。当初は石造の扉があったが無くなり、御神体も行方不明である。現在は鉄製の小鳥居が残っている。

名称 毘沙門まいり

登録番号 E0148



所在場所 国分地区



正月3日には、四王寺山頂にある毘沙門様に参詣し、お賽銭をいくらか借りて帰り、翌年倍にして返すと、商売が繁盛し、金に困らないと言いつたといわれている。榎の鹿島神社にも毘沙門様の祠があり、かつては四王寺山の毘沙門様と同じ日に節を一升供えて祀っていたという。

名称 鬼瓦

登録番号 E0151



所在場所 国分4丁目(文化ふれあい館)



鬼瓦は瓦葺建築の大棟・下棟・稚児棟の端に用いる飾り瓦である。全高は49.7cm、現存最大幅35.5cm。鬼面は内盛りが厚く、逆立つ怒髪、つり上がった眉、四天王のような鋭い目、深い眉間の皺、厚く盛上った頬、口を大きく開いた憤怒相は、他の地方にない太宰府独特のものである。

名称 供養塔

登録番号 E0153



所在場所 国分2丁目(衣掛神社の裏山村近)



昭和33年(1958)頃、畑の拡張工事に際して古墳が出土し、横山猛・長沼賢海両氏が発掘にあたり石棺・かめ棺・土拉高などが確認された。この時発見された人骨を供養するために建てた供養塔である。石碑は高さ100cmほどの自然石で、榎と木が供えられている。

名称 供養塔の桜

登録番号 E0154

所在場所 圖分2丁目 衣掛神社の裏山付近



圖分2丁目の衣掛神社裏山にある桜の木。供養塔を見守るように巨木が4本育っており、枝が大きく広がり桜花が心を和ませしてくれる。この桜は元来この土地にあったものではなく、土地の所有者が植えたものという。

名称 国分寺前石製燈籠

登録番号 E0155

所在場所 圖分3丁目



筑前国分寺前の三叉路にある石燈籠。立地が筑前国分寺金堂跡のほぼ正面にあたることから、所蔵のある總国分寺として名高い奈良東大寺大仏殿の前にある銅燈籠をイメージしたものの。素材は石で、八女燈籠の職人が製作したものである。

名称 衣掛神社(衣掛神社)の参道(改修)

登録番号 E0156

所在場所 圖分2丁目(衣掛神社)



平成22年(2010)11月5日より11月末まで、参道を石畳にする改修工事を氏子連自らの手で行った。石は中国から輸入したもので、地固め用の工具も氏子手作りのものを使用し、延人数6名で実施。延日数11日で工事は完成。

名称 昔の水路(トンネル入口)

登録番号 E0157

所在場所 大字園分(奥ノ池の山側)



奥ノ池付近には以前2つの池があり、その池を結んでいた水路である。2つの池の間には小山があり、その地下をトンネル状の水路が通っていた。第二次世界大戦中、この水路を防空壕として使用するために入口をアーチ状に拡げて人が出入り出来るようにした。

名称 昔の水路(トンネル出口)

登録番号 E0158

所在場所 大字園分(奥ノ池の山側)



奥ノ池付近には以前2つの池があり、その池を結んでいた水路である。2つの池の間には小山があり、その地下をトンネル状の水路が通っていた。第二次世界大戦中、この水路を防空壕として使用するために入口をアーチ状に拡げて人が出入り出来るようにした。

名称 成屋形地下道(太宰府市—01)

登録番号 E0159

所在場所 水城2丁目 市道丸山・鳥瀬線



昭和末から平成にかけて国道3号線福岡二日市間の交通需要増大により、太宰府市関屋地区における交通混雑は著しいものであった。このため、3号線バイパス建設として平成5年度より関屋高架橋工事に着手。平成8年(1996)12月11日の完成に伴い、地下道も設置されている。

E 地区

名称 裏ノ田地下道

登録番号 E0160



現代

所在場所 水城2丁目 町裏・裏ノ田橋



昭和末から平成にかけて国道3号線福岡二日市間の交通需要増大により、太宰府市閑屋地区における交通混雑は著しいものであった。このため、3号線バイパス建設として平成5年度より閑屋高架橋工事に着手。平成8年(1996)12月11日の完成に伴い、地下道も設置されている。

名称 国分小裏山より見る四王寺山(秋の風景)

登録番号 E0162



現代

所在場所 国分2丁目 国分小裏山



国分小学校より徒歩5分の場所にある見晴台。秋には正面に赤・黄に染まった四王寺山の美しい紅葉が見られる。

名称 水城村からの道

登録番号 E0164



所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)・水城地区



古地図に描かれている水城から水城口城門跡へ至る道。太宰府市水城地区から見沙門堂・四王寺村方面への道として利用されていた。現在ではほとんど通る人は無い。

名称 裏ノ田池(裏の田・浦の田)

登録番号 E0161



近世

所在場所 水城6丁目



農業用水のために造られた溜池。江戸時代の『享和明細記』に記録が残されている。面積は1994年の調査時で5846㎡である。池の側には、四王寺山の見沙門堂へ行く古道が残っている。

名称 紺町地下道(太宰府市-05)

登録番号 E0163



現代

所在場所 国分1丁目 正戻・川久保線



昭和末から平成にかけて国道3号線福岡二日市間の交通需要増大により、太宰府市閑屋地区における交通混雑は著しいものであった。このため、3号線バイパス建設として平成5(1993)年度より閑屋高架橋工事に着手。平成8年(1996)12月11日の完成に伴い、地下道も設置されている。

名称 野口地下道(太宰府市-03)

登録番号 E0165



現代

所在場所 水城2丁目 市道水城橋・小柳線



昭和末から平成にかけて国道3号線福岡二日市間の交通需要増大により、太宰府市閑屋地区における交通混雑は著しいものであった。このため、3号線バイパス建設として平成5年度より閑屋高架橋工事に着手。平成8年(1996)12月11日の完成に伴い、地下道も設置されている。

名称 鍛冶久地下道(太宰府市-06)

登録番号 E0166

現代

所在場所 国分1丁目 国道3号線側道6号線



昭和末から平成にかけて国道3号線福岡二日市間の交通需要増大により、太宰府市開墾地区における交通混雑は著しいものであった。このため、3号線バイパス建設として平成5(1993)より開墾高架橋工事に着手。平成8年(1996)12月11日の完成に伴い、地下道も設置されている。

名称 集水枡

登録番号 E0168

現代

所在場所 国分5丁目



昭和43年(1968)に国分台団地が造成された際に造られた集水枡。地すべり防止のため、四王寺山からの地表水を集水するが目的。平成15(2003)年7月19日の大雨により大きな被害を及ぼしたため、集水枡を大きくする工事が開始され、平成22(2010)年10月末に完成。

名称 国分天満宮の宮座

登録番号 E0170

所在場所 国分4丁目



毎年一度行われる神事であり、氏子の総会の意味を持つ。昔の宮座当番は、家の畳・襖・障子の張り替えから始まり、当元になると、自宅で直会をされていた。

名称 万葉歌碑 娘子児島・大納言大伴麿

登録番号 E0167

現代

所在場所 国分2丁目(水城東門跡の公園)



730年に大宰帥大伴旅人は大納言となり、大宰府を離れることとなった。旅人が都へ帰る際、水城に見送りに来てくれた官人達と共に居た遊行女婦児島が詠んだ歌と、それに応えた旅人の歌が記されている。もとは姿見の池に所在していたが、整備事業に伴い2011年11月頃に現在地へと移転した。

名称 老松神社のほんげんきょう

登録番号 E0169

所在場所 水城1丁目



ほんげんきょうの前日に櫓を組み上げる。櫓の大きさは円錐形、周囲4m、高さ6m程の孟宗竹で組まれる。内部に竹や笹、正月のお飾りを入れて午前9時から火入れし、燃え上がると「バーン・バーン」という音が今年一年の災いを払い落とすと考えられている。

名称 どろんこ祭り

登録番号 E0171

所在場所 国分区内の5つの池



池の水を抜き、清掃していたものを国分小学校の要請により25年程前から、学校行事「どろんこ祭り」として行う。当日は、5・6年生が池に入って魚を捕り、水槽へ移し、保護者・PTA・地域の方々と協力して別の池へと運ぶ。子供たちも楽しみにしている。

E 地区

名称 史蹟水城跡境界(4)

登録番号 E0172



所在場所 圏分1丁目(水城跡南側西)



水城跡に設置されている史跡境界碑。水城跡が史跡指定された大正10年(1921)に設けられたものと思われる。水城跡は大正10年3月3日に内務省によって史跡指定され、その後次々に指定範囲を広げ平成16年(2003)までに10回の追加指定を受けた。

名称 衣挂神社(衣掛神社)のヨド

登録番号 E0174



所在場所 圏分2丁目(衣挂神社)



ヨドとは、各ムラの氏神やムラに祀られている神仏の夏祭りということで、ヨドは「宵祭り」を意味する。衣挂神社では開催の前日から御神燈作りなどを行って準備している。

名称 老松園

登録番号 E0176



所在場所 圏分2丁目



太宰府市圏分の衣挂神社に奉納された鞍馬の一つ。板地で、大きさは縦51.0cm、横186.0cm、昭和28(1953)年に制作されたもので、山本南窓の作である。松が枯れたのを惜んだ氏子が、近くに在任の中学校の美術教師山本南窓氏に依頼して制作したものだ。

名称 衣挂神社(衣掛神社)の宮座

登録番号 E0173



所在場所 圏分2丁目(衣挂神社)



年に一度行われる神事であり、氏子の總會の意味を持つ行事。現在は、氏子總會、神事、奉納、御神酒、謡曲、会食という流れで行われている。お供え・料理・持ち回りの道具などについて記載してある記録が、宮座帳として昭和30年から代々受け継がれている。

名称 衣挂神社(衣掛神社)のほんげんぎょう

登録番号 E0175



所在場所 圏分2丁目(衣挂神社)



前日の1月6日午後2時より準備を開始。氏子の方々が12~3名集まり、お宮の裏山から孟宗竹や笹を切り出し、衣挂神社では櫓を「井」桁に組む。翌早朝総代さんが点火し、燃える炎とともに竹が焼けて「バーン」と鳴る音が今年一年の災いを払い落とすと考えられている。

名称 毘沙門詣りの道1(旧道から)

登録番号 E0177



所在場所 水城2丁目 猿田彦大神がある道



水城地区から四王寺山へ毘沙門詣りする際の道。下水城にある旧道五差路から、猿田彦大神が建っている前の道を通り、裏ノ田地下道を潜り抜けて、四王寺山の毘沙門へと延びている。正月3日に四王寺山毘沙門様へ参る慣習は広く行われており、水城地区の人々も昔から参詣していた。

名称 毘沙門詣りの道2(裏ノ田地下道～裏ノ田池)

登録番号 E0178



所在場所 水城2丁目



水城地区から四王寺山へ毘沙門詣りする際の道。裏ノ田地下道を寄り抜け、県道574号線を渡り、事業所横の道を進み、四王寺山の毘沙門へと延びている。この道は農作業の道として利用されており、以前は太宰府インターチェンジ近くには桃畑が広がっていたという。

名称 毘沙門詣りの道4(水城団地内に残る道)

登録番号 E0180



所在場所 水城6丁目 水城ヶ丘中央公園近く



水城団地内に残る毘沙門詣りの道。太宰府市コミュニティバスまほろば号「水城ヶ丘中央公園バス停」付近から四柄川に沿って上流へと向かう道が残されている。つき当たりには、昭和56年(1981)3月に完成した砂防ダムがある。

名称 毘沙門詣りの道(現在の道)

登録番号 E0182



所在場所 水城6丁目



水城地区から四王寺山へ毘沙門詣りする際に使われていた道。道は、猿田彦大神が祀られる水城6丁目の交差点から右手へと進む。また、同交差点から左手の道は急坂だが、昔はこの道を利用していたという。

名称 毘沙門詣りの道3(裏ノ田池～みどり公園)

登録番号 E0179



所在場所 水城6丁目 裏ノ田池の横



水城地区から四王寺山へ毘沙門詣りする際の道。裏ノ田池の側を通り、みどり公園を経て、四王寺山の毘沙門へと延びている。近年、住宅の建設が進んでいるが、昔の道がよく残っている。

名称 毘沙門詣りの道5(登山口)

登録番号 E0181



所在場所 大字水城



毘沙門詣りの道(登山口) 水城ヶ丘からの登山口。水城口門礎に出る。

名称 国分松本遺跡

登録番号 E0185



所在場所 国分1丁目



水城跡から太宰府側へ800m程のところにある遺跡。弥生時代から奈良時代の遺跡で、特に弥生時代中期の變棺墓群は、太宰府市内では最多の200基以上が検出されている。

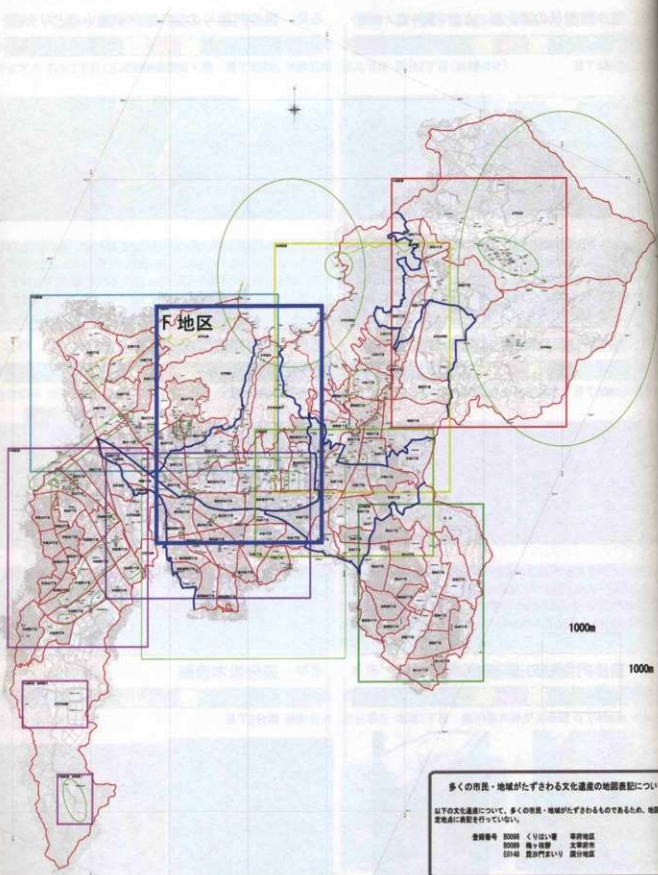


図 13. F 地区位置図

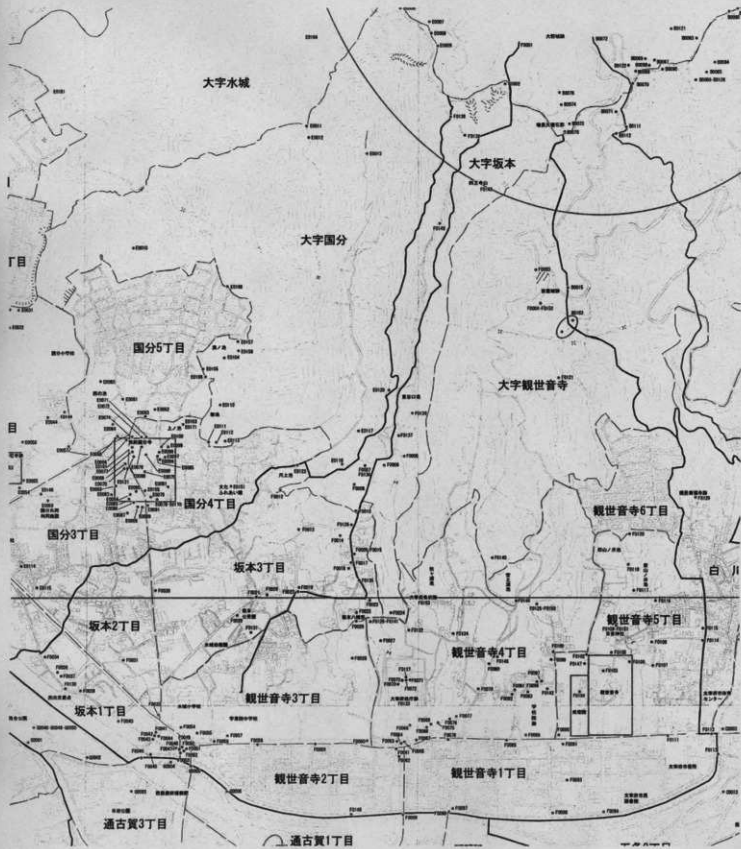


图 14 F 地区文化施設位置图

名称 坂本方面への近道

登録番号 F0001

所在場所 坂本(四王寺山)



昭和22年(1947)の学業院中学開校から昭和54年(1979)太宰府中学開校までの約30年間使用された道。四王寺村から坂本に至る通学路は、山を下る登校時でも約70分かかったという。人通りが少ないため、日暮後は太宰府駅に来て、旧太宰府町道を使って帰ったという。

名称 四王寺林道開設記念碑

登録番号 F0003

所在場所 観世音寺(四王寺林道)



太宰府方面から四王寺村に至る県道(四王寺林道)として旧道に代わる基幹道路として作られた道。明治百年記念事業「県民の森センター」(昭和51年6月オープン)、及び全国育樹祭に皇太子殿下・妃殿下が同センターにご臨席(昭和54年11月)に併せて整備が進められ、現在のよう形となった。

名称 ロモナ石

登録番号 F0005

所在場所 大字坂本字ロモナ石



坂本地区の畑の中にある石。この付近の大字も「ロモナ石」であり、政府建設の標準石であるという伝承が伝わっている。その他にも、都府樓の鬼門の方角にあたる場所のため、その目印に石を置いて塚にしたとも言われている。地元では「ロモナ石」に行くとかぜにあうと伝えられている。

名称 四王寺山三十三石仏 第30番札所

登録番号 F0002

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



四王寺山三十三石仏の第30番札所には、高さ69cmほどの花崗岩に彫られた千手千眼観音菩薩立像が祀られている。

名称 高橋紹運墓(洞塚)

登録番号 F0004

所在場所 太宰府(四王寺山 岩屋城二の丸跡)



天正14(1586)年に岩屋城で自害した高橋紹運を弔う墓。寛政6(1794)年7月27日、三池藩主立花出雲守胤周が二百年祭を行い、墓域の修理、熊本藩儒者藪惣の撰文を刻んだ碑の建立、福岡藩主黒田斉隆が墓所周りに石櫛を寄進した。

名称 戊の薬師(インノヤクシ)

登録番号 F0006

所在場所 大字坂本字善正寺



高さ74cm程の石柱の前面に薬師像が彫られている。天部には水を溜める穴があり、この水で目を洗うと眼病が良くなるといわれている。

F 地区

名称 石のある風景

登録番号 F0007

所在場所 大字坂本字善正寺



善正寺跡と言われる田の中に所在する石。耕作に支障があると田の外に石を出したところ、不幸があったので田の中に石を戻したといわれている。近年、一帯が荒地地となっていたため地区の方で草刈りなどを行った。

名称 エビスまつり

登録番号 F0009

所在場所 坂本3丁目



毎年12月3日に行われる坂本地区のえびす祭。現在に至るまで、灯明番帳を回しているムラの人々によって長い間続けられている。祭に際しては、しめ打ちを行い、新しい注連縄をかけている。その際に、注連縄の穂先が四王寺山の方を向くように整えられている。

名称 やんぶの墓(山伏塚)

登録番号 F0012

所在場所 坂本



修行中に倒れた宝満山の山伏を祀るため、村人が建立したといわれている。現在でも、暎(百日暎)の時や赤ちゃんの頭におできが出来た時にお参りして、良くなったら白ダゴを年の数作ってあげますと言って願をかけ、治ったら白ダゴを持ってお礼参りする風習が伝わっている。

名称 棚田の景観

登録番号 F0008

所在場所 大字坂本字善正寺



四王寺・坂本地区一帯に広がる棚田の景観。坂本地区には「善正寺」という小字名が残っており、寺院跡を段々畑(段状の田)として利用した様子がうかがえる。

名称 追分石(道標 四王寺国分)

登録番号 F0010

所在場所 大字坂本字善正寺



坂本地区から四王寺山に向かう農道の脇に所在する追分石。高さ35.5cmほどの大きさで、草に隠れるように所在している。表面には「右 四王寺道、左 国分」の銘が残されており、四王寺地区と国分地区とへの追分石として機能していた。

名称 河野静雲句碑

登録番号 F0013

所在場所 坂本3丁目



昭和2年(1927)4月8日、太宰府市内の畑から「御笠団印」が発見された。これを記念して俳人河野静雲が歎んだ俳句が「仏生會御笠団印掘り出さる」である。この句は、発見された方の家へ渡されていたが、平成13年(2001)12月に発見者の墓前に句碑として建立されたものである。

名称 玄清法印之墓

登録番号 F0014

現代

所在場所 坂本3丁目



玄清法印は、平安時代の天台宗の高僧で、玄清法流盲僧琵琶の開祖である。弘仁14(822)年に死去といわれ、坂本に埋葬されたといわれていたが埋葬地を特定できずにいた。しかし没後1160年忌この地に特定された。

名称 旧小字標石 花屋敷(はなのやしき)

登録番号 F0017

現代

所在場所 坂本3丁目



住居表示変更により古い地名が失われるため、平成5年(1993)11月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したものの。地名「花屋敷」の由来には諸説あり、都落ちした安徳帝の行宮があった名残という伝承や、昔の花町であったためなどと言われられている。

名称 旧小字標石 浦山(うらやま)

登録番号 F0019

現代

所在場所 坂本3丁目



平成3年(1991)11月の住居表示により古い地名が失われるため、太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したものの。大宰府政庁跡の北西にあたる地域である。

名称 えびす様(恵比寿神)

登録番号 F0015

近代

所在場所 坂本3丁目



坂本3丁目で祀られているえびす様。1mほどの花崗岩に恵比寿神が彫刻されている。毎夕、地区の方々でこのえびす様と八幡宮とオカッテンサンの三ヶ所に灯明を上げており、灯明帳(板)を廻して順番に当番されている。また、正月にはあ飾りを行っている。

名称 オカッテンサン 鬼子母神堂

登録番号 F0018

現代

所在場所 坂本3丁目(オカッテンサン境内)



祀られている鬼子母神について、『続風土記拾遺』の記載には遍照院に阿利帝母・弥陀・大日を安置するとあり、『明細記』にも「社一所 阿弥陀 大日 阿利帝母」と、鬼子母神の別名である「阿利帝母」が記されている。現在も遠方からの参拝者の方々が訪れている。

名称 旧小字標石 林崎(はやしざき)

登録番号 F0020

現代

所在場所 坂本3丁目 坂本公園入口



平成3年(1991)11月の住居表示により古い地名が失われるため、太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したものの。坂本公園の入口に所在している。

F 地区

名称 旧小字標石 西浦(にしうら)

登録番号 F0021

所在場所 坂本3丁目



平成3年(1991)11月の住居表示により古い地名が失われるため、太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したのも。太宰府政庁跡の西方背後にあたる地域である。

名称 旧小字標石 前(まえ)

登録番号 F0023

所在場所 坂本3丁目



住居表示変更により古い地名が失われるため、平成5年(1993)11月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したのも。地名の由来は不明。

名称 坂本八幡宮

登録番号 F0025

所在場所 坂本3丁目(坂本八幡宮)



坂本地区の土地神・産土神として崇拝されている八幡宮で、祭神は応神天皇一座。『福岡県神社誌』によると戦国時代の天文・弘治頃(16世紀中頃)に勧請されたといわれる。現在も坂本地区の方々によって、様々な年中行事が行われている。

名称 旧小字標石 池田(いけだ)

登録番号 F0022

所在場所 坂本3丁目



平成3年(1991)11月の住居表示により古い地名が失われるため、太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したのも。地名の由来は不明である。

名称 万葉歌碑 大伴旅人(世の中は…)

登録番号 F0024

所在場所 大字坂本 都府樓跡北辺



平成19(2007)年3月に建立されたもので、奈良時代の万葉集紫歌壇の中心人物であった大伴旅人の歌が刻まれている。歌「世の中は空しきものと知る時いよよますます悲しかりけり」歌「世の中はわなしいものだとつくづく知る時、いよよますます悲哀の感を新たにすることだ」

名称 旧小字標石 辻(つじ)

登録番号 F0026

所在場所 坂本3丁目



住居表示により古い地名が失われるため、平成5年(1993)11月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したのも。地名の由来は不明。

名称 **万葉歌碑 大武紀廟** (正月立ち…)

登録番号 F0027

所在場所 観世音寺4丁目 (都府楼跡史跡地内)



平成17(2005)年10月建立の碑。奈良時代の官人・大宰大武で梅花の宴にも列席した筑紫歌壇の一人、紀廟(きのきょう)の歌が伊予青石に刻まれている。歌「正月立ち春の来たらばかくしそ梅を招きつつ楽しき終へめ」歌「正月になり春が来たので、このように梅を招いて、楽しい日を過ごそう。」

名称 **蔵司 稲荷堂**

登録番号 F0028

所在場所 観世音寺3丁目



大宰府政庁跡西方に位置する蔵司の山中にある御堂。江戸時代に書かれた『筑前国続風土記附録』では、観世音寺村内に稲荷社があったことが記されている。現在はコンクリート製の祠が立ち、内部にある木製の祭壇にお稲荷様、恵比寿様、不動明王などが合祀されている。

名称 **旧小字標石 大正府** (おおしょうぶ)

登録番号 F0029

所在場所 坂本3丁目 坂本公民館入口



平成3年(1991)11月の住居表示により古い地名が失われるため、太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したものの。地名である大正府(おおしょうぶ・おおしょうふ)には、昔の役所跡との關われが残る。

名称 **旧小字標石 小正府** (こしょうぶ)

登録番号 F0030

所在場所 坂本3丁目 西日本ヘルスセンター バス停前



平成3年(1991)11月の住居表示により古い地名が失われるため、太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したものの。地名である小正府(こしょうぶ・こしょうふ)は、昔の役所跡に由来するのではないかとわれている。

名称 **旧小字標石 松倉** (まつくら)

登録番号 F0031

所在場所 坂本2丁目



住居表示により古い地名が失われるため、平成5年(1993)11月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したものの。地名の由来は不明である。

名称 **旧小字標石 エリカド**

登録番号 F0033

所在場所 坂本2丁目



住居表示により古い地名が失われるため、平成5年(1993)11月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したものの。地名の由来は不明である。

F 地区

名称 大谷川から流れてくる水路(洗出付近)

登録番号 F0034

所在場所 坂本1丁目



昭和28年(1953)に発生した大谷川の氾濫で、近辺の土地は地名の通り「洗い出される」状況であったという。昭和46年(1971)から54年(1979)まで在任した川辺町長の時代に現在のような水路が整備され、その後の大雨でも被害は少なかった。

名称 観音堂と観音椽

登録番号 F0037

所在場所 坂本1丁目(字石橋)



坂本1丁目字石橋にある観音堂。堂内には高さ1m程の石造観世音菩薩立像が祀られている。以前は代人さん(折神師)がいたという。御堂の隣には十三仏堂がある。

名称 苜蓿(かるかや)の関跡の碑

登録番号 F0040

所在場所 坂本1丁目



苜蓿の関には、苜蓿道心・石堂丸の説話があり、説教「かるかや」として全国的に流布した。また、有名であった苜蓿の関は菅原道真、宗祇法師、細川幽斎ら多くの歌人が歌に詠んでいる。現在、関跡には立派な石碑が建立されている。

名称 十三仏堂

登録番号 F0036

所在場所 坂本1丁目



坂本区石橋にある御堂。石造不動明王立像、釈迦如来、文殊菩薩など十三仏が横一列に並び祀られている。近年まで、位置し春・秋に千人参りの人々が来ていた。また、かつては代人さん(折神師)がいて、国分・坂本・通古賀で折神されていた、よく当たると評判で遠くからも信者が来ていたという。

名称 旧小字標石 石橋(いしばし)

登録番号 F0038

所在場所 坂本1丁目(字石橋)



旧小字名の石標(平成5年)。門司から鹿児島まで通り抜ける線道路であったため、当時としては珍しい石橋が架かっていた。そのあたりを石橋と呼び地名に残る。

名称 石碑

登録番号 F0041

所在場所 坂本1丁目



坂本1丁目の恵比寿堂左後ろにある石碑。表面に残された「若進」の文字がわずかながら判読できる。

名称 石灯籠

登録番号 F0042

所在場所 坂本1丁目



坂本1丁目にある恵比寿堂の前に所在する石灯籠。御堂の右手に位置している。灯籠上部の石は、五輪塔空風輪。

名称 旧小字樺石 関屋(せきや)

登録番号 F0043

所在場所 坂本1丁目



平成5(1993)年の住居表示変更に伴い消える旧小字名を印した石標。関屋の由来は、昔の国道である往還に関所があった所といわれ、飛鳥時代の天智天皇の頃まで遡ると伝えられている。この往還沿いには、戦争の際に敵を妨害するために松が植えられており、並木の松と呼ばれていた。

名称 恵比寿堂

登録番号 F0044

所在場所 坂本1丁目(関屋恵比寿堂)



昭和9年(1934)、同14年(1939)に発生した飢饉の際に、村を豊かにし救って下さるようにと恵比寿様をお祀りしたといわれる。現在、関屋地区の方々の手でお祀りをされており、毎年12月3日にはえびす講が行われている。

名称 久保田井堰

登録番号 F0045

所在場所 坂本1丁目



設置時期は定かではないが、江戸時代後期の1800年頃の記録では2町8反3畝を灌漑しており、井堰が損壊して補修を行う場合に大佐野村の山々から資材を調達出来るようにという嘆願が出された記録が残っている。付近には明治35年(1902)に建立された石碑が残されている。

名称 苜蓿大橋(かるかやおおはし)

登録番号 F0046

所在場所 通古賀3丁目



通古賀3丁目を流れる御空川に架かる橋。昭和60年(1985)3月に完成した橋で、欄干は朱色に塗られ、擬宝珠の装飾が施されている。

名称 石燈籠(常夜燈)

登録番号 F0047

所在場所 坂本1丁目



さいふ詰りの道を照らす灯籠として享和2(1802)年に寄進されたもの。台座には石工や願主など20名以上の人々の名が刻まれている。この灯籠に使う油代の為に、天満宮は小作の田を灯明田として貸与していた。灯明は、先の戦時中まで毎夕灯されていたが、現在は毎月25日にのみ灯されている。

名称 潮井台(潮齋台 しおいだい)

登録番号 F0048 近世

所在場所 坂本1丁目



付近にある一の鳥居と共に、江戸時代後期の文久2年(1862)5月に建立されたものである。側面には奉獻した人々や石工の氏名が刻銘されている。この潮井台は身を清めるための砂を置いた台であり、太宰府天満宮参拝者は砂を潮井として使い身を清め、天満宮へと参拝を行っていた。

名称 関屋の道標(享和2年の道標)

登録番号 F0050 近世

所在場所 坂本1丁目



一の鳥居のそばにある石碑(写真右側)。享和2年(1802)建立のもので、70cm四方、厚さ30cm程の石に、梅鉢の紋と「天満宮東從是二十二丁 享和二年壬戌年」と刻まれている。一の鳥居が事故により損傷したのを受けて、付近の道路整備した際、道幅が広がったため道標もやや移動した。

名称 関屋橋の碑

登録番号 F0052 近代

所在場所 坂本1丁目



太宰府天満宮の一の鳥居の側に道標や潮井台と共に並ぶ石碑。明治時代に関屋橋の架橋を記念して建立されたものである。石碑には明治7年(1874)に関屋橋が架けられ、明治20年(1887)4月に再架橋されていることが刻銘で残されており、関屋橋が水害で度々流失していたことがうかがえる。

名称 関屋の道標(元禄4年の道標)

登録番号 F0049 近世

所在場所 坂本1丁目



一の鳥居のそばにある石碑(写真右側)。元禄4(1691)年に建立されたもので、高さ70cmほどの玄武岩の自然石に表「是ヨリひがしさいふ参詣 裏「元禄四辛未天寄道 福岡呉服町傳屋宇兵衛」と刻まれている。一の鳥居での事故による付近の道路整備の際に、道標もやや移動している。

名称 天満宮一の鳥居(関屋の鳥居)

登録番号 F0051 近世

所在場所 坂本1丁目



二本の太い円柱が揃立てられており、地上部より笠木頂部まで高さ6mある。柱の陸側から文久2(1862)年に筑前國主左近衛權中將從四位下源朝臣齊澤建によって建立されたことが分かる。その後、事故により損傷。

名称 関屋

登録番号 F0053

所在場所 坂本



太宰府市の西部、四王寺山脈の南麓に位置する坂本区の小字名。地名の由来は、刘堂伝説で有名な刘堂の関があったことによる。

名称 遠賀団(おかだん)印出土地の碑

登録番号 F0054

近代 現代

所在場所 観世音寺3丁目(水城小学校 校庭)



重要文化財「遠賀団印」(銅印)の出土地を示した記念碑。高さ118cm程の石碑は、出土を記念して昭和に入ってから建立されたもので、もともとは中庭にあったものだが現在は校庭へと移設されている。また、遠賀団印をかたどった記念碑も近所新たに建立されている。

名称 御笠北高等小学校之跡の碑

登録番号 F0055

近代 現代

所在場所 観世音寺3丁目(水城小学校 校庭)



明治32年(1899)から同44年(1911)までであった、御笠北高等小学校の記念碑で、学校の名を残していこうと、昭和45年(1970)に建立。大正2年(1913)水城尋常小学校に高等小学校が併置されたことで、御笠北高等小学校は解散し、水城尋常小学校がこの地に移転している。

名称 旧小字標石 来木(らいき)

登録番号 F0056

現代

所在場所 観世音寺3丁目



住居表示により古い地名が失われるため、平成5年(1993)8月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したのも。地名の由来は不明である。

名称 学院中学校

登録番号 F0057

近代 現代

所在場所 観世音寺3丁目(学院中学校)



学院中学校は、昭和22年(1947)4月15日の新制中学校制度移行によって開校。昭和24年に宮村高等女学校理事長の宮村吉蔵氏から土地・校舎の寄贈を受けた。この功績を伝えるため、校内に像と記念碑・顕彰額が設置。校長室前にある扁額の素材は、水城跡出土の木樞材。

名称 旧小字標石 広丸(ひろまる)

登録番号 F0058

現代

所在場所 観世音寺2丁目



住居表示により古い地名が失われるため、平成5年(1993)11月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したのも。地名の由来は不明である。

名称 旧小字標石 大楠(おおくす)

登録番号 F0059

近代 現代

所在場所 観世音寺2丁目



住居表示により古い地名が失われるため、平成5年(1993)11月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したのも。地名の由来は不明である。

F 地区

名称 旧小字樑石 蔵司(くらつかさ)

登録番号 F0060



所在場所 観世音寺3丁目



平成5年(1993)8月に旧小字名を石標に刻して建立したものの。地名である「蔵司」は「くらのつかさ・くらつかさ」と呼称されており、大宰府の府庫を管理する役所があり「租(税米)のほか、管内の「圃(土地の産物)」、「庸(徭役またはその代わりの物納)」を扱っていた名残といわれている。

名称 高浜虚子歌碑(夜都府楼跡に佇む…)

登録番号 F0062



所在場所 観世音寺2丁目



大宰府政庁跡、朱雀通りに面して立つ高浜虚子の歌碑。高浜虚子が大正6(1917)年、初めて九州を訪れた際に都府楼跡で詠んだ句「夜 都府楼跡に佇む 天の川の下に 天智天皇と 臣虚子と」が刻まれている。歌碑自体は、昭和28年(1953)11月に田中斐川(ひせん)により建立。

名称 史蹟太宰府趾碑

登録番号 F0064



所在場所 観世音寺4丁目



大宰府政庁跡の南側に建つ石碑。碑面には「史蹟名勝天然記念物保存法」「大正十年三月内務大臣指定」の刻銘が残されており、大正10年(1921)3月3日に政庁中心部が史蹟指定を受けたのを記念して建立されたものと考えられる。

名称 旧小字樑石 不丁(ふちよう)

登録番号 F0061



所在場所 観世音寺2丁目



平成5(1993)年に太宰府市で建てられた小字の石標の一つ。「ふちよう」と呼称され、「府庁」とも記されることから、大宰府在り頃の関係する役所跡があった場所の名残と考えられる。発掘調査で、役所跡と考えられる大型建物も検出されている。

名称 大宰府正門礎石(朱雀門礎石)

登録番号 F0063



所在場所 観世音寺4丁目



昭和57(1982)年、政庁正面付近の御笠川改修工事により発見された礎石。大きさは2.42m×1.82mで、上面に径66cmの円形柱座を造り出す。重さが約4トンあるこの巨石は、その出土から、大宰府政庁朱雀門の礎石であると考えられる。

名称 都府楼之址従是巷町碑

登録番号 F0065



所在場所 観世音寺4丁目



大宰府政庁跡南側の入口付近に立つ石碑。表面には「都府楼之址 従是巷町」と刻まれており、本来は道標の役割を果たしていたと考えられる。もともとの所在地や由来などは不明である。

名称 都府樓道路開通記念碑

登録番号 F0066

近代

所在場所 観世音寺4丁目



明治43年(1910)に、攘社から都府樓迄の新道が造られた事を記念した石碑。前面には多数の寄附者と金額が、後面には発起人の名が刻まれている。現在は太宰府政庁跡の南門礎石上に建てられている。

名称 万葉歌碑 大伴旅人(やすみしし…)

登録番号 F0067

現代

所在場所 観世音寺4丁目



官人であり、優れた歌人でもあった大宰帥大伴旅人(おおとのたびと)が詠んだ歌を記した万葉歌碑。大宰少貳石川足人の問いかけに応じて詠んだ歌「やすみしし わご大君の食国は僕も此処も同じぞ思ふ」が刻まれている。昭和59(1984)年に福岡県庁の寄贈で建立されたもの。

名称 万葉歌碑 小野老(あをによし…)

登録番号 F0068

現代

所在場所 観世音寺4丁目



平成17(2005)年10月に建立されたもので、奈良時代の官人であり新羅の宴にも列席した筑紫歌道の人であった小野老(おののおゆ)の歌が刻まれている。歌「あをによし 奈良の京師は咲く花の 薫ふがごとく 今さかりなり」歌「奈良の都は、咲く花が美しく薫るように、今がまっ盛りである」

名称 史蹟大宰府址境界碑

登録番号 F0069

近代

現代

所在場所 観世音寺4丁目



大宰府展示館の前に所在する2本の石碑。かつて史蹟指定を受けた際の境界石である。

名称 玉石垣支柱とトウカエデ

登録番号 F0070

所在場所 観世音寺4丁目



旧、大宰府政庁正殿跡周辺を玉石垣で囲っていた時の名残の一本が、トウカエデの幹に巻き込まれたような形になっている。

名称 太宰府碑

登録番号 F0071

近代

所在場所 観世音寺4丁目



大宰府政庁正殿跡に建つ3基の碑のひとつ。大宰府の意義を後生に伝えようと、福岡藩西学問所甘棠館教授亀井南冥が寛政元年(1789)に建立しようとしたが、藩がその文面に意義をとらえ許可が下りず、南冥は甘棠館教授を罷免された。大正3年(1914)に門下生の尽力により建碑された。

F 地区

名称 都督府古趾

登録番号 F0072



所在場所 観世音寺4丁目



大宰府政庁正殿跡に建つ3基の碑の1つ。江戸時代、福岡藩では礎石敷調査を行い、礎石を取ることを禁じるなど史跡保存を図るが、明治時代になっても標石などは建立されなかった。その為、乙金村大庄屋の高原善七郎が、明治4年(1871)に自費で建立したものの。

名称 帯塚碑

登録番号 F0075



所在場所 観世音寺4丁目



花鳥山仏心寺は『ホトトギス』同人の河野静雲(こうのせいいうん)が建てた寺で、高浜虚子を祀る虚子堂の奥にこの帯塚がある。高浜虚子がすり切れるまで愛用した博多帯を静雲に託し、この寺のそばに埋めてほしいと願ったことにより昭和29(1954)年に建立されたものである。

名称 庚申塔

登録番号 F0077



所在場所 観世音寺4丁目



観世音寺4丁目目で祀られている庚申塔。高さ114cmほどの大きさで、江戸時代後期の文化5年(1808)2月に建立されたものである。庚申信仰は、中国の道教思想に由来し、60日ごとに回ってくる庚申の夜に宿主の家に集い、眠らずに夜を明かすもの。

名称 太宰府址碑

登録番号 F0073



所在場所 観世音寺4丁目



大宰府政庁正殿跡に建つ3基の碑のひとつ。明治13年(1880)佐野の人々の要請で福岡県令渡辺清が文を撰し、日下部東作書、陸軍大将熾仁親王篆額により、大宰府の由来を彫りつけたもの。

名称 史跡大宰府址境(界)碑

登録番号 F0076



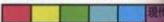
所在場所 観世音寺4丁目



大宰府址と私有地との境界を示す石碑。観世音寺地区には数多く所在している。

名称 旧小字標石 日吉(ひよし・ひえ)

登録番号 F0078



所在場所 観世音寺1丁目



住居表示により古い地名が失われるため、平成5年(1993)11月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したもの。地名である「日吉」は、観世音寺の北にある日吉神社に由来するともいわれている。

名称 旧小字標石 月山(つきやま)

登録番号 F0079

現代

所在場所 観世音寺4丁目



住居表示により古い地名が失われるため、平成5年(1993)8月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したもの。地名である「月山」は「つきやま」と呼称され、「築山」「辰山(とつきやま)」とも書く。大宰府政庁に時を知らせる瀧刺台(水時計)があった所であるといわれている。

名称 旧小字標石 住ヶ元(すみがもと)

登録番号 F0080

現代

所在場所 観世音寺4丁目



地名が失われるため、平成5年(1993)8月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したもの。地名である「住ヶ元」の由来など詳細は不明である。

名称 庚申塔

登録番号 F0081

近世

所在場所 観世音寺4丁目



観世音寺4丁目学業地区に所在する庚申塔。高さ107cm程の石標には「庚申年」の文字と建立年月日が刻まれており、江戸時代である寛政4年(1792)2月に建立されたことが分かる。地帯の方々に信仰されており、以前は田植の際に苗を2~3束御読していたという。

名称 旧小字標石 学業(がくぎょう)

登録番号 F0082

現代

所在場所 観世音寺4丁目



住居表示により古い地名が失われるため、平成5年(1993)8月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したもの。地名である「学業」は「がっきゅう」「がくぎょう」とも呼称され、大宰府政庁の官人を育てるための学校院があったことに由来している。

名称 万葉歌碑 山上憶良(子等を思ふ歌)

登録番号 F0083

現代

所在場所 観世音寺4丁目



観世音寺4丁目、学校院跡北側・観世音寺公民館前に所在する万葉歌碑。平成17(2005)年10月に建立されたもので、奈良時代の役人で社会派・生活派と呼ばれる有名な歌人であった山上憶良の歌が2首刻まれている。

名称 旧小字標石 五反田(ごたんだ)

登録番号 F0085

現代

所在場所 観世音寺1丁目



住居表示により古い地名が失われるため、平成5年(1993)11月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したもの。地名である「五反田」の由来など詳細は不明である。

F 地区

名称 学業院址碑(学校院址)

登録番号 F0086

近代 現代

所在場所 観世音寺4丁目



律令制下で中央に大学、地方に国ごとに国学が置かれ、大宰府には府学校が置かれた。大宰府や管内諸国の官吏兼成が目的。明延(みんぎょう)・医術・算術等を約200名の人々が学んでいた。明治末期と昭和47年(1972)に建立された2本の石碑が残っている。

名称 都府楼橋(とふろうはし)

登録番号 F0088

現代

所在場所 観世音寺1丁目・朱雀5丁目・朱雀6丁目



御笠川に架る橋で、国道3号線と観世音寺1丁目を結んでいる。現在の橋は昭和53年(1978)3月に完成したもので、欄干には擬宝珠の装飾が施されている。

名称 五反田堰

登録番号 F0090

近世 近代 現代

所在場所 観世音寺1丁目



細い木枝を束ねた粗朶(そだ)で造った堰であったが戦後にコンクリート製へと改築。現在は、電動または手動にて堰の水止め板を上げ下げしている。ここから引かれた水は土居内・五反田地域の水田を潤していたが、2008年からは上流にあった農切堰の分もまかなっている。

名称 都府楼橋碑

登録番号 F0087

近代

所在場所 観世音寺1丁目



都府楼橋を記念して明治43(1910)年に建立された石碑。西面に「都府楼橋」、北面に「一金百圓寄附 吉鹿仙右エ門 津傳次郎」、南面に「明治四三年三月」と刻まれている。現在の橋は昭和53年3月に竣工したもので、周辺の区画整理するまで、石碑は川底にあったという。

名称 朱雀大橋(すざくおほはし)

登録番号 F0089

現代

所在場所 観世音寺1丁目ほか



昭和59年(1984)3月に完成した、御笠川に架かる橋。大宰府政庁前から南下する県道505号線が通っている。この橋から北側を望むと、四王寺山を背景に大宰府政庁跡が緑の空間として広がり、「古都大宰府」を代表するひとつの景観となっている。

名称 旧小字樫石 土居ノ内(どいのうち)

登録番号 F0091

近代

所在場所 観世音寺1丁目



住居表示により古い地名が失われるため、平成5年(1993)11月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したもので、地名である「土居之内」の由来など、詳細は不明である。

名称 塚

登録番号 F0093

所在場所 観世音寺1丁目



かつて観世音寺1丁目に所在していた塚。以前は田園の中に、小さな土盛のようなものがあり「塚」と呼ばれていた。土地区画整理により、現存はしていない。

名称 観世音寺大橋(かんぜおんじおおはし)

登録番号 F0094

所在場所 観世音寺1丁目・五条2丁目



御笠川に架かる橋で、観世音寺1丁目と五条2丁目を結んでいる。この橋から北側への延長線上には観世音寺が位置しており、その参道が望める。現在の橋は昭和57年(1982)3月に完成したもので、欄干は美しく朱色に塗られて、擬宝珠の装飾が施されている。

名称 高橋紹運公墓道碑

登録番号 F0095

所在場所 観世音寺5丁目



観世音寺5丁目に所在する高橋紹運墓への道を示す道標。表面には「高橋紹運墓道 是ヨリ七町」と刻銘されており、この地点から安美寺武藤少武の墓を経て、岩屋城二の丸へと登っていく。石碑自体は明治38年(1905)、乙金村の高原謙次郎によって建立されたものである。

名称 道路更正碑

登録番号 F0096

所在場所 観世音寺4丁目(観世音寺公民館横)



観世音寺4丁目、観世音寺公民館横に所在する道路更正碑。昭和30(1955)年に朝日地蔵から大宰府展示館東側までの道路を拡張した際の記念碑である。

名称 公民館建築記念碑

登録番号 F0097

所在場所 観世音寺4丁目(観世音寺公民館横)



観世音寺公民館建築を記念して建立された石碑。昭和31年(1956)5月に建立されたもので、以前は旗立石としても使用されていたという。

名称 庚申天

登録番号 F0099

所在場所 観世音寺4丁目



高さ126cmほどの石碑には「庚申天」の文字や建立年月日が刻銘されており、江戸時代後期にあたる文化3年(1806)12月に建立されたことが分かる。道路拡張のため奥側へと移動しており、現在は個人宅玄関に位置している。また、田植えの時には手苗を2、3束上げていたという。

F 地区

名称 **旧小字標石 安養寺(あんようじ)**

登録番号 F0100



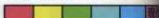
所在場所 観世音寺4丁目



平成5年(1993)8月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したものの。地名である「安養寺」は、鎌倉時代に大宰少武藤資頼が開基したお寺(安養院・安養寺)があった場所と伝えられている。この安養院は、観世音寺49子院の一つとされており、武藤資頼・資能の墓所が存在している。

名称 **旧小字標石 堂廻(どうめぐり)**

登録番号 F0102



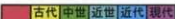
所在場所 観世音寺5丁目



住居表示により古い地名が失われるため、平成5年(1993)8月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したものの。地名である「堂廻」は「どうめぐり(どうまわり)」と読み、観世音寺の堂廻の内、講堂、金堂、戒壇院を含む箇所を意味している。

名称 **観世音寺**

登録番号 F0103



所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺)



朝鮮半島出兵のために筑紫に出向き、661年に朝倉橋広庭宮で亡くなった御母斉明天皇を弔うため、息子天智天皇が発願した寺。度重なる災害で、現在の講堂・金堂は江戸時代に再建。宝蔵には平安・鎌倉期の巨大な仏像16体等が安置(重要文化財)。また、国宝の梵鐘が現存。

名称 **戒壇院**

登録番号 F0104



所在場所 観世音寺5丁目



天平宝字5(761)年、東大寺戒壇院に続き、下野薬師寺の戒壇院とともに設置された三戒壇のひとつ。観世音寺内に置かれ、西海道諸国の僧尼の受戒所で、通称西戒壇と呼ばれていた。元禄16(1703)年に観世音寺から分離独立し、現在は臨濟宗妙心寺派、山号は宝珠山である。

名称 **旧小字標石 山ノ井(やまのい)**

登録番号 F0105



所在場所 観世音寺5丁目(日吉神社入り口)



住居表示により古い地名が失われるため、平成5年(1993)8月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したものの。日吉神社入口に所在している。地名の由来は不明である。

名称 **旧小字標石 今道(いまみち)**

登録番号 F0106



所在場所 観世音寺5丁目



住居表示により古い地名が失われるため、平成5年(1993)8月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したものの。観世音寺境内の東北隅、サルサワ池の跡付近に所在している。地名の由来は不明である。

名称 旧小字標石 御所ノ内(ごしょのうち)

登録番号 F0107

現代

所在場所 観世音寺5丁目



平成5年(1993)の住居表示変更により無くなる小字名を記録するために建立された標石の1つ。標石には小字名「御所ノ内」が刻銘されている。小字名の由来は、鎌倉時代に武藤氏の館(御所)があったためと伝えられている。

名称 大師堂

登録番号 F0108

現代

所在場所 観世音寺5丁目



木造瓦葺で中に、石造弘法大師坐像、石造弘法大師坐像、金剛燈大日如来坐像他があり、地元に祀る。御堂は昭和47(1972)年再築。

名称 本殿拝殿(日吉神社)

登録番号 F0109

古代 中世 近世 近代 現代

所在場所 観世音寺5丁目(日吉神社)



北山延暦寺の鎮守神・日吉(ひえ)神社を勧請したもの。現在、年中行事は氏子会のお世話で続けられている。約100人位の地域住民で構成されており、おこもり、宮座には各々40〜50人が参加している。平成21年(2009)末から観世音寺ライトアップに合わせて、行灯照明を行っている。

名称 旧小字標石 露切(つゆきり・つゆぎり)

登録番号 F0111

現代

所在場所 観世音寺1丁目



平成5年(1993)11月の住居表示変更により無くなる小字名を記録するために建立された標石の1つ。標石には小字名「露切」が刻銘されている。小字名露切(つゆきり・つゆぎり)の由来については不明である。

名称 五条橋(ごじょうばし)

登録番号 F0112

現代

所在場所 五条1丁目・五条2丁目・観世音寺1丁目



五条地区を流れる御笠川に架かる橋で、県道76号線が通っている。現在の橋は昭和48年(1973)3月に完成したもので、欄干は美しく朱色に塗られて、擬宝珠の装飾が施されている。

名称 高橋口橋(たかはしぐちばし)

登録番号 F0113

現代

所在場所 五条2丁目・観世音寺1丁目



御笠川に架かる橋。高橋口はかつて宰府詣りの4つの構口のひとつ。壺染川が合流するこの付近上流を岩瀬川といい、昔はこれから下を思ひ川と言っていた。現在橋に書かれている川の名前は上流から「御笠川」である。

名称 旧小宇石標 朝日(あさひ)

登録番号 F0114



所在場所 観世音寺5丁目



平成5年に太宰府市で建てられた小宇の石標の一つ。朝日山の東に位置し、山の名に由来していると考えられる。山は今は無。この地に朝日地藏(旭地藏)が祀られている。

名称 朝日山遺跡石仏石塔群

登録番号 F0116



所在場所 観世音寺5丁目(朝日山公園内)



住居地公園の大きなセンダンの木の下にある石塔群。開発に伴って発掘された石造物を集めて説明板を立てている。

名称 山の井池石塔群

登録番号 F0118



所在場所 観世音寺5丁目



池のほとりに苔むす石塔あり。五輪塔を集めてある。いつからあるか不明。

名称 朝日地藏堂

登録番号 F0115



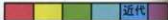
所在場所 観世音寺5丁目



鎌倉時代、横岳山崇福寺の開基、湛堂(たんね)禅師が、正月に観世音寺の前を通りかかった時、観世音寺では正月最初に門前を通った者を鬼とするならわし(追廻・ついな)があった為、捕えられて追廻の鬼にされた。これを恥じて後年、この地に穴を掘って籠もり入定したと言われている。

名称 導水トンネル(新山の井池~上方・朝日水庫)

登録番号 F0117



所在場所 観世音寺5丁目



新山の井池が出来た後で、その水利用の為、一部を池の堤壁に溝に流し、日吉神社の続きの山の下をトンネル掘して上方、朝日地区の用水とした。現在も水田用に利用されている。

名称 導水トンネル(新山の井池導水トンネル入口)

登録番号 F0120



所在場所 観世音寺5丁目



大正年間(1912-1926)に農業用蓄池を増やす為に隧道をつくり、新山の井池を造った。四王寺山の水が山の池に落ちる場所に、導水トンネルを掘り、この新山の池を造った。

名称 岩屋城合戦 関連石造物 3

登録番号 F0121

中世 近世

所在場所 太宰府(四王寺山)



岩屋合戦で戦没の萩尾大学の墓。金光寺跡から磨崖石塔群へと登る道の左手にある。いつもきれいに祀られている。

名称 旧小字樺石 大裏(だいら・おおうら)

登録番号 F0122

現代

所在場所 観世音寺3丁目 都府楼跡北辺



住居表示により古い地名が失われるため、平成5年(1993)8月に太宰府市が旧小字名を石標に刻して建立したものだ。地名「大裏」は内裏、紫宸殿ともいわれ、天智天皇の内裏跡や安徳帝の行宮があった場所だという謂われが残っている。

名称 観音堂

登録番号 F0124

近世

所在場所 観世音寺4丁目



観世音寺4丁目大裏にある観音堂。御本尊は『筑前国続風土記前編』にも記録がある石造聖観音坐像である。また、御堂内には板碑と梵字刻まれた切石も共に祀ってある。

名称 太宰府安養院跡五輪塔残欠

登録番号 F0125

中世

所在場所 観世音寺4丁目



観世音寺の北側安養院跡に立っている石造りの五輪塔。この塔は一石の凝灰岩でつくられ、さらに水輪を球形にするものを、八方の隅をカットした形で造られ、高さは75.5cm。鎌倉時代中頃の塔と考えられるもので、少貳資頼の墓に比定されている。同形のものが学佐にある。

名称 追分石(道標 花屋敷サコ)

登録番号 F0126

所在場所 坂本3丁目



四王寺山への道の分岐点に建立されている追分石で、花屋敷坂からサコ地区への道標とされる。写真表面側には「←」の銘があり、矢印で追地区を示している。また、写真右側裏面には「→ 四王寺」の銘あり、四王寺方面への道を示している。

名称 時の記念日の行事

登録番号 F0127

近代 現代

所在場所 観世音寺4丁目(政庁跡正殿前)



水城小学校で行われていた、時の大切さを学ぶ行事。太宰府政庁跡東側の月山に、漏刻が置かれていたことに因んだもの。6月10日に時計を持たずに都府楼跡へ早朝6時ちょうどに、到着出来るかを競うもの。平成23年11月20日に太宰府市民遺産第6号に認定。

F 地区

名称 坂本のダブリユウ

登録番号 F0128



現代

所在場所 坂本



水神に田の水の豊潤を願い、あわせて牛馬安全の祈願を行う行事。4月末から5月初めにかけてのノシロ作りの前に行われ、坂本八幡宮の東側の水路に水神棚を設ける。水神棚は女竹を三本または四本立てて上部を括り、竹で編んだ棚を吊して上に注連を張ったものである。

名称 関屋のつなぎだご

登録番号 F0130



近世 近代

所在場所 坂本1丁目



洗出付近の旧街道沿いの団子屋で売られていた名物で、親指大の団子5~6個を竹串にさして鉛を塗ったもの。関屋の商人が、高橋紹運の機智を称え、竹串の団子を竹に突き刺された鳥津兵に見立て、売り出したといわれる。明治の中頃、小学校建設のために転売した。

名称 大宰府跡(大宰府政庁跡、都府楼跡)

登録番号 F0133



古代

所在場所 観世音寺4丁目



古代律令制下において外交を掌り、西海道(九国三島)諸国を統括した「大宰府」の中心をなす遺跡である。国際情勢の転換に対処するため、外交国防の中核として、「那津官家」から移築されたと推定される。現在は発掘調査成果をもとに環境整備され、往時の遺構が平面復原されている。

名称 横岳山崇福寺跡(勝禅寺跡)

登録番号 F0129



中世

所在場所 白川



禅僧である澄意によって太宰府の横岳に開かれた寺院。発掘調査によって仏殿・僧堂と瑞雲堂が確認されている。

名称 御笠団印出土地周辺遺跡

登録番号 F0131



古代

所在場所 坂本3丁目



太宰府市坂本3丁目に広がる遺跡。「御笠団印出土地周辺遺跡」の名称は、第1~11次調査のみの名称である。発掘調査によって、7世紀の竪穴住居・建物、奈良~平安時代の木棺墓・溝・井戸などが確認されている。

名称 大石垣(大野城跡)

登録番号 F0134



古代

所在場所 坂本



大宰府政庁の後背部分にあたる石垣で、政庁横を流れる川の上流約2km付近に位置する。全長約64m、高さ約4.5m、外壁面は約72度の傾斜をなしている。盲水門の構造であった可能性が考えられ、背面では積み石も検出され、上端の幅が約4mの石壁であることも確認された。

名称 坂本村

登録番号 F0135

所在場所 坂本



『筑前続風土記』によると「四王寺に上がる道筋なるがゆへ、坂本と云」とあり、四王寺山の登り口であった事に由来するという。古代から中世にかけて、四王院の座主が善正寺坂本坊に存在したとされている。近世には、武士であった大田家と武藤家を中心となり発展が進んだと伝えられている。

名称 甲城谷(口上谷)

登録番号 F0137

所在場所 坂本



地元坂本地区の方の話によると、以前は東谷口下方の山麓にある砂防ダム西側付近を「甲城谷(口上谷)」と呼んでいたという。地名は時代とともに変わっているケースがあり、従来は広範囲で「甲城谷」と呼称されていたものが、現代では上記のような地域を指すようになってきたようである。

名称 東谷口築堤碑

登録番号 F0139

所在場所 大字坂本 坂本新池畔



坂本新池の堤防東端に建てられている東谷口築堤の石碑。昭和11(1936)年、坂本新池が完成した際に建立されたものである。

名称 善正寺ヤシキ

登録番号 F0136

所在場所 坂本3丁目



付近には成業師や、由来不詳の岩石が数個置かれており、「ヤシキ」があったことが想像できる空間である。善正寺は『筑前国続風土記』によれば「四王寺の座主坂本坊善正寺なり。僧位大僧正を権官とする」とあり、『武藤少武系図』によれば少武氏滅亡とともに坂本坊も絶えたという。

名称 門ノ石スエ

登録番号 F0138

所在場所 坂本



坂本口城門は古くから知られており、『太宰府旧蹟全図北』にも「門ノ石スエ」として一対の礎石が図示されている。現在残されている1個の礎石は推定地より約150m程下方にあり、その地点に城門を築くのは立地的に疑問であり、礎石の向き具合等からも上部から転落してきたものと考えられる。

名称 大行事碑

登録番号 F0140

所在場所 大字観世音寺 安之浦池横 山中



観世音寺区安之浦池横の山中にある大行事塔。高さ177cm×幅96cmの大きさで、「慶應三丁卯四月日」と陰刻があり1867年に建立されたことがわかる。牛馬を飼っていた時代は9月におまつりをしていた。現在は注連縄をかけるのみだが、毎年正月前に掛け替えを行っている。

F 地区

名称 坂本区のほんげんぎょう

登録番号 F0141

所在場所 観世音寺4丁目 坂本八幡宮前の梅林



毎年正月7日の早朝に行われる火焚き行事。坂本区は政庁城北西端の広場に櫓を立てて行っている。櫓は、高さ3m程で真ん中に葉のついた孟宗竹が立てられている。前日の夕方には、各戸から正月飾りを持ち寄って櫓に取り付けている。区の行事として復興され30~40年が経過している。

名称 大城山(四王寺山)

登録番号 F0143

所在場所 太宰府



標高410.0mを測る。最高点は宇美町と大野城市の境界に位置する。

名称 旧小字標 油田(あぶらでん・あぶらだ)

登録番号 F0146

所在場所 観世音寺2丁目



太宰府市の旧小字名を記した石碑。住居表示変更によって消失する由緒ある小字名を残すため、平成5年(1993)11月に建立されたものである。

名称 観世音寺区のほんげんぎょう

登録番号 F0142

所在場所 観世音寺4丁目



正月7日の早朝に行われる火焚き行事。観世区では公民館前のちびっこ広場に櫓を立て、子供会のお母さん方がぜんざいの炊き出しを行っている。60年位前までは、上方住蓮安養寺月山など各組毎に行っていた。35年程前に区呼びかけで復興され、現在も続けられている。

名称 導水トンネル(安の浦から安養寺地区)

登録番号 F0144

所在場所 観世音寺4丁目 安の浦池より安養寺へ



安の浦池の水を有効利用するために建設された導水トンネル。安の浦池から取水して、安養寺地区へと流れる部分がトンネルとなっており、安養寺道の上方からは道の下を通っている。現在は山ノ井池からの用水と一緒に使用されている。

名称 玄昉の墓

登録番号 F0147

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺)



玄昉は奈良時代の僧。渡唐中は玄宗皇帝、帰国後は聖武天皇からの信任厚く、重用された。後に観世音寺造営を命じられ大宰府に下り、天平18(746)年6月、落慶法要中、怨霊に空高く連れ去られ、脚や手足がばらばらに落ちてきた。この怪死は「藤原広嗣の怨霊に殺されたのだ」と噂された。

名称 導水トンネル(安の浦池から学業地区へ)

登録番号 F0148

所在場所 観世音寺4丁目



安の浦池の水を有効利用するために建設された導水トンネル。安の浦池から、池尻の溝を下り、竹林の中を抜ける部分でトンネルとなっており、学業の民家付近で流路が2つに分かれている。現在は、竹林を通る部分がコンクリート製に改修されており、学業の流路は1方向だけが使用されている。

名称 少貳資能(しょうにすけよし)墓

登録番号 F0150

中世

所在場所 観世音寺4丁目



少貳資能の子資能の墓とされる宝篋印塔。鎌倉時代、元寇時に活躍し、84歳で死去。崇福寺大応国師が導師となり、葬儀が行われた。その後行方不明であったが、明治末に横岳の水田から発見、関係者の配慮で五条の血方持様横に祀られ、昭和47年(1972)に現在地へ移動。

名称 ゼウウンノハカ

登録番号 F0152

所在場所 太宰府(四王寺山 岩屋城二の丸跡)



元弘14(1586)年に岩屋城で自害した高橋紹運を弔う墓。『太宰府旧蹟全国図北』では墓域が描かれ、「ゼウウンノハカ」と記されている。高橋紹運公の人気は現在においても高く、墓の草刈りや清掃をされている方々がおられ墓域はいつも整備されている。

名称 般度の滝

登録番号 F0149

所在場所 大字坂本



『旧蹟全国』にも記載があり古くから信仰の場で、行者の方々が多く訪れており、寄進された石仏は100体以上にのぼる。昭和48年(1973)7月30日の水害により、広さ8畳程の御堂が流される等の大きな被害を受け、滝自体も消滅してしまつた。流失した石仏はオカッテンサンに祀られている。

名称 旗立石(日吉神社)

登録番号 F0151

所在場所 観世音寺5丁目(日吉神社)



日吉神社参道入口にある旗立石。現在も活用されており、正月には氏子会で製作した幟を、七夕ごもりの時には短冊で飾った笹を立てるのに用いられている。

名称 大宰府条坊跡

登録番号 F0153

古代

所在場所 太宰府市・筑紫野市



九州にあった九国三島(のち二島)の統括ならびに外交の場として、大和政権によって置かれた大宰府で、政庁を含む現在の太宰府市中央部から筑紫野市北部にあったとされる官人居住地。【左写真：白神内(推定範囲)】

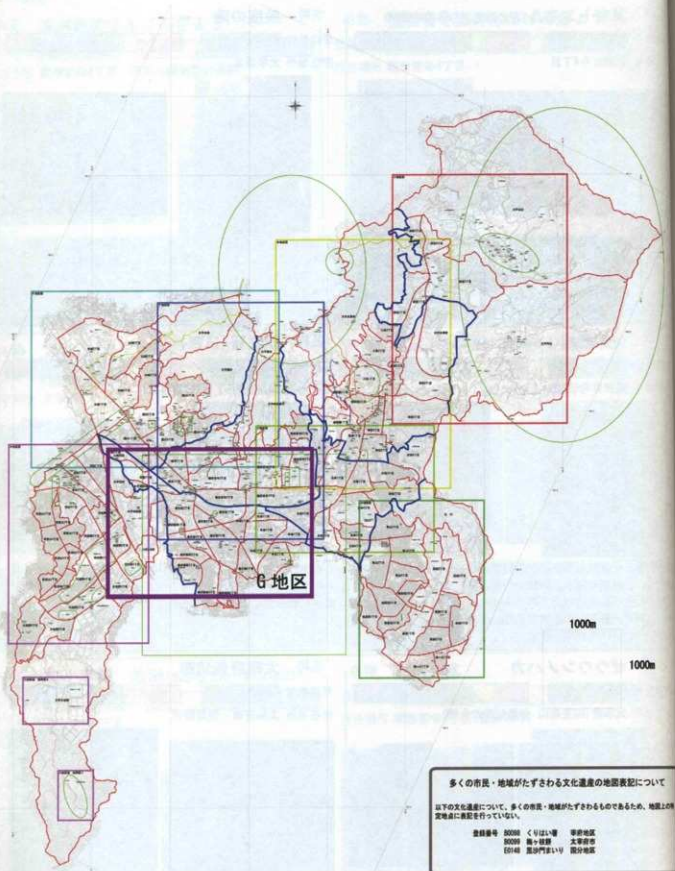


図 15. G 地区位置図

幸都2丁目

坂本2丁目

観世

幸都1丁目

観世音寺4丁目

大字吉松

坂本1丁目

観世音寺3丁目

大字通古賀

観世音寺2丁目

観世音寺1丁目

通古賀3丁目

通古賀1丁目

大字向佐野

朱雀5丁目

五

通古賀2丁目

朱雀6丁目

都府楼南1丁目

通古賀4丁目

通古賀5丁目

朱雀4丁目

朱雀1丁目

向佐野2丁目

大字大佐野

都府楼南2丁目

朱雀3丁目

朱雀2丁目

大佐野1丁目

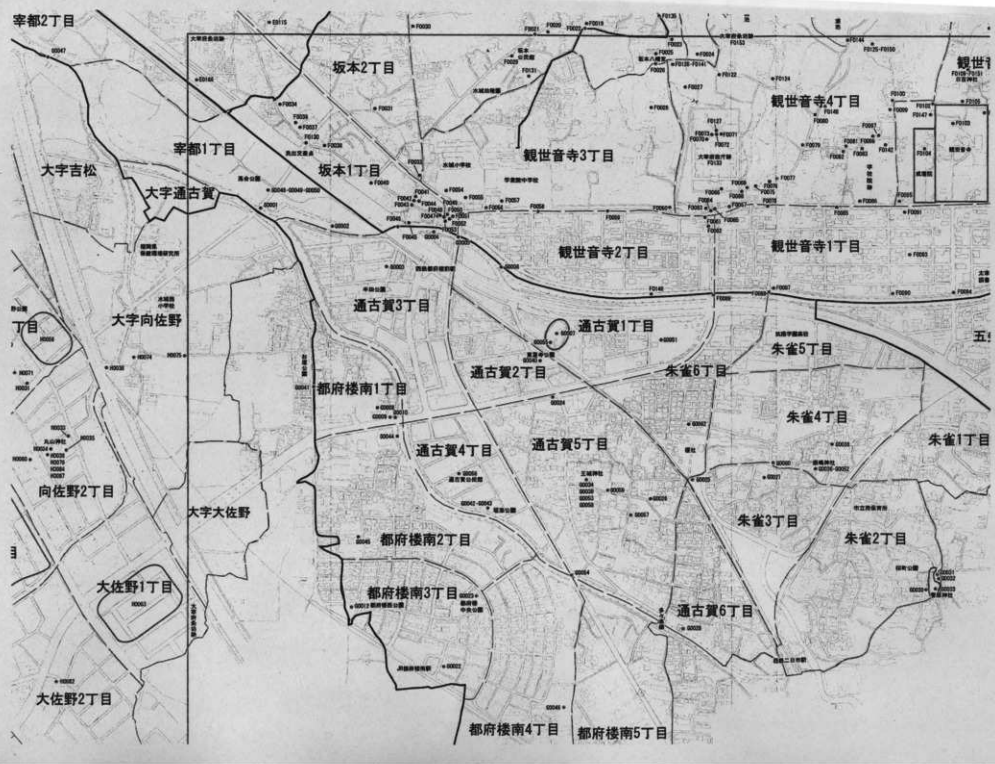
都府楼南3丁目

通古賀6丁目

大佐野2丁目

都府楼南4丁目

都府楼南5丁目



名称 落合橋(おちあいばし)

登録番号 90001  現代

所在場所 幸都1丁目



御笠川が鷺田川と合流する付近に架かる橋。度々水害の被害に遭っており、平成15年(2003)の水害では損壊し、後に架け直されている。現在の橋は平成18年(2007)9月に完成したもので、欄干が美しく朱色に塗られ、擬宝珠の装飾が施されている。

名称 半田橋(はんたばし)

登録番号 90002  現代

所在場所 幸都1丁目・通古賀3丁目



幸都地区と通古賀地区を結ぶ、御笠川に架かる橋。平成18年(2006)8月に完成した橋で、欄干には擬宝珠の装飾が施されている。橋が結ぶ幸都地区は平成15年以降に整備が進められた地域で、橋のたもとには公園も設けられている。

名称 旧小字標石 半田(はんた)

登録番号 90003  現代

所在場所 通古賀3丁目(半田公園入口)



平成6年(1994)11月の住居表示変更により無くなる小字名を記録するために建立された標石の1つ。標石には小字名「半田」と番号の「九番」が刻銘されている。小字名半田の由来については不明である。

名称 関屋橋(せきやばし)

登録番号 90004  現代

所在場所 坂本1丁目・通古賀3丁目



坂本1丁目と通古賀3丁目を結ぶ、御笠川に架かる橋。現在の橋は平成2年(1990)10月に完成したもので、欄干は美しく朱色に塗られており、擬宝珠の装飾が施されている。

名称 苜蓿橋(かるかやばし)

登録番号 90005  現代

所在場所 観世音寺2丁目・通古賀1丁目・通古賀3丁目・坂本1丁目



御笠川に架かる橋。旧国道3号線である県道112号線が通っている。現在の橋は平成8年(1996)1月に完成したもので、欄干は美しく朱色に塗られており、擬宝珠の装飾が施されている。

名称 東蓮寺橋(とうれんじばし)

登録番号 90006  現代

所在場所 観世音寺2丁目・通古賀1丁目



観世音寺地区と通古賀地区を結ぶ、御笠川に架かる橋。現在の橋は平成元年(1989)3月に完成したもので、欄干は美しく朱色に塗られており、擬宝珠の装飾が施されている。

G地区

名称 東の陵(東蓮寺跡、薬師山)

登録番号 00007
所在場所 通古賀1丁目



東蓮寺は、景澄の筑前七薬師を納めた寺のひとつと言われ伝えられる。田中熊別の豊を祀るため、後裔の田中熊秀が建てた寺との伝承が残り、田中の森が西陵と呼ばれるのに対し、薬師山は東陵と言われる。

名称 「旧小字 田中」の石碑

登録番号 00009
所在場所 都府樓南1丁目



長者の語で知られる、田中長者の先祖田中熊別(神武天皇に仕えた人。大野城の山頂で東夷征伐の武運を祈願した神社の祭主を務め、後に国衙庄(通古賀)に下向した)の「西陵(墓)」と伝えられる「田中の森」の名残がある一帯が「田中」と呼ばれていた。

名称 四季桜

登録番号 00012
所在場所 都府樓南3丁目・筑紫野市杉塚(都府樓西公園)



都府樓西公園内にあり、昭和62年(1987)、都府樓団地開設20周年記念事業として住民有志により寄贈された。9月下旬から10月にかけて花を咲かせる。

名称 田中の森(西の陵)

登録番号 00008
所在場所 都府樓南1丁目



記紀の時代、四王寺山に設けられた神武天皇の行在所を嘗てした田中熊別という長者の墓がこの付近にあって、「田中の森」(別名「西陵」)とよばれていた。通古賀交差点の近く、鷺田川にかかっている橋が田中橋、その一帯の小字を田中という。田中長者の伝説が残る。

名称 田中橋

登録番号 00010
所在場所 都府樓南1丁目



東道板付・牛頭・筑紫野線(505号)の鷺田川に架かる橋。現在の橋は昭和60(1985)年3月完成。明治28(1895)年4月の銘文が刻まれている「田中橋碑」は、王城神社の境内に移設されている。

名称 都府樓教員住宅

登録番号 00022
所在場所 都府樓南3丁目



昭和43(1968)年に建てられた福岡県教職員住宅で、当初2棟建てられたが、平成19(2007)年に1棟が、23(2011)年に残りの1棟も解体された。

名称 都府楼団地夏祭り

登録番号 00023

所在場所 都府楼団地



昭和45(1970)年、都府楼団地自治会発足とともに親睦融和の一環として、8月に第1回「盆踊り大会」が開催された。現在も継続している。

名称 伝「鶴の墓」の石

登録番号 00025

所在場所 朱雀3丁目(西鉄電車踏切横)



石に由来する石。昔、飛騨の匠が木で鶴を作った。よくできたのでその鶴に乗り唐まで行った。唐の人々は怪しんで矢を放ち、矢は鶴の片羽に当たった。匠は片羽の鶴を壊して太宰府まで飛んで来たが力尽きて覆寺の近くに落ちた。匠は鶴を愛おしんでそこに手厚く埋葬し、故郷に帰ったという。

名称 隈廬公奥都城(くまろこうおくつき)

登録番号 00027

所在場所 朱雀3丁目(覆納骨堂敷地内)



菅原真の息子隈廬の墓。奥津城(おくつき)とは神道でいう墓のこと。901年菅原真の左遷が決まった時、隈廬と紅姫の子供だけは太宰府に同行したといわれている。辛い配流生活の中、902年に隈廬は病を得て急逝したという。現在の祠は、昭和60年(1985)に奉納。

名称 旧小宇標石 北ノ橋(きたのはし)

登録番号 00024

所在場所 通古賀5丁目



平成6年(1994)11月の住居表示変更によりなくなる小字名を記録するために建立された標石の1つ。標石には小字名「北ノ橋」と番号の「拾壹番」が刻銘されている。小字名北ノ橋の由来については不明である。

名称 飛梅の原木

登録番号 00026

所在場所 通古賀5丁目



太宰府天満宮飛び梅の原木といわれている。いくつか説があるが、菅原真が昌泰4(901)年大宰権帥に左遷される時、邸宅の紅梅殿の梅に「東風吹かば…」と詠みかけるとそれに応じた梅の一枝が筑紫に飛んでいったという飛梅伝説は有名である。

名称 多々良井堰

登録番号 00028

所在場所 通古賀6丁目(般若寺跡 多々良井堰そば)



昭和59年(1984)5月に建設されたもので、近年普及してきたゴム引布製起伏堰である。ゴム引布製起伏堰は、ゴム引布製のチューブに空気や水注入・排出することで起伏させる堰のこと。従来の鋼鉄製井堰よりも設置やメンテナンスのコストが安いなどの利点が挙げられる。

G地区

名称 般若寺跡 石造七重塔

登録番号 00030

中世

所在場所 朱雀2丁目(般若寺跡)



古代寺院の般若寺跡に建つ石塔。鎌倉時代後期に造立された七重塔で、太宰府市で一番古い層塔である。花崗岩製で、高さは3.3mあり、台石には金剛界四方仏の梵字が刻まれている。昭和29年(1954)国指定有形文化財に指定。昭和51年(1976)には、解体修理・保存処置。

名称 更正道路碑

登録番号 00032

近代

所在場所 朱雀2丁目(菅原神社)



道路が改良されたことを記念して、明治45年(1912)3月に建立された碑。高さ94cm程の石碑には、寄付者の氏名や寄付額等が刻銘されている。

名称 王城神社

登録番号 00034

中世

所在場所 通古賀5丁目(王城神社)



事代主命を祭神として祀る神社。『王城大明神縁起』によると「神武天皇東征の折、今の四王寺の山上に城を構えた。またこの嶺に事代主命を祀り、東夷を平らげんことを祈らせた。その後、天智帝の時に大野の城を築いた際に、事代主命を国衙庄(通古賀)に遷した。」と伝えている。

名称 猿田彦大神碑

登録番号 00031

中世

所在場所 朱雀2丁目(菅原神社)



菅原神社にある石碑。高さ113cm程の自然石に「猿田彦大神」と刻まれている。

名称 本殿跡台座(菅原神社)

登録番号 00033

近世

所在場所 朱雀2丁目(菅原神社)



朱雀2丁目にある菅原道真を祀る神社。建立年月日など由来は不明であるが、文和2(1353)年に片野村が太宰府天満宮に寄進された時に勧請された鎮守神ではないかという説もある。旧社地は現在納骨堂のある場所だったが、大正10年(1921)般若寺跡に近い現社地に転移したという。

名称 鹿嶋神社の宮相撲

登録番号 00036

中世

所在場所 朱雀4丁目(鹿嶋神社)



7月のオヨドの際、現在も子ども会を中心に宮相撲が行われている。幼稚園児を含めてかなり参加者があり、優勝者や何人抜きかをした子どもには景品が出る。行事を通じて子ども達が、お宮で遊んだり観しんでくれる事が大切だと、地域の人々、保護者が協力して開催されている。

名称 晴明井のエノキ

登録番号 90038

所在場所 朱雀4丁目



晴明井の傍らにある市内最大のエノキである。高さ20m、幹回り3.5m。苔むした幹とゴツゴツした根元には巨木の風格が感じられる。また、現在でも井戸端に座り込み、このエノキの木陰の下で語らう人々が見られるなど、地域にとけ込んだ情景はエノキとともに貴重である。

名称 恵比寿祭(通古賀)

登録番号 90039

所在場所 通古賀地区・通古賀5丁目(王城神社境内)



市内各地において、生業を守り財福をもたらす神様として路傍に恵比寿様が多く祀られている。王城神社の恵比寿祭りは12月1日と決まっている。また、祭神は事代主命すなわち恵比寿神であり、当日は本殿内の恵比寿像が年に1度開帳される。

名称 旧小字標石 東蓮寺(とうれんじ)

登録番号 90040

所在場所 通古賀2丁目(東蓮寺公園入口)



平成6年(1994)11月の住居表示変更に際して建立された標石のうち、地名の由来には、西の院といわれる「田中の森」に対し、東にあるので「東蓮寺」と呼ばれたという説や、最澄の真跡七葉師を納めた寺の1つとして名が見える通古賀の東林寺に由来するなどの説が伝えられている。

名称 大宰府条坊の名残 2

登録番号 90041

所在場所 都府樓南1丁目～2丁目



大宰府条坊跡における坊路(南北道路)の名残と推定されている地。これまで、市教育委員会文化財課により2ヶ所の調査が行われている。

名称 もちの木

登録番号 90042

所在場所 通古賀4丁目垣添公園



通古賀4丁目の垣添公園内に植樹されているもちの木。公園の美しい景観を形作っている。傍らには「旧小字垣添」の石碑がある。

名称 旧小字標 垣添(かきぞえ)

登録番号 90043

所在場所 通古賀4丁目 垣添公園内



平成6年(1994)の住居表示変更により建てられた石碑。旧小字名「垣添」を記しており、26番の番号がふられている。地名「垣添」の由来は、扇屋敷に関係したものであるという説や、昔この地に風雅な女人であったという繪垣姫が住んでいたことに由来するという説が伝わっている。

G地区

名称 マムシの生息地

登録番号 00044

所在場所 通古賀4丁目 鷺田川河川敷



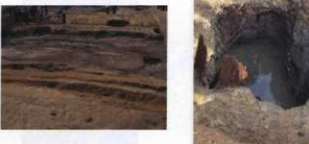
昔、鷺田川河川敷の空き地にはマムシが多数生息していたとのこと。現在は河川改修が行われており、その面影は残っていない。

名称 大宰府条坊の名残 3

登録番号 00046

古代

所在場所 都府樓南4丁目



大宰府条坊跡における坊跡と推定される地。道路、井戸、土坑や牛、馬などの動物が歩いた痕跡等、奈良時代中頃から平安時代後期頃までの遺構が確認されている。主な出土品は、中国の越州窯青磁、都の緑釉陶器、周防からの緑釉陶器、銅製の耳飾り等がある。

名称 関屋井堰復旧工事碑

登録番号 00048

現代

所在場所 幸都1丁目(落合橋傍)



関屋井堰復旧工事の記念石碑。高さは114cmで、昭和25年(1950)3月に建立されたもの。その後、昭和60年頃に行われた観世音寺区の区画整理事業時に撤去・放置されていたが、それを見た個人が自宅で大切に保管されていた。落合公園整備に併せて、石碑も現在地に移動。

名称 「とののくら」の名称表示

登録番号 00045

所在場所 都府樓南2丁目



「とののくら」(殿の蔵)の由来は、江戸時代に地元の年貢米等を一時保管する倉庫と考えられる。向佐野地区にも「殿の倉跡」の碑があり、ここから福岡城の倉屋敷まで年貢米を運んだと伝えられている。

名称 下川原橋

登録番号 00047

現代

所在場所 幸都2丁目・吉松



下川原橋(しもかわはらばし)は幸都地区と吉松地区を結び、御笠川に架かる橋。平成18年(2006)に完成し、同年6月2日に開通式が行われた。

名称 旧落合橋擬宝珠円柱

登録番号 00049

現代

所在場所 幸都1丁目 落合橋側



上部には擬宝珠の装飾が施されており、高さは140cmほど。落合橋は平成15年(2003)の水害により架け直されるが、それに伴い旧橋の欄干は廃棄された。そのうちの1本を個人が譲り受け、旧橋の名称板と一緒に保管していた。落合公園整備に併せて、欄干も現在の場所に移されている。

名称 旧落合橋親柱

登録番号 00050  近代

所在場所 幸都1丁目 落合橋側



昭和5年(1930)に旧落合橋が架けられた時の親柱。現在の落合橋は平成15年水害で架け直されたものである。旧落合橋の親柱は3本あるが、いずれも高さ約80cm、幅・奥行ともに31cm程の大きさである。個人が保管されていたが、落合公園の整備に伴い、ここに置かれることになった。

名称 ドロクサンヤネのセンダン

登録番号 00051  近世

所在場所 通古賀1丁目 通古賀近隣公園内



樹齢200年前後のセンダンの木。江戸時代に通古賀在住の医者であった陶山道益が、氾濫しやすい御笠川の堤防が頑丈になるようにと竹などを植えた。その蔭になった堤防を「ドウエキサンヤネ」と言い、いつしか「ドロクサンヤネ」というようになった。

名称 鹿嶋神社 本殿と拝殿

登録番号 00052  現代

所在場所 朱雀4丁目 鹿嶋神社境内



舊の旧家である菊武家の御先祖が、鹿嶋明神を勧請して建立したといわれる。『福岡県神社史』には、明治5年11月3日に村社に定められた記録が残っている。本殿は金属障板葺き、大きさ3間×3間の建物である。例祭は毎年10月19日に、太宰府天満宮の神職によって行われている。

名称 王城神社本殿及び拝殿

登録番号 00053  現代

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



寛政2(1790)年太宰府天満宮六度寺の法印船賢和尚による「王城神社縁起」が伝わっており、戦乱で荒れ果てた神社を氏子達が再建して祀った事が記録されている。御祭神は事代主命で、毎年10月17日に例祭が行われる。拝殿はコンクリート銅板葺きで、昭和56年(1981)7月に再建されたもの。

名称 鷺田橋親柱

登録番号 00054  近代

所在場所 通古賀5丁目 鷺田橋



昭和7年(1932)3月に竣工した鷺田橋の親柱。幅80cm×奥80cm×高さ110cmの大きさのもので、現在も使われている。

名称 大行事塔(東蓮寺)

登録番号 00055  近世

所在場所 通古賀1丁目(薬師山)



大行事とは山王(さんのう)二十一社の中七社(なかしちしゃ)のひとつ。牛馬の安全の神様として農家の信仰を受けていた。江戸時代の安政5年(1858)に全国的にコレラが大流行し、約三万人の死者が出た。このため、安泰をも祈る人々によって、安政7年(1860)に建立されたものと思われる。

G 地区

名称 旧小字標 西ノ後(にしのうしろ)

登録番号 00056



所在場所 通古賀4丁目



平成6年(1994)11月の住居表示変更により建てられた石碑。旧小字である「西ノ後」を記しており、25番の番号がふられている。地名「西ノ後」は願鳳堂に関係する地名とされ、以前は「ヤネ」と称して、竹や雑木が塀のように植えられていたという。

名称 旧小字標 鶴畑(つるのはた・つるはた)

登録番号 00057



所在場所 通古賀5丁目



平成6年11月の住居表示変更にもない建てられたもの。幅14cm×奥14cm×高さ88cmの石柱で、「廿七番」の番号が刻まれている。地名「鶴畑(つるのはた・つるはた)」の由来は、説「鶴の墓」の鶴が不時着した場所だからともいわれている。

名称 クスの大木

登録番号 00058



所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



王城神社拝殿左に位置する楠の大木。根本に恵比寿神が祀られている。

名称 礎石

登録番号 00059



所在場所 通古賀5丁目 王城館前



王城神社隣の王城館前にある旗立石の台座として使用されている。割られて4個程を1つにして使われており、側のソテツの土留めでも1個以上使われている。『とおのこが風土記』では長沼賢海氏の説「国府遺跡」を取り上げている。

名称 猿田彦太神

登録番号 00060



所在場所 朱雀3丁目



朱雀3丁目に祀られている石塔。高さ158cmの自然石に「猿田彦太神」の文字が刻まれている。

名称 共同井戸 手押しポンプ式井戸 1~7

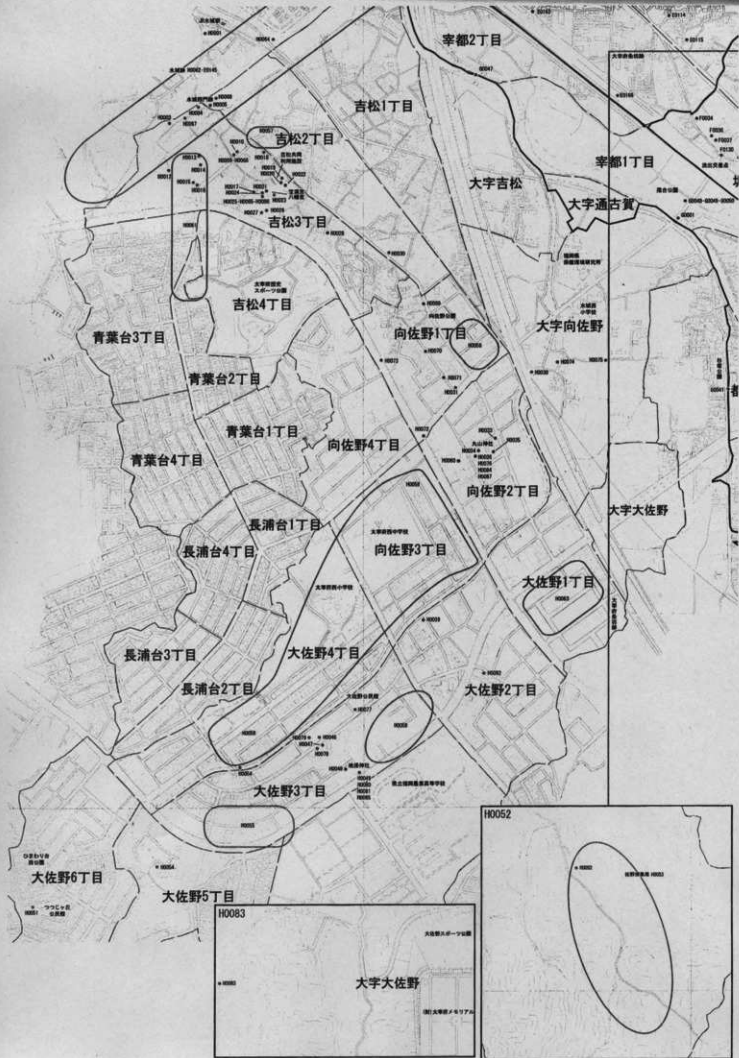
登録番号 00062



所在場所 朱雀6丁目



昭和30年代に複世住宅が開発されたときに、飲料水用として設置された共同井戸の跡。住宅地の道の端に造られていて、今も道の一部として残っている。7ヶ所の内、手押しポンプが残っているのは3ヶ所。井戸の他、区画の中央には流し溝も通っている。



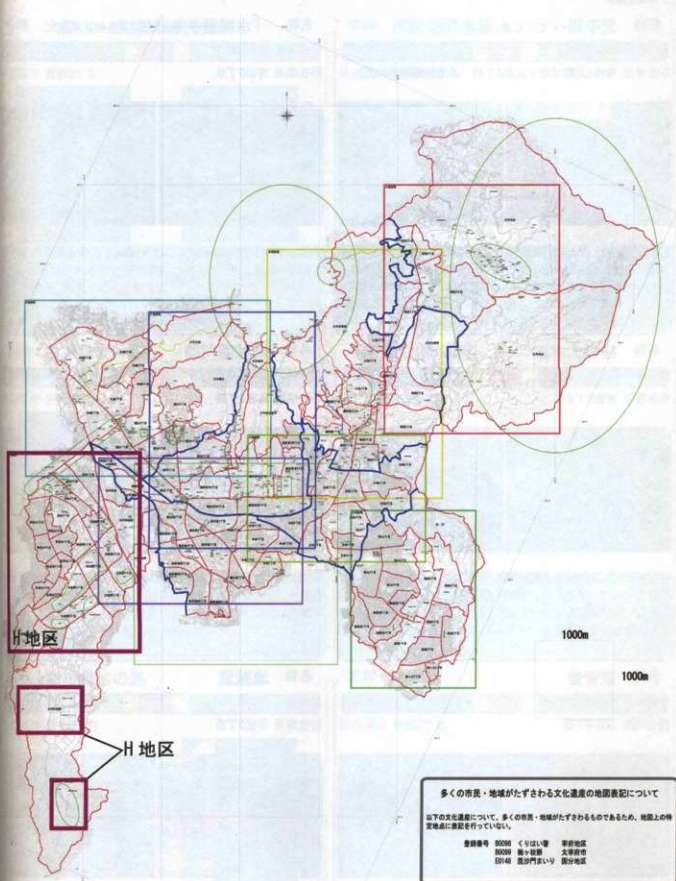


図 18. H地区位置図

H 地区

名称 父子島(ててこじま)

登録番号 H0001



所在場所 市外(大野城市下大利4丁目 JR水城駅西側の丘)



水城築造に関わる伝説の一つ。JR水城駅西側の丘には、「水城の西側で働いていた父と子が、土屋ができあがったとの知らせにわきおこる歓声のなか、いっぺんに力が抜けて担いでいた土をその場に投げ出した。その土が不思議なことに土饅頭のように盛り上がって丘になった。」という。

名称 桜の大木跡

登録番号 H0004



所在場所 吉松3丁目



「水城堤」の西門を挟んだ西側の突端部には、大きな桜の樹が植えられていたという。西門の礎石も置かれ宴会のテーブルとして地域に親しまれていた。現在は、桜の樹も枯れ、礎石も移動し、その痕跡さえも見られない。

名称 観音堂

登録番号 H0009



所在場所 吉松3丁目



太宰府市吉松にある観音堂。十一面千手観音菩薩を祀り、四国23番札所となっている。以前はムラで大切に祀っており、7月17日夏祭りオヨドは氏神様よりも盛大であったといわれている。

名称 「水城堤」平成15年7月豪雨被害跡

登録番号 H0003



所在場所 吉松3丁目



平成15年7月15日の豪雨の際、土砂崩れの被害を受けた「水城堤」の一現場。

名称 水城西門跡

登録番号 H0005



所在場所 吉松2丁目



西暦664年に、唐・新羅連合軍に備えて造られた防衛施設である水城。そこには東と西に二つの門があり、この地はその「西門」の跡である。

名称 地藏堂

登録番号 H0010



所在場所 吉松3丁目



観音堂の横にあるお地藏さんと呼ばれている。地藏菩薩のほか弘法大師座像、阿彌陀如来座像、切石馬頭観音など、個人でお祀りできなくなった仏様、お地藏さま、大師像などを集め、現在7体が祀られている。

名称 大陸山 水城院(廃寺跡)

登録番号 H0012

近代

所在場所 吉松3丁目



大正13年(1924)7月、日蓮宗僧侶高橋日統を中心に、「大陸発展、海外雄飛、大亜親交の道場」とする目的により建立された寺院の跡。戦後しばらくは活動していたが、その後廃寺になった。大正15(1926)年5月15日 朝鮮総督齋藤実により、朝鮮全羅北道出土の梵鐘の寄贈を受ける。

名称 高射砲陣地跡

登録番号 H0013

近代

所在場所 吉松3丁目



太平洋戦争末期に、旧日本軍の諸施設防護、および南部から来る連合国軍の爆撃機に対応するために設置された高射砲陣地の跡。【右写真は、跡地からの太宰府の眺め】

名称 古溪大明神祠

登録番号 H0014

近代

所在場所 吉松3丁目



「ロクセナマ」は、もと京都大徳寺の住僧で豊臣秀吉の怒りにふれ博多に流罪となった古溪禪師のこと。明治初期、村中大火があり、博多古溪町より勧請され、民家横の山の中に祀られた。秋の宝満宮・八幡宮の宮座の折に注連縄がつくられ、ここにも奉納される。

名称 浅川家墓地

登録番号 H0015

中世

近世

近代

所在場所 吉松3丁目



明治期において吉松地区の農業の発展に寄与した篤農家浅川甚次郎の墓とその一族の墓地。

名称 熊田勇吉の墓

登録番号 H0016

現代

所在場所 吉松3丁目



明治期の吉松地区の政治的先駆者である熊田勇吉の墓。墓裏面に功績碑文がある。墓の横には、「故 熊田勇吉百回忌供養塔」が建てられている。

名称 汐井川

登録番号 H0017

所在場所 吉松3丁目



吉松大池から大佐野川に注ぐ川(水路)。かつては清流で、きれいな砂が採れ、潮井としていた。

H 地区

名称 島本遺跡

登録番号 H0018



所在場所 吉松3丁目



水城西門を通り、筑紫館(櫓置館)に通じる官道跡の遺跡。かつては舗装の色を区別してあり、1階駐車場部分に官道幅を見ることができたが、現在は同色となり判別ができなくなっている。

名称 若宮様(石塔)

登録番号 H0020



所在場所 吉松3丁目



宝満宮・八幡宮の入口に「庚申塔」(猿田彦大神)と並んで建つ石塔「若宮さま」。

名称 猿田彦大神

登録番号 H0022



所在場所 吉松3丁目



吉松宝満宮・八幡宮入口にある猿田彦大神石塔。

名称 石碑(神徳如天)

登録番号 H0019



所在場所 吉松3丁目



宝満宮、八幡宮の入口右側にあり。昭和30(1955)年吉松区の10人が土地183坪を宝満宮八幡宮に寄贈したのを記念して建立。「昭和三十年」の紀年銘がある石碑。神銘「神徳如天 宝満宮司西高辻信貞書」、そのほか、寄贈者名が記されている。

名称 宝満宮旗立石

登録番号 H0021



所在場所 吉松3丁目



「明治廿二(1889)年己丑三月建」の紀年を持つ旗立石

名称 石碑

登録番号 H0023



所在場所 吉松3丁目



吉松の宝満宮・八幡宮の拝殿左側の花栗の木の根元にある石碑。銘文は判読不能。台座には、平成3年9月14日台風17号と刻まれている。

名称 「けやき」の木

登録番号 H0024

近代

所在場所 吉松3丁目



洩川甚次郎(慶応2年(1866)11月13日生まれ、篤農家、区長を3期務める)が宝満宮に献木したケヤキの木、傍に「献木区長洩川甚次郎」と刻まれた石碑がある。

名称 八幡宮遷拝所

登録番号 H0026

近代

所在場所 吉松3丁目



吉松の枝村園田(尊田)の氏神八幡宮が本村の氏神宝満宮に合祀された(明治25年頃)ため、跡地である現在の太宰府歴史スポーツ公園相模橋入口付近に建てられた遷拝所。福岡・筑紫野線道路開通のため、現在は宝満宮の裏山に移転した(大正9年)。

名称 猿田彦尊

登録番号 H0028

近世

所在場所 吉松3丁目



日道に面して建つ尊田の路傍神。「猿田彦尊」。

名称 宝満宮・八幡宮

登録番号 H0025

近世

近代

所在場所 吉松3丁目



薄政時代に尊田・吉松で各々祀られていた八幡宮・宝満宮が合祀されている(合祀期は明治25年頃)。両者の産土の神を祀る。近年の秋の宮座は、10月15日に近い日曜日に行われている。

名称 板碑

登録番号 H0027

所在場所 吉松3丁目



八幡宮遷拝所横にある。尊田の「八幡宮」、後の「八幡宮遷拝所」境内に祀られていたものをここに移転した、との話が伝えられる。

名称 天神の森

登録番号 H0030

所在場所 吉松2丁目



吉松にある広さ3坪程の三角形をした竹藪で、そこに菅原道真が腰掛けたという小さな石があった。この竹藪にはマムシがたくさんいたので、やはり聖地だということで周囲に神を植えて中に入らないようにしていた。現在、竹藪は切り払われており、僅かに三角形の敷地が名残をとどめている。

H地区

名称 猿田彦大神

登録番号 H0031



所在場所 向佐野1丁目



大正11年(1922)の郡制廃止時、大佐野、向佐野、吉松の3地区を通る道をつ造った時、大佐野から出た石を向佐野がもらって碑をつ造った猿田彦大神碑との説有り。

名称 庚申塔(庚申天)

登録番号 H0033



所在場所 向佐野2丁目



姪浜から引いてきた石でつくったと伝えられ、当初は近隣の屋敷外(シラツチ)に祀られていたものが、現在地に移転した。庚申信仰は、中国の道教思想に由来し、60日ごとに回ってくる庚申の夜に宿主の家に集い、眠らずに夜を明かすもの。

名称 毘沙門堂

登録番号 H0034



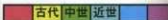
所在場所 向佐野2丁目(丸山神社境内)



古くからあり、「ピシャモンヤシキ」と呼ばれていた。現在は祠堂内に石製・木製の「毘沙門天立像」2体が祀られている。

名称 前田公園地下遺跡

登録番号 H0035



所在場所 向佐野2丁目(前田公園)



前田公園の地下に残された遺跡。小字前田・日焼・久郎利にまたがり、旧石器時代から江戸時代に至る遺跡がある。この公園の北東に接する久郎利遺跡には、奈良時代の整然と並ぶ建物群が確認され、官道に係わる公的な施設が置かれていたと考えられている。

名称 丸山神社

登録番号 H0036



所在場所 向佐野2丁目(丸山神社)



流離の神像で、地元の人々によって大切に祀られている。昔は牛頸の平田にあったといわれ、いつの日か大水で流されてきたという。その場所を宮ノ本といい、ムラの人はモトミヤと呼んでいた。明治20年の大雨の時に流され、現在地にお祀りしたといわれる。

名称 国鉄鹿兒島本線赤煉瓦造架橋

登録番号 H0038



所在場所 向佐野



明治22(1889)年の博多～千歳川間の鉄道開通に伴い向佐野に架けられた鉄橋。ドイツ式の赤煉瓦で造られたものであった。1999年から新橋の架橋工事が行われ、2001年の新橋完成とともに姿を消した。

名称 大日如来像

登録番号 H0039

所在場所 大佐野2丁目



福人節で年一回籠栗まで一泊二日のお参りに行く際には、この場所に集合して出発した。帰ってきたときも、この場所に集まり宴会をした。区画整理のとき、現在地へ移す。左右の石は本来はお堂の外の左右にあったが、区画整理でお堂を移すときにお堂の中へ入れて祀っている。

名称 ポンプ式井戸

登録番号 H0047

所在場所 大佐野3丁目(大佐野公園前バス停広場)



音を偲ぶポンプ式の井戸。「飲料不可」の掲示がある。

名称 宮原源作翁顕彰碑

登録番号 H0046

所在場所 大佐野3丁目(大佐野公園)



資産家で一言では言い尽くせないほど大佐野のために尽くし、明治の初め大佐野に共有田、共有山の制度を作った宮原源作の顕彰碑。大正3年建立。

名称 お堂(聖観音堂)

登録番号 H0048

所在場所 大佐野3丁目(地祇神社横)



聖観音を祀っている。個人宅から現在地に移転。区画整理の時に現在地に移った。お堂は、集落の人がお参りしていた。

名称 地祇神社

登録番号 H0049

所在場所 大佐野3丁目(地祇神社)



祭神は埴安神で、地域守護神・農耕守護神である。代々武蔵村党権大明神の平田氏が祭祀に関わり、例祭は近世を通じて9月15日、現在は10月17日である。

名称 猿田彦大神

登録番号 H0051

所在場所 大佐野6丁目



コンクリート製の祠の中に花崗岩を加工した神鏡「猿田彦大神」が建てられている。最近建てられているが、時期は不明である。

H 地区

名称 狻田彦大神

登録番号 H0052



所在場所 大佐野字佐野浦



かつてあった佐野浦集落の中にある狻田彦大神碑で、碑銘「狻田彦大神」とされ市内でも珍しいものである。明治14(1881)年の銘が刻まれている。現在は、ここに通じる道が分かりづらくなっている。

名称 佐野浦集落

登録番号 H0063



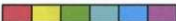
所在場所 大佐野字佐野浦



大字大佐野字佐野浦に所在した集落。現在は山林と化しているが、かつての面影をとどめるように家の区画が石垣として残り、「狻田彦大神」石碑が残っている。多くは大宰府市所有地となっている。

名称 大佐野川

登録番号 H0054



所在場所 大佐野5丁目長ヶ坪橋付近



大佐野集落から向佐野集落へと流れる川で、現在はつつじヶ丘や区・ひまわり台区の人達が虫の生息地にしようと河川の清掃を行い、また河川の岸にコスモスを植え護岸の美化に努めている。

名称 カヤノ遺跡

登録番号 H0055



所在場所 大佐野3丁目



縄文時代早期の遺物と、古墳時代末から奈良時代にかけての集落跡が見つかっている。9世紀になると集落は廃絶し、墓が営まれた。

名称 久郎利遺跡(くろうりいせき)

登録番号 H0056



所在場所 向佐野1丁目



太宰府市向佐野地域に広がる遺跡。奈良時代の建物が整然とならぶように検出されている。

名称 吉松本遺跡

登録番号 H0057



所在場所 吉松2丁目



太宰府市吉松地域に広がる遺跡。発掘調査によって、水城西門を通過する官道が検出された。

名称 宮ノ本遺跡

登録番号 H0058

所在場所 向佐野3丁目・大佐野4丁目



原始・古代の墳墓群や須恵器窯跡などが調査されている。太宰府西小学校内の宮ノ本1号窯(9世紀)からは、国内の出土例としては初めて買地券が出土している。

名称 京ノ尾遺跡

登録番号 H0059

所在場所 大佐野3丁目



太宰府市南西端に位置する大佐野にある遺跡。古墳時代の竈穴住居や、戦国時代に埋没した谷などが確認されている。

名称 佐野塾跡

登録番号 H0060

所在場所 向佐野2丁目



生野塾とは、太宰府市向佐野にある川辺家の屋敷内に天保年間から明治初年まであった寺子屋。明治になって寺子屋をたどり、その後倉庫として昭和30年ごろまで使われる。現在は「佐野塾之址」碑が建つ。石碑後方にある土壇状の高まりが、倉庫跡だといわれている。

名称 神ノ前窯跡

登録番号 H0061

所在場所 青葉台3丁目



窯跡は標高46~47mの位置にあり、水城大堤側の水田面との比高は約20mほどである。太宰府市から大野城市牛頭にかけて分布する牛頭窯跡群の一支群として考えられ、2号窯跡では須恵器とともに瓦類の生産も兼ねている。この瓦類は九州地方最古期に位置づけられることができるものである。

名称 水城跡

登録番号 H0062

所在場所 園分・市外(大野城市)



新羅の来襲に備えて、天智天皇3年(664)に築造された土。日本書紀に「大堤を築きて水を貯えしむ。名づけて水城いふ」とあり、記録上確認できる日本最初の城である。現の堤防は高さ13m、幅約80m、全長1.2km、博多側に幅60m、長さ4mの外堀が確認されている。

名称 フケ遺跡

登録番号 H0063

所在場所 大佐野1丁目



古墳時代後期の集落遺跡。区画整理事業に伴い埋蔵文化財調査が実施され現在は残されていない。

H 地区

名称 水城跡・線路切り通し

登録番号 H0064 近代

所在場所 吉松



国特別史跡「水城跡」の切通し部分。明治22年(1889)「九州鉄道」博多駅～千歳川駅間の開通のために、水城跡の一部が切通しとなった。その後、大正8年(1919)に完成した複線化工事に伴う拡張工事を受けている。大正2年(1913)に線路拡張工事の調査が行われた際のスケッチが残されている。

名称 小祠、仏堂の信仰行事(吉松)

登録番号 H0066 近代

所在場所 吉松3丁目



観音様のヨド(7月17日)、川祭り(八反川、沙井川)、ダブリユウ(10月初め)、庚申講、大師講(毎月20日)、英彦山まいり、礼うち等の行事が行われていた。現在も周辺住民の努力により一部が継続され、これらの行事や伝統が区民住民の団結力を高める役割を果たしている。

名称 水城経塚

登録番号 H0068 中世

所在場所 吉松2丁目



3基の経筒が発掘されたが、既に2基は盗掘されていた。残る1基からは、経筒、短刀、飾金具、ガラス玉などが出土しており、これらの品々は12世紀前半～中頃に作られたものと推定され、経筒塚の造営時期も同時期であると推定されている。

名称 宝満宮・八幡宮の年間諸祭

登録番号 H0065 近代

所在場所 吉松3丁目(宝満宮・八幡宮)



4月・春籠り、田植え後の7月中旬・サナブリ籠り、7月中旬・夏籠り、夏まつり(オヨド)、9月上旬・秋籠り、10月16日・秋祭り宮座、10月28日・神送り、11月28日・神戻し、等が地域の方々によって行われていた。行事は減少したが、現在も夏祭り(オヨド)、宮座が実施されている。

名称 水城院への参詣道

登録番号 H0067 近代

所在場所 吉松3丁目



高鍋日統師が、斎藤実氏や頭山演氏等の要人を水城院まで招待するために整備した水城西門から水城院へと続く私道。大正15年(1926)に完成したこの道路を、地元の人々は親しみを込めて「日統参道」と呼んだ。また、斎藤実(朝鮮総督)から寄贈された梵鐘は、この道を通ったという。

名称 長浦遺跡(ながうらいせき)

登録番号 H0069 古代

所在場所 向佐野1丁目



標高33mから36mにかけて遺構が展開している。検出された遺構から、この傾斜地には、弥生時代前期の貯蔵穴や奈良時代の墓地(火葬墓)が形成されていた。

名称 日焼遺跡(ひやけいせき)

登録番号 H0070

古代

所在場所 向佐野1丁目



古代官道(西門ルート)に近接し、現在の向佐野公園の西側丘陵一帯において、9世紀中頃～10世紀後半にかけて造られた12基の土葬墓(木棺墓)が検出されている。埋納品も鏡、鉄釘、陶器、木棺等が見つかり、有力な高階層の人々の墓と位置づけられている。

名称 向佐野地下歩道

登録番号 H0072

現代

所在場所 向佐野2丁目



県道福岡筑紫野線を横断するため「長浦台入口」交差点に設置された地下歩道。昭和53年(1978)3月に竣工したもので、当時は太宰府西小学校・太宰府西中学校への通学路として大いに利用された。現在は交差点に信号が設置されたこともあり、利用する人はまばらになっている。

名称 大宰府条坊の名残

登録番号 H0074

古代

所在場所 大字向佐野



大宰府条坊(隴山条坊復元案)の西側周辺に位置している。北部の筑前国分寺跡地区の道路や東部の天満付近の斜行地割施行エリア等との関連を総合的に勘案され、奈良時代には現在想定されている条坊域より2区画ほど広がり、この付近が条坊の西端だとの説もある。

名称 古代官道跡の名残

登録番号 H0071

古代

所在場所 向佐野1丁目



向佐野付近で見られる、水城西門から杉塚庵寺付近へと抜ける古代官道の名残。写真右側のブロック塀(きわ)が、官道の端と推定されている。この付近は丘陵地で、古代官道は前田遺跡の方向へ直線的に延びている。現在は両側に住宅が建ち並んでいる。

名称 新向佐野地下道

登録番号 H0073

現代

所在場所 向佐野1丁目11



向佐野地区の農業者が、農業用溜池である長浦池を運用・維持管理する往來のために設けられた地下道。県道31号線(福岡筑紫野線)が建設される以前は、向佐野から長浦池までの専用の道路が存在していたが、県道31号線建設に伴い、迂回路が必要となった。

名称 大宰府条坊の名残

登録番号 H0075

古代

所在場所 大字向佐野 水城西小学校東側



水城西小学校の東側を南北に走っている道路は、大宰府条坊跡の坊路と推定されている地で、条坊の西端と考えられている。この付近は一面に田んぼが広がっており、古代の条坊の名残が良くみられる地域である。これまで一切発掘は行われておらず、今後の調査が期待されている。

H地区

名称 向佐野地区小祠・仏堂の信仰行事

登録番号 H0076

所在場所 向佐野2丁目



向佐野地区では、以前は観音講や大師講、庚申講などが盛んに行われていた。また、昭和初期までは礼うち、戦後まもなくまでは彦山参りも行われていた。現在はこれらの信仰行事も減少してしまったが、地区の方々によって庚申講が行われている。

名称 旧小宇石碑「カヤノ」

登録番号 H0078

所在場所 大佐野3丁目



大佐野3丁目の大佐野公園前バス停広場に所在する石碑。この地域の旧字名であった「カヤノ」を記している。

名称 宮座祭

登録番号 H0080

所在場所 大佐野地区



大佐野地区で行われている宮座祭。旧来は7組36軒で運営されており、7組の方が年1回持ち回りで自宅にて宴席を設けて行われていた。宴席には「壇大神」の掛け軸が置かれ、午前中地祇神社にお参りして、宴が行われる。2010年には6軒の方々によって行われており、宴席は外部でされている。

名称 申田彦尊

登録番号 H0077

所在場所 大佐野3丁目



大佐野3丁目に所在する庚申塔。高さ88cm程の石碑正面には「申田彦尊」と刻まれており、左右にも銘が残されている。もともとは大佐野の京の尾地区にあったが、区画整理に際して現在地へと移されている。

名称 大佐野地区のほうげんきょう

登録番号 H0079

所在場所 大佐野3丁目(大佐野公園)



昔は各組毎に道路・辻で行われていたが、現在は火災等の危険もあり大佐野公園で行われている。大佐野地区では、毎年1月7日前後の日曜日に行われており、前日に竹やカヤを取って来て櫓を組んでいる。当日は正月飾りを燃やし、その火で餅を焼いて食べる。

名称 宮座祭

登録番号 H0081

所在場所 大佐野 (地祇神社 公民館)



7組で当番座が交代して行われ、7年に一回当番がまわってくる。当番座の組みは以下の作業をする。地祇神社の清掃、注連縄の製作、神輿の準備、餅つき(2009年は未実施)。地祇神社で祭事が行われた後、祭壇のお供物、注連縄を公民館に移し、再度祭壇を設け直会をする。

名称 猿田彦大神

登録番号 H0082

所在場所 大佐野2丁目(道路わき)



大佐野2丁目に所在する猿田彦大神碑。高さは177cmほどで、裏面にも銘が残されている。区画整理の際、現在地に移されている。

名称 池ん谷の池

登録番号 H0083

所在場所 大佐野(光妙教会敷地内)



流れ込む川などはなく、雨水が溜まってできた池とも、山の頂上のたまり水の周囲に堤防をつけて池にしたものともいわれている。以前はこの地で雨乞い行事「龍のぼり(龍上げ)」が行われており、池に御神酒を入れて龍神を怒らせるため池をかき混ぜてという。現在はわずかに沼の形を残している。

名称 丸山神社の年間諸祭

登録番号 H0084

所在場所 向佐野2丁目 丸山神社



伝統的な年間行事が氏子・地区の方々によって行われている。「春籠もり」「夏籠もり」「オヨド・宵祭り」「秋籠もり」「宮座」「神送り」などの年間行事が、現在も大切に受け継がれて行われている。またこの他に、境内の清掃も氏子・老人クラブの方々によって毎月行われている。

名称 地祿神社(イチイガシ)

登録番号 H0085

所在場所 大佐野3丁目(地祿神社)



地祿神社境内に生育するイチイガシ。2009年の調査時で、樹高21.3m、幹周り3.3m、枝張が東4m、西5.5m、南9m、北3mを測る巨木であり、市内屈指のイチイガシである。天然記念物として太宰府市の指定を受けている。

名称 宝満神社の宮座

登録番号 H0086

所在場所 吉松3丁目(宝満宮)



宮座とは、まつり座を設けて神を迎え、供物を献じ、祈願・感謝をこめる行事。拝殿にて神事を執り行う。お供えは、野菜(大根、人参、ごぼう、栗、みかん等)と新米を供えている。

名称 丸山神社の宮座

登録番号 H0087

所在場所 向佐野2丁目(丸山神社)



宮座とは、まつり座を設けて神を迎え、供物を献じ、祈願・感謝をこめる行事。丸山神社における宮座開催日は、毎年10月第3日曜日と決められている。氏子組織は19軒あり、1番座～6番座で構成されて毎年の当番を担当されている。

4. 文化遺産から太宰府市民遺産へ

a. 本書の活用方法

本書の活用方法は、読者の皆さんの考えで如何様にも利用できるものです。先ほど記しましたように平成23年までの太宰府を知る上で、多様な感性で収集された文化遺産に関する情報です。当然のことながら個人所有のもの、調査未了のもの、市域外で未整理のものがあるなど、平成23年までの太宰府といえども、選択された情報であることは否めません。「育てる文化遺産情報」として今後も調査を継続し、情報の更新を図っていきます。

本書の活用方法の二三を記しておきます。あとは、読者の皆さんの考えでご活用ください。

①文化遺産を知る手引き

詳細な情報は掲載しておりません。身近な文化遺産を知る導入にご使用ください。詳細な情報は、先述しましたように、各機関にお尋ねください。

②身近な文化遺産の存在意味を知る

文化遺産は、時間の経過とともに行為や存在意味が忘れられ、いつしか無用の長物と化し、捨てられ・壊され・失われていきます。捨てる・壊す・失う前に、それが何かを問い、知るために本書を活用ください。

③太宰府の歩み・個性を知る

今を生きる私たちは、太宰府に生きた先人達の積み重ねの上で生活をしています。太宰府の先人達が継承してきた様々なモノ・コト（出来事の物語）は、太宰府で培われ育てられたものです。いわば太宰府の個性を表現するものの一つです。

④つながりを知る

文化遺産の多くは、人と人とのつながりで継承されてきました。人はひとりでは生きていけないのと同様に、モノ・出来事はひとつでは存在しません。つくる・つかう・置くなど様々な状況の結果として、そこに存在しています。眼前に存在しているモノ・行為の背景にある人と人とのつながり、モノとモノとのつながりを知ることにお役立てください。

b. 文化遺産からはじまるまちづくり

人口流失、商業活性化など多くのまちで同じ問題で日々議論が交わされ、様々な事業が展開されています。個性を失ったまちには人は魅力を感じない。どこにでもあるまちをつくり出しては、そこに行く価値を見いだせない。1970年代からの高度経済成長期には、山を削り、谷を埋め、川をつけ替える人類史上、初めての地形を変える大造成の時代でした。そこから生まれたのは、綺麗なまち、住みよいまちでしたが、どこかで見たまちが多く地域に出現したのではないのでしょうか。太宰府も福岡市のベッドタウンとして多くの宅地が造り出され、人口も右肩上がりに増加していきました。太宰府は、大宰府で知られるように、いにしへの昔から多くの人々が生き、行き来し、その痕跡として多くの文化遺産が積み重なり、実に個性豊かな地域をつくりだしています。また、太宰府天満宮があるまち、史跡のまちとして名を知られ、多くの人々が今も行き来しています。時間の流れと大きな社会のうねりの中で、昔ながらの風景・風情は、現代的な風景・風情へと変化していきました。

新旧問わず、個性は存在します。個性を新たに作り出すことは、創造することに似て大変なエネルギーを要します。「今ある個性を知り、それを育てること」、これも大変ですが、新たに創造するよりは、継承することの方が、できることを見いだすことができるのではないかと思います。

今ある個性を表現するもののひとつが文化遺産です。文化遺産の存在を知り、存在する意味を知り、そして育てることが太宰府市民遺産の取り組みです。その第一歩が、文化遺産の存在を知ることです。この一歩目を、文化遺産調査ボランティアの方々に行っていただきました。そこには、新たな出会いもありました。人とモノもさることながら、調査員相互の出会い、調査者と地

域の方々との出会いなど、この取り組みによって人と人とのつながりが生まれ、時には育ちました。文化遺産からはじまるまちづくりのもう一つの姿は、人と人がつながることです。

平成16・22年度に策定した『太宰府市歴史文化基本構想』では、未来の市民に伝える太宰府を、従来型の文化財から、真に未来の市民に継承したいモノ・コトとしての文化遺産まで裾野を広げ、「見守る」「保護する」「育成する」の三つを柱に取り組みむことにしました。まだはじまったばかりで、担当部署でも十分理解が足りているとは言い難い面があります。この三つの柱の中で、最初に意図したことは、自ら見つけた、知ったものに対する愛着心の芽生えでした。そこには、存在を知ることから、その存在意味までを知った方に芽生える、「見守る」気持ちの萌芽を期待しました。単に、存在を知った、その存在意味を知ったということだけでなく、そこには、身近な人たちが継承してきたという親近感と「使命」感が重なり合い、異なった感情移入が生じたのだと思います。父母、祖父母が継承してきたもの、自らが幼かった頃に体験したことなど、自分の生きてきた経験（歴史）自体が、かけがえのない文化遺産を体験し記憶していることに改めて気付かれた方も多くおられたようです。文化遺産調査に関わっていただいた市民ボランティアの皆さんは、今も元気に関わっていただいています。平成23年3月で文化庁からの受託事業（文化財総合的把握モデル事業）が終了し、その際、文化遺産調査ボランティアの方々とは今後について話し合いました。その時の言葉が、自分たちが見つけた文化遺産を「見守りたい」でした。この「見守りたい」に拘束力はありません。そこには始める勇気とやめる勇気が表裏の関係として存在しています。継承しなければいけないという脅迫観念に苛まれることこそが、継承する気持ちを弱らせてしまいます。いっそのこと、「自分たちの代だけ、楽しく継承していくことができればいい。」という思いで行っていただけたらいいのではないかと考えています。楽しくないものには、誰も継承したいという思いは生じない、ただ辛いだけの苦行になってしまいます。しかし、いつも元気で笑いが絶えない活動は、自然とつながっていくものだと思います。継承していく者がいなくなれば、やめる勇気、そういうものなんだという思い切ったあきらめも今後は大切だろうと思います。

c. 太宰府市民遺産

未来の市民に伝えていきたいと思うものを、自らのできることで保護育成する。もし、その文化遺産が多くの市民に共有できる物語をもつのであれば、その物語と自らができる保護育成活動とともに景観・市民遺産会議へ提案する。そして、そこで認められれば、太宰府市民遺産に認定されます。保護育成することは、できることをできる範囲で行う。大きな資金がなくても、市民に語り伝える活動でも構わない。それが多くの市民に共有されることが大切です。例えば、平成24年2月に市内で開催された地域の文化祭（都府楼団地自治会主催の文化祭）で、地域の文化遺産の紹介パネルが展示されました。この展示は、文化遺産調査に携わってくださったボランティア調査員のお一人が自主的に取り組まれたものです（図19）。このように、できることを自らのできる範囲で行うことで、身近にある文化遺産の意味が継承されていくことにつながります。このような活動も、文化遺産に対する育成活動の一つといえます。

太宰府市民遺産に話を戻すと、一旦、太宰府市民遺産に認定されると、市民



図19. 地域の文化祭で展示された文化遺産調査成果

【都府楼団地自治会】

太宰府市民遺産（太宰府市景観・市民遺産会議で認められた宝）

= 守り・育てたいモノ + 守り・育てたいモノが歩んできた物語 + 守り・育てたい「ちから（活動）」

【「ちから（活動）」の源となる物語（思い）】



図 20. 太宰府市民遺産のイメージ

代表で構成される景観・市民遺産会議の場で、育成活動に関する議論をすることができるようになります。育成活動を継続するための議論、支援を受けるための議論を、市民一事業者一行政機関皆で行うことができます。しかし、様々な事情で支援できないと判断された場合は、失われてもやむを得ないということもあり得ます。支援ありきではありません。一方で、保護育成する団体や個人が、孤独に悩むのではなく思いを共有する多くの人で考えることができることが、太宰府市民遺産の利点です。支援の方法もできることを持ち寄って助け合う。金銭的、人的、物的支援など様々な方法で助け合うことができることも太宰府市民遺産の利点です。動き出して未だ1年余りで、太宰府市民遺産の利点が見えづらく、感じづらい状況が続いていますが、次第に多様な支援の姿が浸透していくと、「利点」も見えてくるのではないかと思います。

d. 行政計画の中の文化遺産

文化遺産調査活動から太宰府市民遺産までの取り組みは、平成23年3月に策定した『太宰府市民遺産活用推進計画』に立てた内容であり、実践活動です。太宰府市は、平成20年度から3ヶ年にわたり文化庁からの受託事業である「文化財総合的把握モデル事業」を受託し、『太宰府市歴史文化基本構想』として二つの計画を位置づけました。一つは平成16年度に策定した『太宰府市文化財保存活用計画』であり、いま一つは先に記した『太宰府市民遺産活用推進計画』です。前者が考え方を示した計画であり、後者はそれを受けて実践するための方法を具体的に示した実務計画です。

この実務計画に、本書に収めた文化遺産情報を収集してくださった文化遺産調査ボランティア活動が位置づけられています。さらに、収集された諸情報を広く公開し、多くの市民の皆さまに「見守って」いただく計画として記しています。それらの広く多彩な文化遺産の中から、学術的・芸術的・鑑賞的に優れたものを抽出し、未来に継承していくものを文化財として保護していく、従

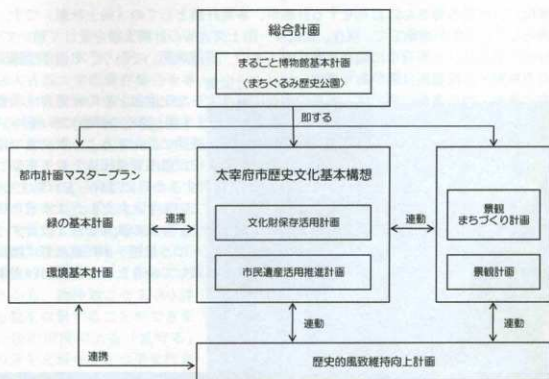


図 21. 関連計画 1

来型の保護施策も記しました。さらに本市の特色として全国に先駆けて動き始めたのが、『太宰府市民遺産』の取り組みです。未来の市民に継承していきたいものを、市民目線で抽出し、継承していく市民独自の育成活動とともに景観・市民遺産会議で認める。継承していきたい文化遺産を構成する様々な文化遺産を、多様な手法で保護育成していく取り組みが『太宰府市民遺産』です。住民-事業者-行政など太宰府市に関わる多様な市民が、育成していく諸活動を支援するのも太宰府市民遺産の取り組みのひとつです。「できることを持ち寄る」ことで、皆で支えていく取り組みです。

『太宰府市歴史文化基本構想（以下「歴史構想」と記します。）』に連動する計画として、『太宰府市景観計画（以下、「景観計画」と記します。）』と『太宰府市歴史的風致維持向上計画（以下、「向上計画」と記します。）』があります。この二つの計画との関係は、図 22 に示したように、市民の皆さんが考える「歴史的」とは何かという根拠を与えてくれるのが「歴史構想」であり、その根拠をルールとして制度化し、未来の市民に伝えていきたいモノを保護継承していく計画が「景観計画」です。さらに、「歴史構想」で描いた太宰府の

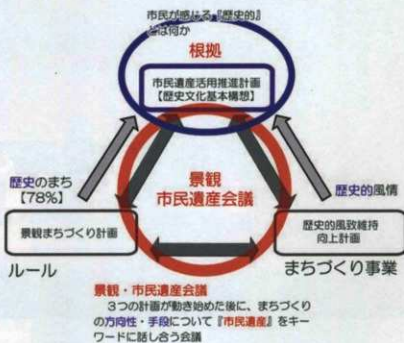


図 22. 関連計画 2

姿を実体化し、市民の皆さんにお見せする計画が、事業計画としての「向上計画」です。三位一体の計画として、三者が連動して、現在、文化庁-国土交通省の計画支援を受けて動いています。三つの計画の中心は、太宰府市に関わる多くの人々の「市民感覚」であり、その体现機関としての太宰府市景観・市民遺産会議があります。

太宰府市景観・市民遺産会議では、未来の市民に継承する文化遺産とその保護育成活動を含めた文化遺産継承活動を、太宰府市民遺産として認定していますが、認定の採否に参画する権利は、市民皆さんにあります。しかし、実務を伴わずかつ一部の機関に依存するような発言では、活動や意欲の継続性を求めることが難しいため、現在は景観・市民遺産育成団体として実動していただく団体代表者の方のみに参画資格を与えています。「発言するからには自らも行動する。」という協働の理念に則って、景観・市民遺産会議の運営を行っています。ただし、太宰府市民遺産や景観・市民遺産会議の取り組みは、まだ始まったばかりです。今後の動向をみて改善すべき点は多々あるものと思います。その際には、できるだけ多くの方々に、景観・市民遺産育成団体として参画していただき、太宰府市民にとってより良き方向を模索していきたいと考えています。

■太宰府市景観・市民遺産会議



附編

1. 文化遺産調査ボランティアの活動

財団法人古都大宰府保存協会を事務局に据え、平成20年度に文化庁からの受託事業（文化財総合的把握モデル事業）を発端として開始しました。そこに至るまでには、これまで記してきたように、平成13年から4ヶ年をかけ策定した『文化財保存活用計画』で実施した文化遺産の悉皆調査が基盤にあります。そこでは、市民を補佐的に据えた取り組みであったことから、物件数こそ5,000件を超える数を収集することができましたが、後の市民による「見守り」気持ちの芽生えが今ひとつ生まれませんでした。その反省に立ち、平成20年度から開始した文化遺産調査

は、市民を主体とするボランティア活動による文化遺産調査に切り替えることになりました。その成果は、本書の中にも収められているように、実に多様で多彩なものが集まり、市役所文化財課単独では到底あつめることができなかったものが収集されることになりました。言い換えると、調査を進めた「今」の太宰府を知ることができる先駆的かつ大きな成果だといえます。

先に調査者としてあげた方々が、参加者としてボランティア活動を展開してくださり、平成24年現在も62人の方々が現役でがんばっていただいています。今後は、各々の成果を基にした文化遺産地図づくりや、対象住民への文化遺産巡りも企画されています。

これまでの活動を以下に記します。

■経過

平成20年2月 文化遺産調査ボランティア説明会

平成20年3月 文化遺産調査活動開始

- ①太宰府小学校区班
- ②水城小学校区班
- ③太宰府東小学校区班
- ④太宰府南小学校区班
- ⑤水城西小学校区班
- ⑥太宰府西小学校区班
- ⑦国分小学校区班
- ⑧御笠川班
- ⑨東ヶ丘班

以上9班で開始

平成23年3月まで、文化遺産調査ボランティア会議を毎月1回開催し、調査の方向性、目的の確認などを実施するとともに、参加者の知識の向上を図る目的で研修を重ねてきました。

■聞き取り調査風景



■文化遺産調査風景



■ワークショップ風景



平成 23 年 4 月 文化遺産調査ボランティア活動の今後について方針確認

平成 23 年度は、毎月二回ないし三回の研修を実施しています。研修内容は、これまで調査を行ってきた文化遺産情報について各小学校区を基本に、現地研修を行っています。この事前研修として、『福岡県地理全誌』など地域を知る上で基本となる文献の講読会を開催し、地域の歴史を学んだ上で、次の週に現地研修に臨むという活動を一年間継続しました。

その中で作成された文化遺産策策マップは、文化遺産調査ボランティアの方々がつくりあげた、今ひとつの大きな成果です。今回本報告に掲載することができませんでしたが、各班の成果として、今後市民公開を考えていきます。

また新たな調査班として日田街道班が結成され、現在現地確認調査が続けられています。

2. 基本文献一覧

文化遺産調査に際して、参考となる文献を記載しています。手引き的なものから専門的なものまで記しています。また、太宰府の文化遺産を知る上で必要となる資料は、これだけではありません。ここに記した書物・資料から広げていくなり、探索していただきたいと思えます。

なお、ここに記した資料は、下記機関にて保管しています。ご覧になりたい方は、事前にご連絡いただき、所蔵施設内で閲覧いただきたく御願いたします。これらの資料の外部貸出は行っておりません。ご注意ください。

■所蔵機関

太宰府市史資料室（太宰府市文化ふれあい館 2階）

電話：092-921-2322

太宰府市教育委員会文化財課調査研究室（太宰府市文化ふれあい館 2階）

電話：092-924-8533

基本文献一覧

■古典

『太宰府旧蹟全図』北図・南図 作者不詳 1812(文化9)年写

六度寺の僧船賀法印の書と推定され、制作年代は不詳ながら文化3年の可能性が高い作品。古代の大宰府の範囲を描き、その内外の地名、旧蹟を知ることができる絵画資料。北図は大野城から二日市あたりまで、南図は二日市から基山（佐賀県基山町）までを描く。

『筑前国続風土記』貝原益軒 1709(寛永6)年

旧筑前国の旧蹟、風土について記されており、江戸期における太宰府を知ることができる。

『筑前国続風土記 附録』加藤一純 1806(文化3)年

旧筑前国の旧蹟、風土について記されており、江戸期における太宰府を知ることができる。先の『筑前国統風土記』を編纂する際に収集された諸情報の中で、『統風土記』に記載されなかったものを編纂。

『筑前国統風土記 拾遺』 青柳種信 1835(天保6)年

旧筑前国の旧蹟、風土について記されており、江戸期における太宰府を知ることができる。先の『筑前国統風土記』を編纂する際に収集された諸情報の中で、『統風土記』ならびに『同 附録』に記載されなかったものを編纂。

『太宰管内志』 上中下巻 伊藤常足 1841(天保12)年

本書が著されるまでに記された歴史書、地理書などを網羅した辞書。旧大宰府管内の九州二島に関する史料が記述されている。

『筑前名所図会』 奥村玉蘭 1821(文政4)年

筑前国に起こった様々な事件を歴史絵図として後生に伝えようとして描かれたもの。江戸期の太宰府を知る上で貴重な絵画資料。(1985年文献出版より復刻)

■通史

『太宰府史鑑』 高原謙次郎・江島茂逸 1903(明治36)年 菅公

明治35年、菅公一千年大祭に際して編纂された太宰府史で、太宰府の歴史、旧跡までの記述が行われている。(文献出版より昭和50年に復刻)

『太宰府小史』 太宰府天満宮 1952年

昭和27年、菅公一十五十年大祭に際してまとめられた太宰府史で、上代(古代)、中世の太宰府史ならびに伝説・史跡についての記述が見られる。(西高辻信貞氏により昭和55年復刊)

『福岡県史』第1～4巻 福岡県 1962～1965年

福岡県の通史として編まれたもの。

『福岡県の歴史』 福岡県 1981年

福岡県史編纂を前に普及版として刊行。

『大宰府の歴史』 全7巻 (財)古都大宰府を守る会 1984～1987年

昭和58年4月から昭和60年3月まで、第一線の研究者を講師として開催された「太宰府アカデミー」の講義録

『太宰府市史』 全13巻 太宰府市 1992～2005年

太宰府市の自然・歴史・美術・民俗・建築など、太宰府を知る上で重要な書。

『太宰府紀行』 (財)古都大宰府保存協会 2011年

太宰府にある様々な文化遺産について分かりやすく解説。太宰府にある「今」を意味とともに伝える書。

■時代史・地域史・分野史

『大宰府都城の研究』 鏡山猛 1968年 風間書房

大宰府条坊の存在を平安時代の文献と歴史地理学的手法を用いて論証。その後の大宰府条坊研究の基礎を築く。

『古代の大宰府』 倉住靖彦 1985年 吉川弘文館

大宰府前史から大宰府成立までの歴史を概説的に解説。

『古代を考える 大宰府』 田村圓澄 1987年 吉川弘文館

大宰府前史から大宰府成立までの歴史を概説的に解説。

『遠の朝廷 大宰府』 杉原敏之 2011年 新泉社

太宰府における埋蔵文化財調査成果を踏まえ、太宰府の歴史を紹介。

『邪馬台国と大宰府』 長沼賢海 1968年 太宰府天満宮文化研究所

- 長沼賢海氏の論著を集成したものが、筑前国府所在地に関する論考などを所収
- 『大宰府と観世音寺』 高倉洋彰 1996年 海鳥社
観世音寺の歴史を大宰府との関係を併せて解説。
- 『菅原道真と太宰府天満宮』 上下巻 太宰府天満宮文化研究所編 1975年
昭和52年、菅公一千七十五年大祭に際して記念事業として刊行された書。御祭神である菅原道真公から太宰府天満宮に関する論文を集録。
- 『天神さまと二十五人』 太宰府天満宮文化研究所編 2002年
太宰府天満宮の御祭神菅原道真に纏わる人々を取り上げ解説する。
- 『宝満山の地宝』 小田富士雄編 1982年 太宰府天満宮文化研究所
宝満山を舞台に行われた学術調査の成果報告書
- 『宝満山歴史散歩』 森弘子 2000年 葦書房
宝満山に残された文化遺産を解説
- 『宝満山の環境歴史学的研究』 森弘子 2009年 岩田書院
宝満山の学術的研究成果、文献・考古など幅広い分野からの分析と論考が記されている。
- 『太宰府発見 歴史と万葉の旅』 森弘子 2003年 海鳥社
万葉集をはじめとする文芸の世界を説きながら、大宰府（太宰府）の歴史を解説。
- 『大宰府万葉の世界』 前田淑 2007年 弦書房
大伴旅人、山上憶良等による大宰府を中心に形成された「筑紫歌壇」を中心にまとめた書。
- 『太宰府天満宮連歌史』 I～IV 川添昭二・棚町知彌・島津忠夫編著 1980～1987年
文道の神として室町時代から崇敬された菅神のもとで執り行われた連歌の神事、その時歌われた連歌資料を集成。
- 『福岡県碑誌』 筑紫之部 荒井周夫 1929年
福岡県内にある歌碑・句碑などを集成。
- 『福岡県の文学碑』 近・現代編 大石實編著 2005年 海鳥社
福岡県内にある歌碑・句碑など文芸作品を普及する目的で建てられた碑を集成。作者、所在地、碑文に至るまで細かく解説されている。
- 『わがまち散策 太宰府への招待』 太宰府市総務部企画課編 1990年
昭和49年1月から広報だざいふに連載された文化財シリーズの内、13年分をまとめ編集したもの。
- 『太宰府伝説の旅（改訂版）』 大隈和子 2010年（財）古都大宰府保存協会
太宰府に残る昔話、言い伝えを分かりやすく解説。
- 『福岡県農地改革史』 農地委員会福岡県協議会 1950年
福岡県の農業に関する通史。農業を視点として記しており、地主制度など詳細に記されている。
- 『筑紫の歴史と農業』 白水昇 1975年 筑紫の歴史と農業刊行会
原始から現代に至るまでを農業史の観点から記述。
- 『郷土読本』 水城尋常高等小学校 1937年
旧水城村の郷土史を記した書。時の記念日の行事や、史跡などが記されている。
- 『とおのこが風土記』 太宰府市通古賀区 2003年
地域史を地域の住民がまとめた書。自らの歩みも記され、一般書には決して記されることのない、受け継いできた「生の歴史」がある。
- 『学学院物語』 矢木信男 2006年（株）梓書院
学学院中学校について、その起りから今に至る歴史を記す。
- 『太宰府 - 人と自然の風景 -』 太宰府市文化ふれあい館 2002年
太宰府の自然や風景を、写真・絵画資料を使って概説。特に絵画資料は、各時代の太宰府への印象・姿を知る上で参考になり、手引き書として活用できる。

『福岡県史 民俗資料編』福岡県 1988年

太宰府市新町・北谷についての民俗調査成果を記載。

『福岡県の地名』平凡社 2004年

福岡県にある地名、旧跡、遺跡までを記載。

『福岡県百科事典』上下巻 西日本新聞社 1982年

福岡県における歴史、産業、文化など23分野にわたる事項について記している。

『日本建築史図集』日本建築学会編 1949年 彰国社

日本における建築物に関する概説書。竪穴住居から現代建築までを記載。

■史料・年表

『福岡県史資料』第1～10輯 統第1輯 統第4輯 福岡県 1932～1943年

福岡県に関わる様々な史料を抽出し掲載。文化年間伊能忠敬測量日記や田畑石高帳、伝記など多岐にわたる史料が掲載されている。

『大宰府・太宰府天満宮史料』太宰府天満宮 1964～2006年

大宰府及び太宰府天満宮に関する文献史料を網羅。太宰府を研究するための基本史料集。

『大宰府古代史年表』重松敏彦編 2007年 吉川弘文館

536年から1156年までの大宰府で起きた出来事を年表形式で集成。また大宰府に関わった官人一覧も附記。

『日本古典文学大系』1～100巻 岩波書店 1957～1967年

万葉集、風土記、日本書紀などを掲載した大系書

■調査報告書

『福岡県地理全誌』福岡県 1880(明治13)年

新政府によって明治初期に行われた地誌編纂で編まれた書。福岡県の農産物、地理、歴史が記されている。(『福岡県史』近代資料編に再録)

『福岡県史蹟名勝天然記念物調査報告書』第1輯～第16輯 福岡県 1925(大正14)～1952(昭和27)年

大正から昭和にかけて調査された史蹟や天然記念物、名勝の有り様を知る上で重要。

『大宰府史跡 発掘調査年度概報』九州歴史資料館 1971～1999年

太宰府市内の史跡指定地内で行われてきた埋蔵文化財の学術調査概要の報告書

『大宰府史跡発掘調査報告書』I～VI 2001～2010年継続

市内の史跡で行われている埋蔵文化財学術調査の報告書

『大宰府政庁跡』九州歴史資料館 2002年

特別史跡大宰府跡の中心的位置にある大宰府政庁跡で行われてきた学術調査の報告書。

『観世音寺』全5冊 九州歴史資料館 2006年

史跡 観世音寺で行われてきた学術調査の報告書

『水城跡』上下巻 九州歴史資料館 2009年

特別史跡水城跡で行われてきた学術調査の報告書

『大宰府政庁周辺官衙跡』I・II 九州歴史資料館 2010・2011年

大宰府政庁前面域(南城)で行われてきた学術調査報告書。

『大宰府条坊跡 - 太宰府市の文化財 -』ほか 太宰府市教育委員会 2012年継続

太宰府町ならびに市として行ってきた文化財調査の報告書。市域に所在する大宰府条坊跡をはじめ筑前国分寺跡、水城跡などを報告。

『中世墓資料集成 - 九州・沖縄 -』中世墓資料集成研究会 2004年

2004年までの福岡県内の中世墓制に関する論文、資料を集成

『中世墓資料集成 - 補遺編 -』 中世墓資料集成研究会 2007年

2007年までの福岡県内の中世墓制に関する論文、資料を集成

『太宰府の民俗』第1・2集 太宰府市史編集委員会 1990・1992年

太宰府市史編纂事業にともない実施された民俗調査に関する報告書。集録地域：水城・国分・坂本・大佐野・向佐野・吉松、その後は太宰府市史 民俗資料編として統括掲載。

『太宰府の民俗』I 太宰府市文化ふれあい館 2011年継続

市内のお宮で行われている宮座ならびにワラ織い技術に関する調査報告書

■論文・機関誌

『筑紫史談』第1集～90集 筑紫史談会 1914～1945年

筑紫に関する歴史・地理の論文集。大正から昭和前期にかけての歴史的な関心事や、当時の太宰府の様子を多様な視点で知る上で貴重な書。

『大宰府古文化論叢』上下巻 九州歴史資料館編 1983年 吉川弘文館

九州歴史資料館開館十周年を記念して発刊された大宰府（太宰府）に関する論文集

『九州歴史資料館 研究論集』1～36 1975～2011年継続中

太宰府を中心に九州をフィールドとして、文献・考古・工芸など多分野の論考を集録。

『都府楼』1～43号 (財) 古都大宰府保存協会 2011年継続

昭和61年から発刊されている古都大宰府保存協会の機関誌で、その時々話題や、文化遺産に関する論考などを多彩に掲載する。

『年報 太宰府学』1～6 太宰府市 2007～2011年

太宰府市史資料室の編集になる紀要。太宰府に関わる様々な論考、文献目録、資料目録等を掲載する。

■史跡保存史

『古都大宰府保存への道』(財) 古都大宰府保存協会 1994年

大宰府保存運動について江戸時代から現代までの歩みを記す。

| 名称 | 読み仮名 | 登録番号 | 頁 |
|---------------------|---------------------------------|-------|-----|
| ■あ行 | | | |
| 秋葉神社 | あきばじんじや | A0045 | 17 |
| 浅川家墓地 | あしかわけぼち | H0015 | 125 |
| 朝日地蔵堂 | あさひじぞうどう | F0115 | 104 |
| 朝日橋(あさひばし) | あさひばし | B0043 | 31 |
| 朝日橋関連石柱三本 | あさひばしかんれんせきちゆうさんぼん | B0044 | 31 |
| 朝日山遺跡石仏石塔群 | あさひやまいせきせきぞうせきとうぐん | F0116 | 104 |
| 天原山安楽寺太宰府天満宮 檢校坊廡所 | あまがはらやまあんらくじだざいふてまんぐう けんこうぼうぼしよ | B0009 | 26 |
| 池ん谷の池 | いけんだにのいけ | H0083 | 135 |
| 石垣(個人宅) | いしがき | D0015 | 55 |
| 石灯籠 | いしどうろう | B0018 | 27 |
| 石灯籠 | いしどうろう | F0042 | 93 |
| 石燈籠(常夜燈) | いしどうろう(じょうやとう) | F0047 | 93 |
| 石のある風景 | いしのあるふうけい | F0007 | 88 |
| 板碑 | いたび | B0006 | 25 |
| 板碑 | いたび | B0084 | 38 |
| 板碑 | いたび | B0100 | 39 |
| 板碑 | いたび | H0027 | 127 |
| 一字一石塔 | いちじいつせきとう | D0003 | 54 |
| 一のイデ(小野井手または一番井手) | いちのいで | A0004 | 11 |
| 一丁坂道路拡張工事記念碑 | いちちようざかどうろかくちようこうじきねんひ | A0050 | 17 |
| 井戸 | いど | A0032 | 15 |
| 稲子地蔵 | いなごじぞう | E0115 | 76 |
| 井上哲次郎生誕地碑 | いのうえてつじろうせんたんちひ | C0018 | 49 |
| 今王地蔵ほか | いまおうじぞう | D0011 | 54 |
| イヤノ浦橋 | いやのうらばし | A0010 | 12 |
| 「岩路川」の石柱 | いわふみがわのせきちゆう | B0038 | 30 |
| 岩路橋(いわふみばし) | いわふみばし | B0037 | 30 |
| 岩屋城跡 | いわやじょうあと | B0015 | 27 |
| 岩屋城合戦 関連石造物 1 | いわやじょうかくせん かんれんせきぞうぶつ1 | B0071 | 36 |
| 岩屋城合戦 関連石造物 3 | いわやじょうかくせん かんれんせきぞうぶつ3 | F0121 | 105 |
| 岩屋城合戦犠牲者追悼伝要 | いわやじょうかくせんぎせいしやついでんよう | B0077 | 37 |
| 岩屋磨崖石塔群 | いわやまがいでせきとうぐん | B0103 | 40 |
| 皮の薬師(インノヤクシ) | いんのやくし | F0006 | 87 |
| 宇佐八幡宮祠 | うさはちまんほくら | C0006 | 47 |
| 内山辛野遺跡(うちやまからしのいせき) | うちやまからしのいせき | A0077 | 21 |
| 梅大路の道標 | うめのおおじのみちしるべ | C0005 | 47 |
| 梅ヶ枝餅 | うめがえもち | B0099 | 39 |
| 浦之城公園 | うらのじょうこうえん | B0028 | 29 |
| 浦之城橋(うらのじょうばし) | うらのじょうばし | B0041 | 31 |
| 浦之城橋石柱 | うらのじょうばしせきちゆう | B0040 | 30 |
| 裏ノ田地下道 | うらのたちかどう | E0160 | 80 |
| 裏ノ田池(裏の田・浦の田) | うらのたのいけ | E0161 | 80 |
| ウランカワイデ | うらんかはいで | A0020 | 14 |
| 恵比寿神 | えびすがみ | B0019 | 27 |
| 恵比寿神 | えびすがみ | B0095 | 39 |
| えびす様 | えびすさま | B0108 | 40 |
| えびす様(恵比寿神) | えびすさま | F0015 | 89 |
| 恵比寿像(線刻) | えびすぞう | B0109 | 41 |
| 恵比寿像□ | えびすぞう | C0022 | 50 |
| 恵比寿像 | えびすぞう | C0024 | 50 |
| 恵比寿堂 | えびすどう | F0044 | 93 |
| エビスまつり | えびすまつり | F0009 | 88 |
| 恵比寿祭(通古賀) | えびすまつり (とおのこが) | G0039 | 117 |
| 老松神社 | おいまつじんじや | E0026 | 62 |
| 老松神社のほんげんきょう | おいまつじんじやのほんげんきょう | E0169 | 81 |
| 老松園 | おいまつず | E0176 | 82 |
| 追分石(道標 四王寺国分) | おいわけいし | F0010 | 88 |

太宰府市文化遺産情報

索引【あ・か行】

| | | | |
|-----------------------|-------------------------|-------|-----|
| 道分石(道標 花屋敷サコ) | おいわけいし | F0126 | 105 |
| 王城神社本殿及び拝殿 | おうぎじんじや ほんでんおよびはいでん | G0053 | 119 |
| 大石垣(大野城跡) | おおいしがき | F0134 | 106 |
| 王城神社 | おおぎじんじや | G0034 | 116 |
| 大城山(四王寺山) | おおぎやま | F0143 | 108 |
| 大佐野川 | おおざのがわ | H0054 | 130 |
| 大佐野地区のほうげんきょう | おおざのちくのほうげんきょう | H0079 | 134 |
| 大谷 | おおたに | B0120 | 42 |
| 大谷川から流れてくる水路(洗出付近) | おおたにがわからながれてくるすいり | F0034 | 92 |
| 大野城跡 | おおのじょうあと | E0143 | 77 |
| 大野城橋 | おおのじょうばし | E0015 | 62 |
| 大人足形(オオヒノアシガタ) | おおひのあしがた | B0122 | 43 |
| 大水避け石垣 | おおみずげいしがき | A0019 | 14 |
| 遠賀団(おかだん)印出土地の碑 | おかだんいんしゅつちのひ | F0054 | 95 |
| オカウテンサン 鬼子母神堂 | おかつてんさん | F0018 | 89 |
| 奥園遺跡(おくぞのいせき) | おくぞのいせき | B0124 | 43 |
| 奥ノ池 | おくのいけ | E0104 | 74 |
| 潮井台(潮賣台 しおいだい) | おしおいだい | F0048 | 94 |
| 落合橋(おちあいばし) | おちあいばし | G0001 | 113 |
| オッゴヤのイデ | おつごやのいで | A0009 | 12 |
| お堂(聖観音堂) | おどう (せいがんのんどう) | H0048 | 129 |
| お堂跡推定地 | おどうすいていち | E0117 | 76 |
| 鬼瓦 | おにがわら | E0151 | 78 |
| 鬼ノコシカケ | おにのこしかけ | B0121 | 43 |
| 帯塚碑 | おびつかひ | F0075 | 98 |
| お山の見える場所 | おやまのみえるばしよ | E0123 | 77 |
| ■か行 | | | |
| 戒壇院 | かいだんいん | F0104 | 102 |
| 学業院址碑(学校院址) | がくぎょういんあとのひ | F0086 | 100 |
| 学業院中学校 | がくぎょういんちゅうがっこう | F0057 | 95 |
| 鍛冶久地地道(太宰府市-06) | かじきゅうちかどう | E0166 | 81 |
| 鹿嶋神社 本殿と拝殿 | かしまじんじや ほんでんとはいでん | G0052 | 119 |
| 鹿嶋神社の宮相撲 | かしまじんじやのみやずもう | G0036 | 116 |
| 学校法人 筑紫女学園 | がっこうほうじん ちくしじょがくえん | C0027 | 50 |
| 金掛天満宮(水神・大黒天・天満宮) | かねかかてんまんぐう | C0015 | 49 |
| 歌碑(春はもえ...) | かひ | A0066 | 19 |
| 龜門神社 | かまどじんじや | A0072 | 20 |
| 龜門神社新宮(北谷遙拝所) | かまどじんじやしんぐう(きただにようはいじよ) | A0013 | 13 |
| 上ノ池をのぞむ風景 | かみのいけをのぞむふうけい | E0103 | 74 |
| 神ノ前遺跡 | かみのまえかまあと | H0061 | 131 |
| カヤノ遺跡 | かやのいせき | H0055 | 130 |
| 苜蓿大橋(かるかやおおはし) | かるかやおおはし | F0046 | 93 |
| 苜蓿(かるかや)の関跡の碑 | かるかやのせきあと | F0040 | 92 |
| 苜蓿橋(かるかやばし) | かるかやばし | G0005 | 113 |
| 河野静雲句碑 | かわのせいうんくひ | F0013 | 88 |
| 川原地下道(太宰府市-07) | かわはらちかどう | E0059 | 68 |
| 観世音寺 | かんぜおんじ | F0103 | 102 |
| 観世音寺大橋(かんぜおんじおおはし) | かんぜおんじおおはし | F0094 | 101 |
| 導水トンネル(新山の井池～上方・朝日水路) | かんぜおんじくどうすいとんねる | F0117 | 104 |
| 導水トンネル(安の浦から安養寺地区) | かんぜおんじくどうすいとんねる | F0144 | 108 |
| 観世音寺区のほんげんきょう | かんぜおんじくほんげんきょう | F0142 | 108 |
| 観音堂 | かんのんどう | E0013 | 61 |
| 観音堂 | かんのんどう | F0124 | 105 |
| 観音堂 | かんのんどう | H0009 | 124 |
| 観音堂と観音橋 | かんのんどうとかんのんぞう | F0037 | 92 |
| 北谷口橋 | きただにくちはし | A0051 | 17 |
| 北谷地蔵堂 | きただにじぞうどう | A0024 | 14 |
| 北谷ダム | きただにだむ | A0001 | 11 |
| 北谷地区の井川 | きただにちくのいがわ | A0075 | 21 |

| | | | | |
|-----|---------------------|---------------------|-------|-----|
| 05 | 北谷の道標 | きただにのみちしるべ | A0014 | 13 |
| 19 | 貴船神社 | きふねじんじや | A0021 | 14 |
| 06 | 日蔭合橋願柱 | きゆうおちあいばしおやばしら | G0050 | 119 |
| 16 | 日蔭合橋擬宝珠円柱 | きゆうおちあいばしごぼうじゅえんちゆう | G0049 | 118 |
| 08 | 田河川 | きゆうかせん | E0074 | 70 |
| 130 | 田小字標 油田(あぶらでん・あぶらだ) | きゆうこあざ あぶらでん | F0146 | 108 |
| 34 | 田小字標 垣添(かきぞえ) | きゆうこあざ かきぞえ | G0043 | 117 |
| 42 | 田小字標 鶴畑(つるのはた・つるはた) | きゆうこあざ つるのはた | G0057 | 120 |
| 92 | 田小字標 西ノ後(にしのうちしろ) | きゆうこあざ にしのうちしろ | G0056 | 120 |
| 77 | 田小字石碑「カヤノ」 | きゆうこあざせきひ かやの | H0078 | 134 |
| 62 | 田小字標 朝日(あさひ) | きゆうこあざせきひょう あさひ | F0114 | 104 |
| 43 | 田小字標石 安養寺(あんようじ) | きゆうこあざせきひょう あんよじ | F0100 | 102 |
| 14 | 田小字標石 池田(いけだ) | きゆうこあざせきひょう いけだ | F0022 | 90 |
| 95 | 田小字標石 石籠(いしばし) | きゆうこあざせきひょう いしばし | F0038 | 92 |
| 89 | 田小字標石 今道(いまみち) | きゆうこあざせきひょう いまみち | F0106 | 102 |
| 43 | 田小字標石 浦山(うらやま) | きゆうこあざせきひょう うらやま | F0019 | 89 |
| 74 | 田小字標石 エリカド | きゆうこあざせきひょう えりかど | F0033 | 91 |
| 94 | 田小字標石 大橋(おおぐす) | きゆうこあざせきひょう おおぐす | F0059 | 95 |
| 113 | 田小字標石 大正府(おおしょうぶ) | きゆうこあざせきひょう おおしょうぶ | F0029 | 91 |
| 12 | 田小字標石 学業(がくぎょう) | きゆうこあざせきひょう がくぎょう | F0082 | 99 |
| 129 | 田小字標石 北ノ橋(きたのはし) | きゆうこあざせきひょう きたのはし | G0024 | 115 |
| 76 | 田小字標石 蔵司(くらつかさ) | きゆうこあざせきひょう くらつかさ | F0060 | 96 |
| 48 | 田小字標石 小正府(こしょうぶ) | きゆうこあざせきひょう こしょうぶ | F0030 | 91 |
| 73 | 田小字標石 御所ノ内(ごしょのうち) | きゆうこあざせきひょう ごしょのうち | F0107 | 103 |
| 98 | 田小字標石 五反田(ごたんだ) | きゆうこあざせきひょう ごたんだ | F0085 | 99 |
| 77 | 田小字標石 住々元(ずみもと) | きゆうこあざせきひょう ずみもと | F0080 | 99 |
| | 田小字標石 間置(せきや) | きゆうこあざせきひょう せきや | F0043 | 93 |
| 102 | 田小字標石 大裏(だいら・おおうら) | きゆうこあざせきひょう だいら | F0122 | 105 |
| 90 | 田小字標石 月山(つきやま) | きゆうこあざせきひょう つきやま | F0079 | 99 |
| 95 | 田小字標石 辻(つじ) | きゆうこあざせきひょう つじ | F0026 | 90 |
| 81 | 田小字標石 露切(つゆきり・つゆぎり) | きゆうこあざせきひょう つゆきり | F0111 | 103 |
| 119 | 田小字標石 土居ノ内(どいのうち) | きゆうこあざせきひょう どいのうち | F0091 | 100 |
| 116 | 田小字標石 堂廻(どうめぐり) | きゆうこあざせきひょう どうめぐり | F0102 | 102 |
| 50 | 田小字標石 東塞寺(とうれんじ) | きゆうこあざせきひょう とうれんじ | G0040 | 117 |
| 49 | 田小字標石 西浦(にしうら) | きゆうこあざせきひょう にしうら | F0021 | 90 |
| 19 | 田小字標石 花屋敷(はなのやしき) | きゆうこあざせきひょう はなのやしき | F0017 | 89 |
| 13 | 田小字標石 林崎(はやしざき) | きゆうこあざせきひょう はやしざき | F0020 | 89 |
| 74 | 田小字標石 半田(はんだ) | きゆうこあざせきひょう はんだ | G0003 | 113 |
| 131 | 田小字標石 日吉(ひよし・ひえ) | きゆうこあざせきひょう ひよし ひえ | F0078 | 98 |
| 130 | 田小字標石 広丸(ひろまる) | きゆうこあざせきひょう ひろまる | F0058 | 95 |
| 93 | 田小字標石 不了(ふちょう) | きゆうこあざせきひょう ふちょう | F0061 | 96 |
| 92 | 田小字標石 前(まえ) | きゆうこあざせきひょう まえ | F0023 | 90 |
| 113 | 田小字標石 松倉(まつくら) | きゆうこあざせきひょう まつくら | F0031 | 91 |
| 88 | 田小字標石 山ノ井(やまのい) | きゆうこあざせきひょう やまのい | F0105 | 102 |
| 68 | 田小字標石 来木(らいき) | きゆうこあざせきひょう らいき | F0056 | 95 |
| 102 | 田小字標石 「田中」の石碑 | きゆうこあざたなかのせきひ | G0009 | 114 |
| 101 | 田小字町道 | きゆうだがいふちようどう | B0072 | 36 |
| 104 | 共同井戸 | きようどういど | A0015 | 13 |
| 108 | 共同井戸 手押しポンプ式井戸 1~7 | きようどういど ておしぼんぷしきいど | G0062 | 120 |
| 108 | 共同井戸、共同風呂跡 | きようどういど、きようどうぶろ | A0034 | 15 |
| 61 | 京ノ尾遺跡 | きようのおいせき | H0059 | 131 |
| 105 | クスの大木 | くすのたいぼく | G0058 | 120 |
| 124 | 久保田井堰 | くぼたいでき | F0045 | 93 |
| 92 | 熊田勇吉の墓 | くまだゆうきちのはか | H0016 | 125 |
| 17 | 隈郡公妻都城(くままるこうおくつき) | くままるこうおくつき | G0027 | 115 |
| 14 | ダミの大木(だみだき) | くみのたいぼく | D0022 | 55 |
| 11 | 供養塔 | くようとう | E0153 | 78 |
| 21 | 供養塔の桜 | くようとうのさくら | E0154 | 79 |

太宰府市文化遺産情報

索引【か行】

| | | | |
|--------------------------|--------------------------------|-------|-----|
| 蔵司 稲荷堂 | くらつかさ いなりどう | F0028 | 91 |
| くりはい箸(くりあい箸) | くりはいし | B0098 | 39 |
| 黒岩稲荷神社 | くろいわいなりじんじや | B0013 | 27 |
| 久部利道跡(くろうりいせき) | くろうりいせき | H0056 | 130 |
| ケイサシノ井 | けいさしのい | E0006 | 60 |
| 「けやき」の本 | けやきのき | H0024 | 127 |
| 建重寺橋(けんじゅうじばし) | けんじゅうじばし | B0045 | 31 |
| 玄清法印之墓 | げんしゅうほういんのはか | F0014 | 89 |
| 県道開通記念碑 | けんどうかいつうきねんひ | A0059 | 18 |
| 玄昉の墓 | げんぼうのはか | F0147 | 108 |
| 鯉・ハヤ等の生息地 | こい・はやなどのせいそくち | D0017 | 55 |
| 甲城谷(口上谷) | こうじょうだに | F0137 | 107 |
| 高射砲陣地跡 | こうしやほうじんちあと | H0013 | 125 |
| 庚申尊天 | こうしんそんてん | A0076 | 21 |
| 庚申尊天 | こうしんそんてん | B0085 | 38 |
| 庚申尊天 | こうしんそんてん | B0118 | 42 |
| 庚申尊天 | こうしんそんてん | E0063 | 68 |
| 庚申天 | こうしんてん | A0017 | 13 |
| 庚申天 | こうしんてん | B0008 | 26 |
| 幸神天(庚申天) | こうしんてん | B0032 | 29 |
| 庚申天 | こうしんてん | B0047 | 32 |
| 庚申塔 | こうしんとう | B0031 | 29 |
| 庚申塔 | こうしんとう | F0077 | 98 |
| 庚申塔 | こうしんとう | F0081 | 99 |
| 庚申天 | こうしんとう | F0099 | 101 |
| 庚申塔(庚申天) | こうしんとう | H0033 | 128 |
| 更正道路碑 | こうせいどうろのひ | G0032 | 116 |
| 弘法大師・地藏様 | こうぼうたいし・じざうさま | B0107 | 40 |
| 光明寺石庭 | こうみやうじせきでい | B0086 | 38 |
| 公民館建築記念碑 | こうみんかんけんちきねんひ | F0097 | 101 |
| 国鉄鹿児島本線赤煉瓦造架橋 | こくてつかごしまほんせんあかれんがざうかきょう | H0038 | 128 |
| 国分 毘沙門堂 | こくぶん びしゃもんどう | E0097 | 73 |
| 国分瓦竪跡 | こくぶんがわらかまあと | E0113 | 75 |
| 国分区のほんげんぎょう | こくぶんぎのほんげんぎょう | E0090 | 73 |
| 国分小学校裏山の日の出が見える場所 | こくぶしょうがっこうらやまのひのでみえるばしょ | E0031 | 63 |
| 国分小裏山より見る四王寺山(秋の風景) | こくぶしょうがっこうらやまよりみるしおうじやま | E0162 | 80 |
| 国分小学校下の風景 | こくぶしょうがっこうしたのふうけい | E0044 | 65 |
| 国分天満宮 | こくぶてんまんぐう | E0078 | 71 |
| 国分天満宮境内の石柱 | こくぶてんまんぐうけいだいのせきちゆう | E0079 | 71 |
| 国分天満宮の宮座 | こくぶてんまんぐうのみやざ | E0170 | 81 |
| 国分ポスト横の石 | こくぶばすつよのいし | E0121 | 76 |
| 国分松本遺跡 | こくぶまつもといせき | E0185 | 83 |
| 国分寺史跡指定境界標(5) | こくぶんじしせきしていきようかいひよう | E0069 | 69 |
| 国分寺史跡指定境界標(4) | こくぶんじしせきしていきようかいひよう | E0070 | 69 |
| 国分寺史跡指定境界標(9) | こくぶんじしせきしていきようかいひよう | E0071 | 70 |
| 国分寺史跡指定境界標(10) | こくぶんじしせきしていきようかいひよう | E0072 | 70 |
| 国分寺史跡指定境界標(8) | こくぶんじしせきしていきようかいひよう | E0081 | 71 |
| 国分寺史跡指定境界標(2) | こくぶんじしせきしていきようかいひよう | E0086 | 72 |
| 国分寺史跡指定境界標(3) | こくぶんじしせきしていきようかいひよう | E0087 | 72 |
| 国分寺史跡指定境界標(11) | こくぶんじしせきしていきようかいひよう | E0091 | 73 |
| 国分寺史跡指定境界標(7) | こくぶんじしせきしていきようかいひよう | E0099 | 74 |
| 国分寺史跡指定境界標(6) | こくぶんじしせきしていきようかいひよう | E0100 | 74 |
| 国分寺西側境界線の土地 | こくぶんじにしがわきようかいせんのとち | E0082 | 71 |
| 国分寺西側境界線の延長になる道 | こくぶんじにしがわきようかいのえんちやうになるみち | E0064 | 69 |
| 国分寺西側公道の土壌にあるコンクリートの橋(1) | こくぶんじにしがわこうどうのどてにあるこんくりーとます | E0068 | 69 |
| 国分寺西側公道の土壌にあるコンクリートの橋(2) | こくぶんじにしがわこうどうのどてにあるこんくりーとます | E0077 | 70 |
| 国分寺西側公道の土壌にあるコンクリートの橋(3) | こくぶんじにしがわこうどうのどてにあるこんくりーとます | E0101 | 74 |
| 国分寺西側道路の名残をとどめる道 | こくぶんじにしがわどうろの名残りをとどめるみち | E0083 | 71 |
| 国分寺西側と北側の境界線が交わる所 | こくぶんじにしがわときたがわのきようかいせんがまじわるどころ | E0065 | 69 |

| | | | | |
|-----|--------------------|-------------------------------|-------|-----|
| 91 | 国分寺前石製燈籠 | こくぶんじま文せきせいとうろう | E0155 | 79 |
| 39 | 国分寺南側の道路 | こくぶんじみなみがわのどうろ | E0058 | 68 |
| 27 | 五穀神 | ごこくしん | A0057 | 18 |
| 130 | 五条遺跡 | ごじょういせき | C0020 | 49 |
| 60 | 五条小橋(ごじょうこばし) | ごじょうこばし | C0004 | 47 |
| 127 | 五条橋(ごじょうばし) | ごじょうばし | F0112 | 103 |
| 31 | 古代官道跡の名残 | こだい官どうあとのなごり | H0071 | 133 |
| 89 | ゴタンダイデ | ごたんだいで | A0041 | 16 |
| 18 | 五反田塚 | ごたんだせき | F0090 | 100 |
| 108 | 古溪大明神祠 | こっけだみしょうじんほこら | H0014 | 125 |
| 55 | 古墓(自然石) | こぼ | A0078 | 21 |
| 107 | 五輪塔 | ごりんとう | A0068 | 20 |
| 125 | 衣挂神社(衣掛神社) | ころもかけじんじや(きぬかけじんじや) | E0050 | 96 |
| 21 | 衣挂神社(衣掛神社)の参道(改修) | ころもかけじんじやのさんどう | E0156 | 79 |
| 38 | 衣挂神社(衣掛神社)焼納祭 | ころもかけじんじやのしょうのうさい | E0052 | 67 |
| 42 | 衣挂神社(衣掛神社)のほんげんぎょう | ころもかけじんじやのほんげんぎょう | E0175 | 82 |
| 68 | 衣挂神社(衣掛神社)の宮座 | ころもかけじんじやのみやざ | E0173 | 82 |
| 13 | 衣挂神社(衣掛神社)のヨド | ころもかけじんじやのよど | E0174 | 82 |
| 26 | 金剛兵衛(こんごうひょうえ)井戸 | こんごうひょうえのいど | A0070 | 20 |
| 29 | 紺町地下道(太宰府市-05) | こんまちちかどう | E0163 | 80 |
| 32 | ■さ行 | | | |
| 98 | 賽の神・小夜神(さいのかみ) | さいのかみ | E0041 | 65 |
| 99 | 宰府の濃(1)ふれあい広場 | さいふのみぞ いち | B0113 | 41 |
| 101 | 宰府の濃(3)小島磨小路 | さいふのみぞ さん | B0115 | 42 |
| 128 | 宰府の濃(2) | さいふのみぞ に | B0114 | 41 |
| 116 | 宰府の濃への取水場 | さいふのみぞへのしゅすいば | B0117 | 42 |
| 40 | 坂本区のほんげんぎょう | さかもとくのほんげんぎょう | F0141 | 108 |
| 38 | 坂本のダブリュウ | さかもとのだぶりゅう | F0128 | 106 |
| 91 | 坂本八幡宮 | さかもとはちまんぐう | F0025 | 90 |
| 128 | 坂本方面への近道 | さかもとほうめんへのちかみち | F0001 | 87 |
| 75 | 坂本村 | さかもとむら | F0135 | 107 |
| 73 | 鷺田橋親柱 | さぎたがわおやはしら | G0054 | 119 |
| 73 | 俣の太木跡 | さくらのたいぼくあと | H0004 | 124 |
| 63 | 座頭の塔(玄清法印墓) | ざとうのとう | B0088 | 38 |
| 80 | 佐野浦集落 | さのうちしゅうらく | H0053 | 130 |
| 65 | 佐野塾跡 | さのじゅくあと | H0060 | 131 |
| 71 | 幸の元井堰取水口跡 | さいのもといせきしゅすいこうあと | B0005 | 25 |
| 71 | 猿田彦大神 | さるたひこおおかみ | B0082 | 37 |
| 81 | 猿田彦大神 | さるたひこおおかみ | E0016 | 62 |
| 76 | 猿田彦大神 | さるたひこおおかみ | E0030 | 63 |
| 83 | 猿田彦大神 | さるたひこおおかみ | E0088 | 72 |
| 69 | 猿田彦大神 | さるたひこおおかみ | H0022 | 126 |
| 70 | 猿田彦大神 | さるたひこおおかみ | H0031 | 128 |
| 69 | 猿田彦大神 | さるたひこおおかみ | H0051 | 129 |
| 70 | 猿田彦大神 | さるたひこおおかみ | H0052 | 130 |
| 71 | 猿田彦大神・大行事塔ほか | さるたひこおおかみ・だいぎょうじとうほか | D0012 | 55 |
| 72 | 猿田彦尊 | さるたひこそん | A0069 | 20 |
| 72 | 猿田彦尊 | さるたひこそん | B0035 | 30 |
| 73 | 猿田彦尊 | さるたひこそん | H0028 | 127 |
| 74 | 猿田彦尊 | さるたひこそん | H0077 | 134 |
| 74 | 猿田彦大神 | さるたひこだいじん | G0060 | 120 |
| 74 | 猿田彦大神 | さるたひこだいじん | H0082 | 135 |
| 89 | 猿田彦大神碑 | さるたひこだいじんひ | G0031 | 116 |
| 69 | 三条・天満宮方面への仕事道 | さんじょう・てんまんぐうほうめんへのしごとみち | B0059 | 34 |
| 70 | 三條橋(さんじょうばし) | さんじょうばし | B0036 | 30 |
| 74 | 沙井川 | しおいがわ | H0017 | 125 |
| 71 | 四王寺山 三十三石仏 | しおうじやま さんじゅうさんせきぶつ | B0119 | 42 |
| 99 | 四王寺山三十三石仏 第1番札所 | しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいいちばんふだしょ | B0012 | 26 |
| 99 | 四王寺山三十三石仏 第9番札所 | しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいきゅうばんふだしょ | B0060 | 34 |

太宰府市文化遺産情報

索引【さ行】

| | | | | | |
|--------------------|--------|----------------------|------------------|-------|-----|
| 四王寺山三十三石仏 | 第5番札所口 | しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ | だいごばんふだしよ | B0068 | 35 |
| 四王寺山三十三石仏 | 第31番札所 | しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ | だいいさんじゅういちばんふだしよ | B0074 | 36 |
| 四王寺山三十三石仏 | 第32番札所 | しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ | だいいさんじゅうにばんふだしよ | B0073 | 36 |
| 四王寺山三十三石仏 | 第30番札所 | しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ | だいいさんじゅうばんふだしよ | F0002 | 87 |
| 四王寺山三十三石仏 | 第3番札所 | しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ | だいいざんぶんふだしよ | B0065 | 35 |
| 四王寺山三十三石仏 | 第11番札所 | しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ | だいいじゅういちばんふだしよ | B0058 | 33 |
| 四王寺山三十三石仏 | 第15番札所 | しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ | だいいじゅうごばんふだしよ | B0053 | 33 |
| 四王寺山三十三石仏 | 第13番札所 | しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ | だいいじゅうさんばんふだしよ | B0055 | 33 |
| 四王寺山三十三石仏 | 第17番札所 | しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ | だいいじゅうななばんふだしよ | B0051 | 32 |
| 四王寺山三十三石仏 | 第12番札所 | しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ | だいいじゅうにばんふだしよ | B0057 | 33 |
| 四王寺山三十三石仏 | 第18番札所 | しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ | だいいじゅうはちばんふだしよ | B0050 | 32 |
| 四王寺山三十三石仏 | 第10番札所 | しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ | だいいじゅうよばんふだしよ | B0061 | 34 |
| 四王寺山三十三石仏 | 第14番札所 | しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ | だいいじゅうよんばんふだしよ | B0056 | 33 |
| 四王寺山三十三石仏 | 第16番札所 | しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ | だいいじゅうろくばんふだしよ | B0052 | 32 |
| 四王寺山三十三石仏 | 第7番札所 | しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ | だいいななばんふだしよ | B0067 | 35 |
| 四王寺山三十三石仏 | 第27番札所 | しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ | だいいじゅうななばんふだしよ | E0006 | 60 |
| 四王寺山三十三石仏 | 第28番札所 | しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ | だいいじゅうはちばんふだしよ | E0007 | 60 |
| 四王寺山三十三石仏 | 第26番札所 | しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ | だいいじゅうろくばんふだしよ | E0001 | 60 |
| 四王寺山三十三石仏 | 第2番札所口 | しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ | だいにばんふだしよ | B0064 | 34 |
| 四王寺山三十三石仏 | 第8番札所 | しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ | だいはちばんふだしよ | B0063 | 34 |
| 四王寺山三十三石仏 | 第4番札所 | しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ | だいにばんふだしよ | B0066 | 35 |
| 四王寺山三十三石仏 | 第6番札所 | しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ | だいろくばんふだしよ | B0069 | 35 |
| 四王寺山の井戸 | 持国天ノ井 | しおうじやまのいど | じこくてんのい | B0054 | 33 |
| 四王寺山の井戸 | 増長天ノ井 | しおうじやまのいど | ぞうちょうてんのい | B0075 | 36 |
| 四王寺山のビューポイント | 1 | しおうじやまのびゅういんと1 | | E0002 | 60 |
| 四王寺山のビューポイント | 2 | しおうじやまのびゅういんと2 | | E0008 | 61 |
| 四王寺山のビューポイント | 3 | しおうじやまのびゅういんと3 | | E0009 | 61 |
| 四王寺山のビューポイント | 5 | しおうじやまのびゅういんと5 | | B0070 | 35 |
| 四王寺山のビューポイント | 6 | しおうじやまのびゅういんと6 | | B0062 | 34 |
| 四王寺林道開設記念碑 | | しおうじりんどうかいせつきねんひ | | F0003 | 87 |
| しかけ水路 | | しかけすいろ | | A0007 | 12 |
| 四季桜 | | しきざくら | | G0012 | 114 |
| 式部船荷下宮 | | しきぶいなりげぐう | | A0063 | 19 |
| 史蹟大宰府庭境界碑 | | しせきだざいふあときょうかいひ | | F0069 | 97 |
| 史蹟大宰府址境(界)碑 | | しせきだざいふあときょうかいひ | | F0076 | 98 |
| 史蹟大宰府庭碑 | | しせきだざいふあとひ | | F0064 | 96 |
| 史蹟筑前國分寺址(児童公園内)の石柱 | | しせきちくぜんこくぶんじあとのせきちゆう | | E0089 | 72 |
| 史跡の公有地境界石柱(1) | | しせきのこうゆうちきょうかいせきちゆう | | E0076 | 70 |
| 史跡の公有地境界石柱(2) | | しせきのこうゆうちきょうかいせきちゆう | | E0096 | 73 |
| 史蹟水城跡境界(5) | | しせきみずぎあときょうかい | | E0035 | 64 |
| 史蹟水城跡境界(1) | | しせきみずぎあときょうかい | | E0043 | 65 |
| 史蹟水城跡境界(2) | | しせきみずぎあときょうかい | | E0046 | 66 |
| 史蹟水城跡境界(3) | | しせきみずぎあときょうかい | | E0048 | 66 |
| 史蹟水城跡境界(4) | | しせきみずぎあときょうかい | | E0172 | 82 |
| 自然石 | | しぜんせき | | A0011 | 12 |
| 地藏堂 | | じぞうどう | | A0064 | 19 |
| 地藏堂 | | じぞうどう | | A0065 | 19 |
| 地藏堂 | | じぞうどう | | H0010 | 124 |
| 地藏菩薩 | | じぞうぼさつ | | A0071 | 20 |
| 地藏菩薩(板碑)口 | | じぞうぼさつ | | A0073 | 20 |
| 慈母観音(子安観音) | | じぼかんのん | | B0027 | 28 |
| 島本遺跡 | | しまもといせき | | H0018 | 126 |
| 清水谷トンネル | | しみずだにとんねる | | C0023 | 50 |
| 下大利橋 | | しもおかりはし | | E0014 | 62 |
| 下川原橋 | | しもかわらばし | | G0047 | 118 |
| 十一面観音群 | | じゅういちめんかんのん | | D0002 | 54 |
| 十三仏堂 | | じゅうさんぶつどう | | F0036 | 92 |
| 集水橋 | | じゅうすいまた | | E0168 | 81 |
| 少武寅熊(しょうにすけよし)墓 | | しょうにすけよしのはか | | F0150 | 109 |

| | | | | |
|-----|-------------------|-----------------|-------|-----|
| 5 | 白川橋(しらかわばし) | しらかわばし | C0001 | 47 |
| 6 | 「白川橋」の石柱 | しらかわばしのせききゆう | C0002 | 47 |
| 6 | 新池(窪の池、窯の池、瓦窯の池) | しんいけ | E0110 | 75 |
| 7 | 新池 墓石 | しんいけ はかいし | E0112 | 75 |
| 5 | 新池土堤 | しんいけのどて | E0111 | 75 |
| 3 | 神牛塚 | しんぎゅうづか | C0025 | 50 |
| 3 | 新溜池・新池 | しんためいけ いんいけ | A0006 | 11 |
| 3 | 陣ノ尾1号墳 | じんのういちごうふん | E0144 | 77 |
| 12 | 陣ノ尾川沿いの道 | じんのうがわぜいのみち | E0056 | 67 |
| 13 | 陣ノ尾川の側溝 | じんのうがわのそっこう | E0057 | 67 |
| 12 | 新町 | しんまち | B0089 | 38 |
| 14 | 新向佐野地下道 | しんむかいざのちかど | H0073 | 133 |
| 13 | 眞誓親王墓 | しんよしんのうのはか | A0012 | 12 |
| 12 | 水準点 | すいじゅんてん | E0114 | 75 |
| 35 | 水城院への参詣道 | すいじょういんへのさんけいみち | H0067 | 132 |
| 60 | 水路(旧日田街道沿いの水路) | すいろ | E0021 | 62 |
| 60 | 姿見の井 | すがたみのい | E0049 | 66 |
| 60 | 朱雀大橋(すざくおおはし) | すざくおおはし | F0089 | 100 |
| 34 | 清明井のエノキ | せいめい井のいのえのき | G0038 | 117 |
| 34 | ゼウウンノハカ | ぜううんのはか | F0152 | 109 |
| 35 | 石塔 | せきとう | B0087 | 38 |
| 35 | 石碑 | せきひ | F0041 | 92 |
| 33 | 石碑(神徳如天) | せきひ | H0019 | 126 |
| 36 | 石碑 | せきひ | H0023 | 126 |
| 60 | 関屋 | せきや | F0053 | 94 |
| 61 | 関屋井屢復旧工事碑 | せきやいげきふきゅうこうじひ | G0048 | 118 |
| 61 | 関屋のつなぎだご | せきやのつなぎだご | F0130 | 106 |
| 35 | 関屋の道標(元禄4年の道標) | せきやのみらしるべ | F0049 | 94 |
| 34 | 関屋の道標(享和2年の道標) | せきやのみらしるべ | F0050 | 94 |
| 87 | 関屋橋(せきやばし) | せきやばし | G0004 | 113 |
| 12 | 関屋橋の碑 | せきやばしのひ | F0052 | 94 |
| 114 | 善五郎稲荷祠(中宮) | ぜんごろういなりほこら | B0011 | 26 |
| 19 | 千手観音(筑紫四国第九十五番札所) | せんじゅかんのん | E0045 | 65 |
| 97 | 善正寺ヤシキ | ぜんじょうやしき | F0136 | 107 |
| 98 | ソイライデ | そいらいで | A0038 | 16 |
| 96 | ソイラ5号橋 | そいらごうばし | A0042 | 17 |
| 72 | ソイラ3号橋 | そいらさんごうばし | A0035 | 15 |
| 70 | ソイラ2号橋 | そいらにごうばし | A0026 | 15 |
| 73 | ソイラ橋 | そいらばし | A0037 | 16 |
| 64 | ソイラ4号橋 | そいらよんごうばし | A0036 | 16 |
| 65 | 礎石(伝国分尼寺の礎石) | そせき | E0146 | 77 |
| 66 | 礎石 | そせき | G0059 | 120 |
| 66 | 染川(藍染川) | そめがわ(あいぞめがわ) | B0080 | 37 |
| 82 | ■た行 | | | |
| 12 | 大行事塔 | だいぎょうじとう | A0056 | 18 |
| 19 | 大行事碑 | だいぎょうじひ | E0120 | 76 |
| 19 | 大行事碑 | だいぎょうじひ | F0140 | 107 |
| 124 | 大行事塔(東蓮寺) | だいぎょうじひ | G0055 | 119 |
| 20 | 大国神社 | だいくくじんじや | B0110 | 41 |
| 28 | 観願橋(だいごばし) | だいがほし | B0042 | 31 |
| 126 | 大師礎 | たいしきま | C0026 | 50 |
| 50 | 大師堂 | たいしどう | A0025 | 15 |
| 62 | 大師堂 | たいしどう | A0052 | 18 |
| 118 | 大師堂 | たいしどう | B0034 | 29 |
| 54 | 大師堂 | たいしどう | B0049 | 32 |
| 92 | 大師堂 | たいしどう | F0108 | 103 |
| 81 | 大日堂 | だいにちどう | B0030 | 29 |
| 109 | 大日堂 | だいにちどう | B0033 | 29 |
| | 大日如来 | だいにちによらい | A0039 | 16 |

太宰府市文化遺産情報

索引【た行】

| | | | |
|-----------------------|--------------------------------|-------|-----|
| 大日如来像 | だいにちによらい | H0039 | 129 |
| 平重盛の墓 | たいらのしげもりのほか | B0046 | 31 |
| 大陸山 水城院(廃寺跡) | たいりくさん みずきいん | H0012 | 125 |
| 高尾川周辺の豊かな自然(1) | たかおがわしゅうへんのゆたかなしぜん | D0006 | 54 |
| 高砂橋 | たかさなばし | B0003 | 25 |
| 高橋構口跡 | たかはしかまえぐち | C0021 | 49 |
| 高橋口橋(たかはしぐちばし) | たかはしぐちのばし | F0113 | 103 |
| 高橋紹運公墓道碑 | たかはしじょうゆんこうぼどうひ | F0095 | 101 |
| 高橋紹運墓(副塚) | たかはしじょうゆんほか | F0004 | 87 |
| 高浜虚子歌碑(夜都府樓跡に行む…) | たかはまきよこかひ | F0062 | 96 |
| 太宰府址碑 | だざいふあとし | F0073 | 98 |
| 太宰府安養院跡五輪塔残欠 | だざいふあんやういんあとごりんとうざんけつ | F0125 | 105 |
| 太宰府口城門跡 | だざいふくちじょうもんあと(いしこづばし) | B0090 | 39 |
| 太宰府跡(太宰府政庁跡、都府樓跡) | だざいふしせき | F0133 | 106 |
| 太宰府桑坊跡 | だざいふじょうぼうあと | F0153 | 109 |
| 太宰府桑坊の名残 | だざいふじょうぼうのなごり いち | H0074 | 133 |
| 太宰府桑坊の名残 | だざいふじょうぼうのなごり いち | H0075 | 133 |
| 太宰府桑坊の名残 3 | だざいふじょうぼうのなごり きん | G0046 | 118 |
| 太宰府桑坊の名残 2 | だざいふじょうぼうのなごり に | G0041 | 117 |
| 太宰府正門礎石(朱雀門礎石) | だざいふせいもんそせき | F0063 | 96 |
| 太宰府天満宮の常夜燈 | だざいふてんまんぐうのじょうやとう | A0060 | 18 |
| 太宰府碑 | だざいふひ | F0071 | 97 |
| 多々良井堰 | たたらいぜき | G0028 | 115 |
| たな池 | たないけ | A0016 | 13 |
| 田中の森(西の陵) | たなかのもり | G0008 | 114 |
| 田中橋 | たなかばし | G0010 | 114 |
| 棚田の景観 | たなだのふうけい | F0008 | 88 |
| 谷池 | たにいけ | A0008 | 12 |
| 玉石垣支柱とトウカエデ | たまいしがきしちゆうととうかえで | F0070 | 97 |
| 溜池「奥ノ池」の水路 | ためいけ「おくのいけ」のすいり | E0105 | 74 |
| 溜池「奥ノ池」の水路 | ためいけ「おくのいけ」のすいり | E0106 | 75 |
| 太郎左近社 | たろうさこんしゃ | C0019 | 49 |
| 田圃沿いの昔の道 | たんぼぞいのわかしのみち | E0023 | 62 |
| 力石 | ちからいし | C0017 | 49 |
| 筑紫四国第12番札所 | ちくしこくだいじゅうにばんふだしょ | D0016 | 55 |
| 筑紫四国29番札所 | ちくしこくにじゅうきゅうばんふだしょ | D0001 | 54 |
| 筑前国分尼寺跡 | ちくぜんこくぶあまであらあと | E0053 | 67 |
| 筑前国分尼寺の東側の道 | ちくぜんこくぶあまであらのひがしがわのみち | E0055 | 67 |
| 筑前国分尼寺南側の境界線 | ちくぜんこくぶあまであらみなみがわのきょうがいせん | E0054 | 67 |
| 筑前国分寺(龍頭光山筑前国分寺) | ちくぜんこくぶんじ(りゅうとうこうざん ちくぜんこくぶんじ) | E0075 | 70 |
| 筑前国分寺講堂跡 | ちくぜんこくぶんじこうどうあと | E0080 | 71 |
| 血方持観音(ちけもちかんのん) | ちけもちかんのん | C0013 | 48 |
| 地祇神社 | ちろくじんじゃ | H0049 | 129 |
| 地祇神社(イチイガシ) | ちろくじんじゃのいちいがし | H0085 | 135 |
| 築地塙があったと思われる場所 | ついでべいがあったとおもわれるばしょ | E0085 | 72 |
| 塚 | つか | F0093 | 101 |
| 父子島(ててこじま) | ててこじま | H0001 | 124 |
| 伝「鶴の籠」の石 | でん つるのはかのいし | G0025 | 115 |
| 伝衣塔(でんえとう) | でんえとう | B0081 | 37 |
| 天神の森 | てんじんのもり | H0030 | 127 |
| 天拝橋(てんばいきょう) | てんばいきょう | A0062 | 19 |
| 天満宮一の鳥居(開屋の鳥居) | てんまんぐういちのとりい | F0051 | 94 |
| 導水トンネル(安の浦池から学業地区へ) | どうしとんねる | F0148 | 109 |
| 導水トンネル(新山の井池導水トンネル入口) | どうすいとんねる | F0120 | 104 |
| 東蓮寺橋(とうれんじばし) | とうれんじばし | G0006 | 113 |
| 道路更正碑 | どうろこうせいひ | F0096 | 101 |
| 道路造成(田中-松本線)記念碑 | どうろこうせいきねんひ | E0066 | 69 |
| 時の記念日の行事 | ときのきねんびのぎょうじ | F0127 | 105 |
| 都督府古趾 | ととくふこせき | F0072 | 98 |

| | | | |
|-----------------------|--------------------------|--------|-----|
| 「とののくら」の名称表示 | とののくらのめいしょうひょうじ | G0045 | 118 |
| 飛梅の原木 | とびうめのげんぼく | G0026 | 115 |
| 都府楼教員住宅 | とふろうきょういんじゅうたく | G0022 | 114 |
| 都府楼団地夏祭り | とふろうだんちなつまつり | G0023 | 115 |
| 都府楼道路開通記念碑 | とふろうどうろかいつうきねんひ | F0066 | 97 |
| 都府楼之址従是老町碑 | とふろうのあとこれよりいっちょうひ | F0065 | 96 |
| 都府楼橋(とふろうばし) | とふろうばし | F0088 | 100 |
| 都府楼橋碑 | とふろうばしひ | F0087 | 100 |
| ドクサンヤネのセندگان | どろくさんやねのせんだん | G0051 | 119 |
| どろんこ祭り | どろんこまつり | E0171 | 81 |
| ■な行 | | | |
| 長浦遺跡(ながうらいせき) | ながうらいせき | H0069 | 132 |
| 夏祭り | なつまつり | D0029 | 56 |
| 成屋形遺跡(なりやかたいせき) | なりやかたいせき | E0147 | 78 |
| 成屋形地下道(太宰府市-01) | なりやかたちかどう | E0159 | 79 |
| 西島伊三雄風景(実洞山)画(油絵) | にしじまいさおふりけいが | D0009 | 54 |
| 西ノ池 | にしのみけ | E0060 | 68 |
| 二のイデ | にのいで | A0005 | 11 |
| 日本経済大学 | にほんけいざいだいがく | C0011 | 48 |
| ヌノハエ石(推定) | ぬのはえいし | B0076 | 36 |
| 野口地下道(太宰府市-03) | のぐちかどう | E0165 | 80 |
| ■は行 | | | |
| 旗立石 | はたたていし | B0083 | 37 |
| 旗立石(日吉神社) | はたたていし | F0151 | 109 |
| 八幡宮淫拝所 | はちまんぐうようはいじょ | H0026 | 127 |
| 八潮の千燈明 | はっさくのせんとうみょう | B0079 | 37 |
| 八反田イデ | はったんだいで | A0043 | 17 |
| 八反田地下道(太宰府市-04) | はったんだかどう | E0149 | 78 |
| 八反田橋(はったんだばし) | はったんだばし | A0044 | 17 |
| はね石 | はねいし | A0018 | 13 |
| 原遺跡 | はらいせき | B0105□ | 40 |
| 原八坊中堂跡 | はらはちぼうちゅうどうあと | B0101□ | 39 |
| 原八坊本堂跡 | はらはちぼうほんどうあと | B0020 | 28 |
| 半田橋(はんだばし) | はんだばし | G0002 | 113 |
| 般度の滝 | はんだのたき | F0149 | 109 |
| 般若寺跡 石造七重塔 | はんにゃじあと せきぞうななじゅうのとう | G0030 | 116 |
| 本殿拝殿(日吉神社) | ほんでん(ひよし)じんじや | F0109 | 103 |
| 東ヶ丘だより | ひがしがおかだより | D0028 | 56 |
| 東ヶ丘団地簡易郵便局の開設 | ひがしがおかだんちかんいゆうびんきょくのかいせつ | D0030 | 56 |
| 東谷口築堤碑 | ひがしだにくちちくていひ | F0139 | 107 |
| 東の陵(東蓮寺跡、薬師山) | ひがしのりょう | G0007 | 114 |
| 引陣地蔵(ヒキジジノウ) | ひきぢじぞう | E0116 | 76 |
| 毘沙門堂 | びしゃもんどう | B0025 | 28 |
| 毘沙門堂 | びしゃもんどう | H0034 | 128 |
| 毘沙門まいり | びしゃもんまいり | E0148 | 78 |
| 毘沙門詣りの道(現在の道) | びしゃもんまいりのみち | E0182 | 83 |
| 毘沙門詣りの道1(旧道から) | びしゃもんまいりのみち1 | E0177 | 82 |
| 毘沙門詣りの道3(裏ノ田池～みどり公園) | びしゃもんまいりのみち3 | E0179 | 83 |
| 毘沙門詣りの道4(水城団地内に残る道) | びしゃもんまいりのみち4 | E0180 | 83 |
| 毘沙門詣りの道5(壘山口) | びしゃもんまいりのみち5 | E0181 | 83 |
| 毘沙門天の鳥居 | びしょもんてんのとりい | B0111 | 41 |
| 毘沙門詣りの道2(裏ノ田地下道～裏ノ田池) | びしょもんまいりのみち2 | E0178 | 83 |
| 日田街道 | ひたかいどう | E0033 | 63 |
| 日田街道(博多往還) | ひたかいどう | E0047 | 66 |
| ヒトツバタゴ | ひとつばたご | B0125 | 43 |
| ひともっこ山(跡) | ひともっこやま | E0034 | 64 |
| 火の尾跡(推定) | ひのおあと | E0011 | 61 |
| 日焼遺跡(ひやけいせき) | ひやけいせき | H0070 | 133 |

太宰府市文化遺産情報

索引【は・ま行】

| | | | |
|-------------------------|--------------------------------------|-------|-----|
| 福岡県立太宰府病院 | ふくおかけんりつたださいふびょういん | C0009 | 48 |
| 福岡女子短期大学・福岡国際大学 ブケ遺跡 | ふくおかじょしたんきだいがく・ふくおかこくさいだいがく ふけいせき | C0007 | 48 |
| 普賢道修繕費寄付表 | ふげんどうしゅうぜんひききふひょう | H0063 | 131 |
| 普賢橋(ふけんはし) | ふけんばし | B0021 | 28 |
| 普賢菩薩堂 | ふげんぼさつどう | B0002 | 25 |
| 文庫部 | ぶんこぶ | B0007 | 26 |
| 別所2号橋 | べつしょにごうはし | D0024 | 55 |
| 宝満宮・八幡宮 | ほうまんぐう・はちまんぐう | A0022 | 14 |
| 宝満宮・八幡宮の年間諸祭 | ほうまんぐう・はちまんぐうのねんかんしよさい | H0025 | 127 |
| 宝満宮旗立石 | ほうまんぐうはたたていし | H0065 | 132 |
| 宝満山 | ほうまんざん | H0021 | 126 |
| 宝満山橋 | ほうまんざんばし | A0080 | 21 |
| 宝満神社の宮座 | ほうまんじんじやのみやざ | A0003 | 11 |
| 鉢ノ浦溜池築造之碑 | はつのうらためいけちくぞうのひ | H0086 | 135 |
| 本殿時台座(菅原神社) | ほんでんあそだいざ | C0010 | 48 |
| ポンプ式井戸 | ぼんぷしきいど | G0033 | 116 |
| | | H0047 | 129 |
| ■ま行 | | | |
| 前田公園地下遺跡 | まえだこうえんちかひせき | H0035 | 128 |
| 街角と高台からの眺望 | まちかどとたかだいからのちようぼう | D0025 | 56 |
| 街角と高台からの眺望 | まちかどとたかだいからのちようぼう | D0026 | 56 |
| 街角と高台からの眺望 | まちかどとたかだいからのちようぼう | D0027 | 56 |
| 松川貯水池(松川(まつごう)ダム) | まつごうちゅうすいち | A0074 | 21 |
| 松川橋(まつごうばし) | まつごうばし | A0061 | 19 |
| 松川道(まつごうへのみち) | まつごへのみち | B0102 | 40 |
| マムシの生息地 | まむしのせいそくち | G0044 | 118 |
| 丸山神社 | まるやまじんじや | H0036 | 128 |
| 丸山神社の年間諸祭 | まるやまじんじやのねんかんしよさい | H0084 | 135 |
| 丸山神社の宮座 | まるやまじんじやのみやざ | H0087 | 135 |
| 万葉歌碑(妹が見し…) | まんようかひ | B0048 | 32 |
| 万葉歌碑 娘子児島・大納言大伴卿 | まんようかひ | E0167 | 81 |
| 万葉歌碑 大伴旅人(世の中は…) | まんようかひ | F0024 | 90 |
| 万葉歌碑 大武祀卿(正月立ち…) | まんようかひ | F0027 | 91 |
| 万葉歌碑 大伴旅人(やすみしし…) | まんようかひ | F0067 | 97 |
| 万葉歌碑 小野老(あをによし…) | まんようかひ | F0068 | 97 |
| 万葉歌碑 山上憶良(子等を思ふ歌) | まんようかひ | F0083 | 99 |
| 三浦潮井碑 | みうらおしおいのひ | B0004 | 25 |
| 三浦の碑(五条) | みうらのひ (ごじょう) | C0003 | 47 |
| 三浦橋 | みうらばし | B0001 | 25 |
| 御笠川のゴム製井堰 | みかさがわのごむせいいざき | E0122 | 76 |
| 御笠北高等小学校之跡の碑 | みかさきたこうとうしょうがっこうあとこのひ | F0055 | 95 |
| 御笠団印出土地周辺遺跡 | みかさだんいんしゅつどちしゅうへんいせき | F0131 | 106 |
| 身代地蔵菩薩(屋敷神) | みがわりじぞうぼさつ | E0062 | 68 |
| 水瓶山(雲龍神)祠と石 | みずかめやまほくらといし | B0010 | 26 |
| 水瓶山道標 | みずかめやまみちしるべ | B0026 | 28 |
| 水城跡 | みずきあと | E0145 | 77 |
| 水城跡 | みずきあと | H0062 | 131 |
| 水城跡(東門側) | みずきあと (ひがしもんがわ) | E0036 | 64 |
| 水城跡・線路切り通し | みずきあと・せんろきりとし | H0064 | 132 |
| 水城跡石碑及び関連施設 | みずきあとせきひおよびかんれんしせつ | E0037 | 64 |
| 水城瓦葺跡 | みずきかわらがまあと | E0040 | 65 |
| 水城経塚 | みずききょうづか | H0068 | 132 |
| 水城大堤之碑 | みずきたていのひ | E0042 | 65 |
| 「水城堀」平成16年7月豪雨被害跡 | みずきていへいせいじゅうごねんしちがつごうりひがいのあと | H0003 | 124 |
| 水城展望台(水城南西方向を見る) | みずきてんぼうだい | E0032 | 63 |
| 水城西門跡 | みずきにしもんあと | H0005 | 124 |
| 水城の間(水城東門の礎石) | みずきのせき | E0051 | 66 |
| 水城の渡し跡 | みずきのわたし | E0027 | 63 |
| 水城堀(みずきばし) | みずきばし | E0029 | 63 |

| | | | |
|-----------------|-----------------------------|-------|-----|
| 水城村からの道 | みずきむらからのみち | E0164 | 80 |
| 「水城」銘 墨書土器発見場所 | みずきめいぼくしよどきはつげんばしよ | E0039 | 64 |
| 水城木樋跡(東門) | みずきもくひあと | E0038 | 64 |
| 水手(今、田アリ) | みずて | B0112 | 41 |
| 宮座祭 | みやざさい(ちろくじんじゃ) | H0081 | 134 |
| 宮座祭 | みやざさいのきろく(ちろくじんじゃ) | H0080 | 134 |
| 宮ノ本遺跡 | みやのもといせき | H0058 | 131 |
| 宮原原作翁顕彰碑 | みやはらげんさくおきなけんしやうひ | H0046 | 129 |
| ミョウカクイデ | みょうかくいで | A0040 | 16 |
| 妙見祠(町方) | みょうけんほこら(まちかた) | E0152 | 78 |
| 妙見祠(村方) | みょうけんほこら(むらかた) | E0010 | 61 |
| 民家の敷地を通る道 | みんかのしきちをとおるみち | E0061 | 68 |
| 向佐野地下歩道 | むかいざのちかほどう | H0072 | 133 |
| 向佐野地区小祠・仏堂の信仰行事 | むかいざのちくしやうほこら・ぶつどうのしんこうぎやうじ | H0076 | 134 |
| 昔の水路(トンネル入口) | むかしすいろ | E0157 | 79 |
| 昔の水路(トンネル出口) | むかしすいろ | E0158 | 79 |
| 昔の洗濯場(岩路川) | むかしのせんたくば | B0116 | 42 |
| ムクノキの巨木3本 | むくのきのきよぼくさんばん | E0095 | 73 |
| ムマノセ | むまのせ | B0123 | 43 |
| 明治百年記念碑 | めいじひゃくねんきねんひ | E0084 | 72 |
| もちの木 | もちのき | G0042 | 117 |
| 門ノ石スエ | もんのはしすえ | F0138 | 107 |
| ■や行 | | | |
| 薬師堂 | やくしどう | E0142 | 77 |
| 薬師如来堂 | やくしにやらいどう | B0022 | 28 |
| 薬師如来・伝教大師・弘法大師 | やくしにやらいどう・でんきやうたいし・こうぼうたいし | B0106 | 40 |
| 山の井池石塔群 | やまのいけせきとうぐん | F0118 | 104 |
| 山の神 | やまのかみ | A0002 | 11 |
| 山伏墓(五条) | やまぶしのはか(ごじやう) | C0014 | 48 |
| やんぶの墓(山伏塚) | やんぶのはか | F0012 | 88 |
| 湧水取水口 | ゆうすいしゆすいぐち | A0023 | 14 |
| 由来不詳の石造物(2) | ゆらいふしやうのせきぞうぶつ | B0126 | 43 |
| 由来不詳の石造物(1) | ゆらいふしやうのせきぞうぶつ 1 | E0012 | 61 |
| 由来不詳の石造物(4) | ゆらいふしやうのせきぞうぶつ 4 | E0003 | 60 |
| 横岳山崇福寺跡(勝禪寺跡) | よこたけやまそうふくじ | F0129 | 106 |
| 小祠、仏堂の信仰行事(古松) | よしまつしやうほこら、ぶつどうのしんこうぎやうじ | H0066 | 132 |
| 吉松松木遺跡 | よしまつまつもといせき | H0057 | 130 |
| 夜泣き石地藏堂 | よなきいしじぞうどう | B0016 | 27 |
| ■ら行 | | | |
| 龍上げの道 | りゅうあげのみち | B0014 | 27 |
| 龍頭不動明王院 | りゅうとうふどうみやうおういん | A0058 | 18 |
| 連歌原橋(れんがやばし) | れんがやばし | B0039 | 30 |
| ■わ・を | | | |
| 若宮様(石塔) | わかみやさま | H0020 | 126 |
| 若宮神社 | わかみやじんじゃ | E0098 | 73 |
| ワモナ石 | をもないし | F0005 | 87 |



太宰府市の文化財 第115集

太宰府市文化遺産情報 1

—文化遺産からはじまるまちづくり—

(未来の市民に伝えたい「今」)

平成24(2012)年3月

発行 太宰府市教育委員会

〒818-0198

福岡県太宰府市観世音寺1丁目1番1号

印刷 ㈱三光 福岡営業所

〒812-0015

福岡市博多区山王一丁目14-4